

岡山県立大学 社会貢献年報2015



社会貢献年報 2015 の発刊にあたって

岡山県立大学
学長 辻 英明

本学は、1993 年に開学し、これまで有為な人材を輩出してきました。2005 年に本学の社会貢献の拠点となる組織として地域共同研究機構を設置し、当該機構は、産学官連携推進センター、保健福祉推進センター、認定看護師教育センターならびに地域連携推進センターから構成されており、企業との共同研究や技術相談などの推進、地域で活躍する保健福祉分野の専門家のレベルアップや地域保健福祉の向上のための支援活動、糖尿病専門の看護師の養成、地域が期待する産業の活性化や学術・文化の振興等の地域貢献を行っています。

昨年度、文部科学省における地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)に、本学を代表校とする「地域で学び、地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」が採択されました。本事業は、教育改革、域学連携、産学連携の3つの取り組みで構成され、岡山県下の大学とチームを組み、岡山県下の自治体、岡山県の経済団体などと連携し、地域で活躍できる人材を育成して地方創生につながる取り組みを行い、地元定着率を高めることを目的としています。教育改革では、副専攻として岡山創生学を設け、学生を地域社会と交流させ、いわば地域連携教育を通して地域で活躍できる人材育成を行い、域学連携では、自治体や民間と協働して子育てや高齢者支援などを通して住みやすい地域づくりに貢献し、産学連携では、地場産業支援に加え、企業の情報と学生の要望を取り入れた雇用マッチングシステムを開発して雇用創出と地域への就職推進の環境整備を行います。今後、本学は、本事業を通じて、学生参加のもとで地域連携教育を実施するとともに、従来の活動とは異なった地域連携活動を積極的に推進します。なお、認定看護師教育センターはその役割を果たしたということで、昨年度末をもって廃止しました。

毎年、本学の社会貢献の活動をまとめて社会貢献年報として公表しています。

この社会貢献年報 2015 は、企業及び地域住民の立場に立って、平成 27 年度(2015 年度)の社会貢献活動をまとめて編集したものです。皆様には、この社会貢献年報 2015 をご高覧頂き、本学の社会貢献活動について理解を深めていただきますことをお願いいたします。

今後も、地域から期待され、地域に貢献する大学を目指して、さらに充実した社会貢献活動を行いますので、皆様のご支援をお願い申し上げます。

2016 年 5 月

目 次

社会貢献年報 2015 の発刊にあたって

1	本学の社会貢献についての概要	1
2	「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」	3
2. 1	COC+事業とは	4
2. 2	本学が代表校として申請する背景	5
2. 2-1	地域の課題	5
2. 2-2	COC+大学の代表校となることの必要性・重要性	5
2. 3	採択された事業の内容	7
2. 3-1	事業の目的	7
2. 3-2	事業の概要	7
2. 3-3	協働地域と協働機関	8
2. 3-4	実施体制	9
2. 3-5	教育改革に関する事業概要	11
2. 3-6	域学連携に関する事業概要	12
2. 3-7	産学連携に関する事業概要	14
2. 4	平成27年度の実績	16
2. 4-1	概要	16
2. 4-2	実施体制の整備	19
2. 4-3	委員会、シンポジウム等の開催	22
3	地（知）の拠点としての活動	27
3. 1	地域への貢献	28
3. 1-1	公開講座	28
3. 1-2	岡山県生涯学習大学主催講座	30
3. 1-3	アクティブキャンパス	33
3. 2	行政への貢献	46
3. 2-1	岡山県への貢献	46
3. 2-2	市町村への貢献	47
3. 2-3	各種委員・講師の応嘱（行政関係）	49
3. 2-4	共同研究・受託研究等（行政関係）	53
3. 3	企業等への貢献	54
3. 4	人材の育成	55

3. 4-1	保健福祉学部.....	55
3. 4-2	情報工学部.....	61
3. 4-3	デザイン学部.....	63
3. 5	その他の貢献.....	65
3. 5-1	各種委員等への派遣（行政関係以外）.....	65
3. 5-2	職員表彰.....	66
4	県立大学の組織と活動.....	69
4. 1	地域共同研究機構.....	70
4. 1-1	体制.....	70
4. 1-2	領域・研究プロジェクト活動.....	71
4. 1-3	OPU フォーラム 2015.....	72
4. 1-4	情報発信.....	78
4. 2	産学官連携推進センター.....	80
4. 2-1	企業等と連携した研究活動.....	80
4. 2-2	アクティブ・ラボ.....	82
4. 2-3	学外組織との連携・協働活動.....	83
4. 3	地域連携推進センター.....	88
4. 3-1	センターの新設にあたって.....	88
4. 3-2	主な活動実績.....	89
4. 4	保健福祉推進センター.....	94
4. 4-1	晴れの国鬼ノ城カレッジ.....	94
4. 4-2	各種研究会活動.....	95
4. 4-3	一日保健福祉推進センター.....	107
4. 4-4	岡山県立大学子育てカレッジ.....	109
4. 5	認定看護師教育センター.....	113
4. 5-1	平成27年度の実績.....	113
4. 5-2	5年間の成果と今後の展望.....	113
5	外部資金.....	117
5. 1	平成27年度の実績.....	118
5. 2	科学研究費.....	120
5. 3	今後の課題.....	120

1. 本学の社会貢献についての概要

大学の責務は、教育・研究・社会貢献である。社会貢献に関しては学校教育法及び教育基本法の平成18年・19年の改正で、「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」に加えて、「成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。」とされている。本学では、教養教育改革、グローバル化及び地域貢献の3つの運営方針を掲げているが、その内の一つの地域貢献に戦略的に取り組むためには、自治体・産業界等との連携を密にし、地域が抱える課題の解決に向けて地域を志向した教育、研究、社会貢献活動を進める必要がある。折しも平成26年度の文部科学省の地(知)の拠点整備事業(大学COC(センター・オブ・コミュニティ)事業)の申請を契機に、その活動の枠組みを整備するために、既に包括協定を締結している総社市に加えて、新たに笠岡市、備前市、真庭市と連携協定を平成26年7月に締結した。さらに本学が、地域コミュニティの中核的存在としての機能を強化するために、平成27年4月に「地域連携推進センター」を新設し、連携協定締結している4自治体との連携活動の強化推進並びに各自治体等における地域課題の掘り起こしと、その課題解決に向けた取り組みを強力に推進している。

とくに平成27年度では大学COC事業の発展版として、COC+事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(地(知)の拠点COCプラス)」に本学が代表校として「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」が採択された。本事業は、おかやま創生に向け、産学官民が一体となってオール岡山(本学を含め29機関)で進める人材育成の事業である。教育改革、域学連携及び産学連携による活動を通じて、若者の地域連携教育を実践し、地域の活性化とともに、地域を志向する人材の輩出及びこれら人材の受け皿づくりを行うことで、若者の地元岡山への定着を図るものである。本学は、公立大学の設置の使命からも、地方創生を県レベルで推進するための県の代表校として本事業を本学運営の戦略的地域貢献の中核として位置付け、地域の要望に応じた人材育成を推進している。

本学では、自治体や企業等のニーズに応えることを基本に、課題発見・解決のためのイノベーションにつながる取り組みとして、教員の豊富な研究シーズや知識・技術をベースに、さらに異分野複数教員の共同研究による全国的な競争資金及び学内特別資金を活用した実用化基盤研究「領域・研究プロジェクト」や教員とコーディネータが積極的に地域社会に出かけていく「アクティブ・ラボ(出前研究室)」等を推進している。平成27年度のアクティブ・ラボの実績は40回で、共同研究も47件で件数・金額ともに過去最高を記録した。また、県民の健康づくり支援や産学官民協働による子育て支援、糖尿病看護認定看護師の育成、超高齢社会における福祉・健康の増進など、地域に根ざした活動で着実に実績を上げている。

本学は、岡山の地(知)の拠点として地域社会とともに成長し、岡山県民の誇りとなる公立大学として、地域を担う人材育成を強く意識し、地域を志向し貢献する所存である。

2. 「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」

2. 1 COC+事業とは

2. 2 本学が代表校として申請する背景

2. 3 採択された事業の内容

2. 4 平成 27 年度の実績

2.1 COC+事業とは

日本が世界に先駆けて迎えている少子・超高齢化社会において、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』ことが危惧されている。このことに加え、地方と東京の経済格差拡大は益々進行しており、とりわけ、大学入学時及び大学卒業・就職時の若い世代が、魅力ある職を求め、地方から東京圏へ流出することを助長させていることが指摘されている。

文部科学省は、平成25年度から地域再生・活性化の拠点となる大学の形成を推進するために、「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に取り組んできた。平成27年度からは、この事業を発展させ、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、地方公共団体や企業等と協働し、学生にとって魅力ある就職先を創出・開拓するとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援する事業に取り組むこととなった。この事業が「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」である。COC+事業の概念を図1（公募要領から引用）に示す。

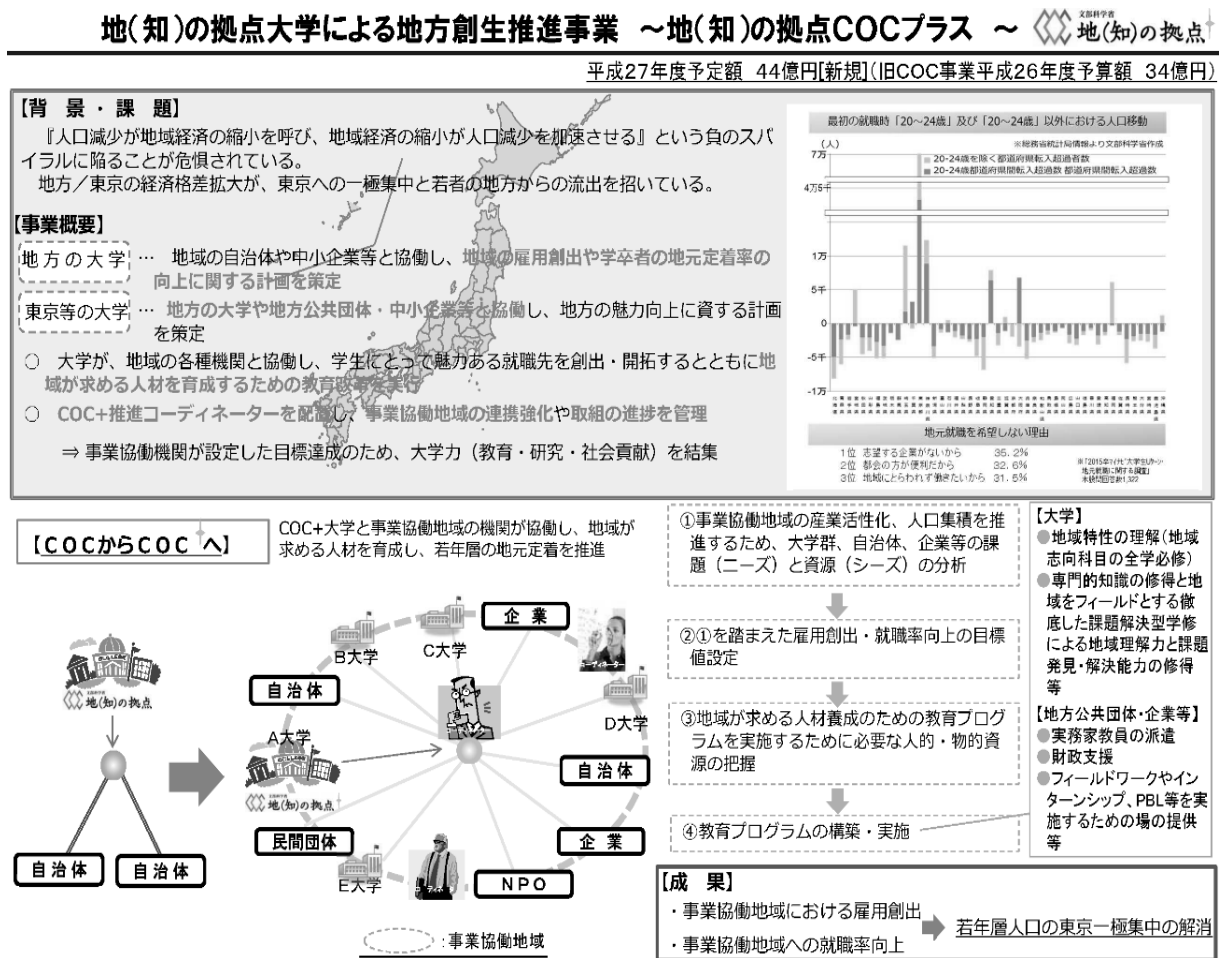


図1：COC+事業の概念図

2.2 本学が代表校として申請する背景

2.2-1 地域の課題

岡山県の人口は、平成17年の196万人をピークに減少に転じており、平成52年には161万人になるとの国立社会保障・人口問題研究所の推計がある。若年層を含む生産年齢世代（15～64歳）の人口減少は年平均13,000人（過去5年）を超え、また平成26年10月1日現在の岡山県の高齢化率は28.0%と全国平均（26.0%）より2ポイント高い水準で推移している。このような県の人口の減少や高齢化は更に進行する傾向であり、そのため（1）若年労働者不足による既存産業維持の危機、（2）高齢者支援や子育て支援を含めた地域の魅力あるまちづくり等を踏まえた新しい社会基盤整備による歯止めや人口流入対策が急務になっている。その対応として、岡山県は平成26年に「晴れの国おかやま生き生きプラン」を策定し、「教育県岡山の復活」、「地域を支える産業の振興」及び「安心で豊かさが実感できる地域の創造」を重点戦略と位置付け、取組みを推進してきた。また現在は、国の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案した「おかやま創生総合戦略素案」を策定し、岡山県が持続的に発展するためのプランニングをしているところである。この素案では、「若い世代の希望をかなえる少子化対策の推進（自然減対策）」「人を呼び込む魅力ある郷土岡山づくり（社会減対策）」、地域の持続的発展のための「経済力の確保」「活力の維持」を基本目標として、岡山創生への取組みを推進することとしている。

総社市においては、少子高齢化が進行する昭和地域の基盤整備及び活性化、子育て支援体制の充実が早急に対応すべき重要な取組みとして位置付けられている。笠岡市においては、少子高齢化が進行する瀬戸内海の笠岡諸島の看護・介護・医療・教育体制及び島の活性化の課題があげられており、備前市においては、食育を通じた子どもから高齢者までの市民の健康づくり、地域再生・活性化が求められている。真庭市においては、安定した経済基盤を確立するため、産業の育成による就業環境の多様化と質の向上の必要がある。また、市内の企業や団体、学校機関、金融機関や市外の大学等との連携を進めているが、まちづくりに生かしきれていない、という問題を解決する必要がある。

2.2-2 COC+大学の代表校となることの必要性・重要性

本学は、平成5年に岡山県を設置者として「人間尊重と福祉の増進」を建学理念に掲げ、保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部の3学部で開学された。また、学則第1条の目的では「岡山県立大学は、他の教育研究機関及び地域社会との自由かつ緊密な交流連携のもとに、人間・社会・自然の関係性を重視する実学を教授研究するとともに、知性と感性を育み、豊かな教養と深い専門性を備えて新しい時代を切り拓く人材の育成を図り、もって学術文化の進展及び地域産業の振興に寄与することを目的とする」としていることから明らかなように、建学当初から地域の大学として関係諸機関との緊密な

協力関係の下に人材育成を行うことを使命としてきた。第 2 期中期計画（平成 25 年 4 月～平成 31 年 3 月）においても、「時代の要請や社会・経済情勢の変化を捉えながら、地域に根差し、県民の期待に応える魅力ある大学として、さらに発展する」と宣言し、地域志向の大学としての立場を一層明確にしており、地方創生は本学の最も重要な使命と位置付けている。上述した岡山県の「おかやま創生総合戦略素案」においても、本学に地域の教育力の一翼を担う魅力ある大学としてさまざまな地域貢献活動を行いつつ、新しい時代を切り拓く知識と高度な技術を身につけた実践力のある人材を養成することが求められおり、岡山県や県下の自治体、県内企業等と協働して岡山創生事業の一翼を担うことは、岡山県立大学の使命となっている。このように今回の COC+事業に参加する大学の中で、本学はその成り立ちと使命から、また、地域との関わりを最重要視してきた大学として、代表校として地域創生に関わるのに最も適した資質と資源を有している。

今回、事業協働機関の大学として、岡山大学、岡山理科大学、ノートルダム清心女子大学、就実大学、山陽学園大学に加え COC 既採択校である吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学が参加する。岡山県の 4 年制大学 17 校のうち、1 校を除き、全てが大学コンソーシアム岡山に参加して大学教育に関する各種事業（単位互換、高大連携、学生支援等）を共に推進している。その様な観点から常日頃から交流があり地域志向教育に熱心であるコンソーシアム加盟大学に呼び掛け、今回の本学が県や県下の自治体と密接に連携して展開する COC+事業の目的の共有、事業への協力への賛同を得て組織化を行った。自治体では設置者である岡山県、既に包括協定を締結して協働を進めている総社市、笠岡市、備前市、真庭市が参加する。岡山県とは県立大学として従来から密接な関係を保ち更に相互協力の関係を発展させることに同意しており、その参加は必須である。また、総社市とは平成 20 年に、笠岡市、備前市、真庭市とは平成 26 年に包括協定を結んでおり、従来からの協働関係をこの事業を契機に飛躍的に発展させることで合意している。今回、岡山市、倉敷市及び高梁市は、COC+参加校との関係が深いことから事業協働機関として COC+事業目的を共有することに賛同している。NPO は各市で既に活動している団体が協力を表明しており、大学、自治体、NPO の三者が協働して事業の実を上げる計画である。企業については、従来は個別企業との関係が主であったが、今回は県の関係機関や産業団体との関係を新たに構築し、教育、産業創生に一体で当たる計画である。

2.3 採択された事業の内容

2.3-1 事業の目的

本事業では、岡山県の「晴れの国おかやま生き生きプラン」(平成26年度から3年間)及び「おかやま創生総合戦略素案」(平成27年6月時点)に即し、事業協働自治体個々の政策課題も取り込みながら、学長のリーダーシップの下、これまで本学が取り組んできた教育改革、域学連携、産学連携活動を発展させ、県内自治体、大学、企業、団体等と協働し、全学的な地域志向事業を推進することによって、若者の事業協働地域就職率を平成26年度の実績に対して全体で10%向上させることを目的とする。

そのために、県、自治体の地域戦略を反映した下記の3つの目標を設定し、「教育改革」「域学連携」「産学連携」活動を進める中で、それらを相互に連携させながら、事業期間内を通して若者の地域定着を進める産・学・官・民協働の基盤を整備し、地域で学び、地域で未来を拓く“生き生きおかやま”を創生できる人材を育成する。

【目標Ⅰ】地域の未来を切り拓く知識と高度な専門性を身につけた実践力のある人材の養成(教育改革)

【目標Ⅱ】子育て支援、教育支援、高齢者・障害者支援等により、安心して生活することのできる魅力ある地域づくり(域学連携)

【目標Ⅲ】岡山県内の市町村の共通課題である観光振興、中小企業への技術支援、ヘルスケアの研究開発等を通じた雇用創出(産学連携)

2.3-2 事業の概要

「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」は、若者の地元定着率の10%向上を目的として、教育改革、域学連携及び産学連携により地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを行う事業である。教育改革では、岡山創生学を副専攻として新設して、実践的な専門性と高い地域志向を有する人材の育成を図る。また、平成29年度に導入するクォーター制も見据えながら長期インターンシップやボランティアに係る科目を開講・実施する。域学連携では、自治体、NPO等と協働で子育て、高齢者・障害者支援等を実践し、住み易い地域づくりに貢献する。産学連携では、地場産業の支援による産業活性化を推進し、魅力的な雇用創出に努めるとともに、雇用マッチングシステムを開発することで雇用開拓と若者の地域への就業機会を拡大する。そして、協働機関との連携の場として地域創生コモンズを設置し運営する。

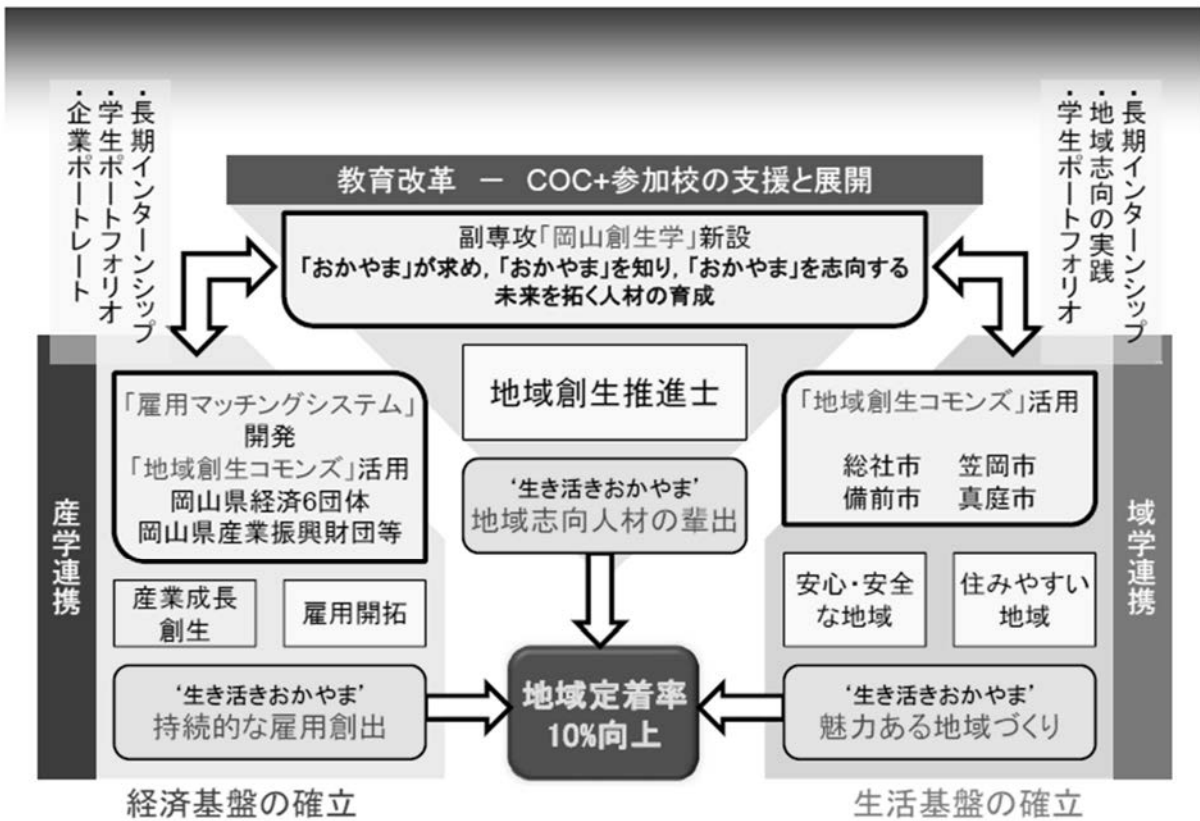


図 2.3-1 : 事業の概要

2.3-3 協働地域と協働機関

(1) 協働地域

事業協働地域として岡山県全域を設定している。岡山県は、備前、備中、美作の3つの大きな地域に分けられていることから、それぞれに活動の拠点となる自治体を設定した。そこで、本学と連携協定を締結している総社市と笠岡市、備前市及び真庭市を、それぞれ、備中、備前及び美作での拠点とした。さらに、岡山市（平成28年度から参画予定）、倉敷及び高梁市を加えた地域を中心として、COC+事業を遂行する。



図 2.3-2 : 協働地域

(2) 協働機関

本 COC+事業の目的や趣旨に対して、上述した自治体以外に岡山県下の高等教育機関、産業界等の多数の機関に賛同いただいた。本事業を協働機関として実施する機関は下記の通りである。

【自治体】岡山県、総社市、笠岡市、備前市、真庭市、岡山市、倉敷市、高梁市

【大 学】岡山大学、岡山理科大学、ノートルダム清心女子大学、就実大学、山陽学園大学、倉敷芸術科学大学（COC 既採択校）、くらしき作陽大学（COC 既採択校）、吉備国際大学（COC 既採択校）

【産業界等】岡山県経済団体連絡協議会、岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、一般社団法人岡山経済同友会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、岡山県産業振興財団、中国銀行、トマト銀行、岡山経済研究所、山陽新聞社、岡山 NPO センター

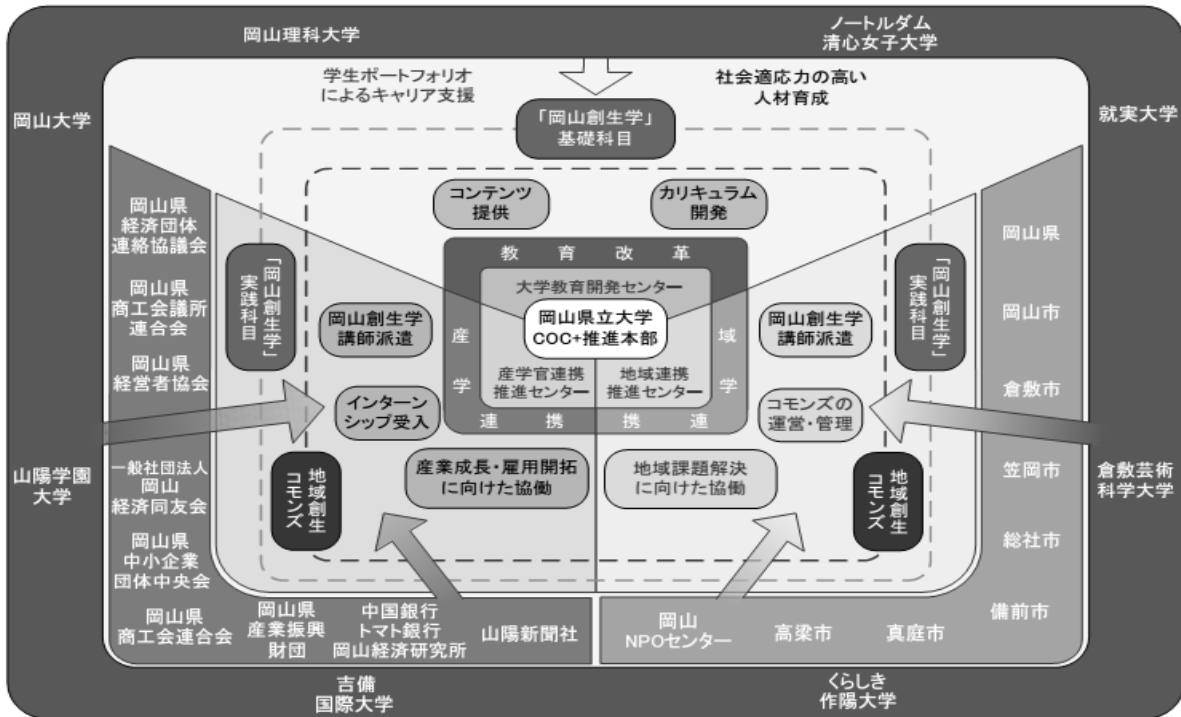


図 2.3-3 : 協働機関の役割

2.3-4 実施体制

本 COC+事業の協働機関による協議の場として、おかやま COC+推進協議会を設置する。さらに、おかやま COC+推進協議会に、本 COC+事業で最も重要な活動と位置付けられる「教育改革」に関する協議の場として、おかやま COC+教育プログラム開発委員会を設ける。また、本 COC+事業の評価を行う場として、おかやま COC+外部評価委員会を設ける。これらの協議会及び委員会の目的、業務、組織及び委員は以下の通りである。

おかやま COC+推進協議会

【目的】本 COC+事業に参加する高等教育機関、地方自治体、経済団体、企業及び NPO（以下「事業協働機関」という。）は、地方創生及び若者の地元定着率の向上のため、教育改革、域学連携及び産学連携により、地域を志向する人材の輩出とその受け皿づくりを一体となつて取り組むことを目的に、おかやま COC+推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

【業務】以下の業務を行う。

- (1) COC+事業の実施方針・事業計画の策定に関すること
- (2) COC+事業の実績の自己評価に関すること
- (3) 事業協働機関間の調整に関すること
- (4) その他 COC+事業に関し、必要な業務

【組織】本学及びすべての事業協働機関をもって組織する。

【委員】以下の通りである。

- (1) 岡山県立大学長
- (2) 岡山県立大学 地域共同研究機構長
- (3) 岡山県立大学 COC+推進室長
- (4) 岡山県立大学長が指名する岡山県立大学の教職員
- (5) 岡山県立大学を除く各事業協働機関の長が指名する者（原則として各 1 名）

おかやま COC+教育プログラム開発委員会

【目的】おかやま COC+推進協議会規約(第 5 条第 1 項の規定)に基づき、設置する。

【業務】以下の業務を行う。

- (1) 岡山創生学の企画立案及びその評価
- (2) オンデマンドコンテンツの企画立案及びその評価
- (3) 学生ポートフォリオシステムの企画立案及びその評価
- (4) 雇用マッチングシステムの企画立案及びその評価
- (5) 自治体及び企業でのインターンシップの企画立案及びその評価
- (6) その他教育プログラムに関する事項

【組織】本学、すべての参加大学、すべての参加地方自治体、岡山県中小企業団体中央会及び公益財団法人岡山県産業振興財団をもって組織する。

【委員】以下の通りである。

- (1) 岡山県立大学地域共同研究機構長
- (2) 岡山県立大学教育研究開発機構長
- (3) 岡山県立大学共通教育部長
- (4) 岡山県立大学大学教育開発センター長
- (5) 岡山県立大学大学教育開発センター副センター長

- (6) 岡山県立大学地域連携推進センター長
- (7) 岡山県立大学産学官連携推進センター長
- (8) 岡山県立大学長が指名する岡山県立大学の教職員
- (9) 前項第3号及び第4号の各事業協働機関の長が指名する者
(原則として1名)

おかやま COC+外部評価委員会

【目的】おかやま COC+推進協議会規約（第6条第2項の規定）に基づき、設置する。

【業務】以下の業務を行う。

- (1) おかやま COC+推進協議会の自己評価に基づいて行う COC+事業の実績評価の点検、及びその評価に関すること
- (2) その他評価に関し必要な事項に関すること

【組織及び委員】岡山県立大学長が指名する学外の有識者をもって組織する。

2.3-5 教育改革に関する事業概要

2.3-6で述べる域学連携の中で連携自治体（総社市、備前市、笠岡市、真庭市）に設置する「地域創生コモンズ」、産学連携の中で開発する「雇用マッチングシステム」を活用して、以下の改革に取り組む。

(1)「岡山創生学」科目群の開設

COC+大学では、地域を志向する教育プログラムとして、「岡山創生学」科目群を新設する。本科目群は、基礎と実践に大別される。基礎科目では、地域を知るために、社会連携に繋がる基礎知識の修得、地理、産業をはじめ岡山県の地域政策等を学ぶ。実践科目では、地域で学ぶために、地域学習の場である「地域創生コモンズ」での活動を通して、地域に内在する課題の発見と解決への過程についてアクション・ラーニングを通して学ぶ。実践科目のみならず、基礎科目においても、協働自治体やNPO団体から講師を派遣してもらうなど、本COC+事業における連携を活用し、教育理念「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」を体现する。

(2)平成29年度導入するクォーター制を活用した長期インターンシップシステムの開発

本COC+事業とは別に、COC+大学が平成29年度での導入を検討しているクォーター制を活用し、自治体、企業等に向けた、実施方法や評価方法、事前・最中・事後の学生指導をシステム化した「長期インターンシップ」（1ヶ月以上）を高年次に開設する。また、地元企業の魅力、技術力、発展性を自らの目で発見する機会としても位置付け、地域の未来を拓く情熱を涵養し、地域定着へと繋がるように教育プログラムの中で体系づける。

(3)「岡山創生学」科目群を実効性あるものにするための方策

「岡山創生学」科目群の学びを副専攻と位置付け、一定の課程を修了した学生には「地域創生推進士」の称号を与える。また、学生一人一人の学修過程を教員が指導できるように「学生ポートフォリオ」を導入する。「岡山創生学」科目の評価では、自治体、NPO団体の地域実践者からの視点を取り込めるようルーブリックを作成する。

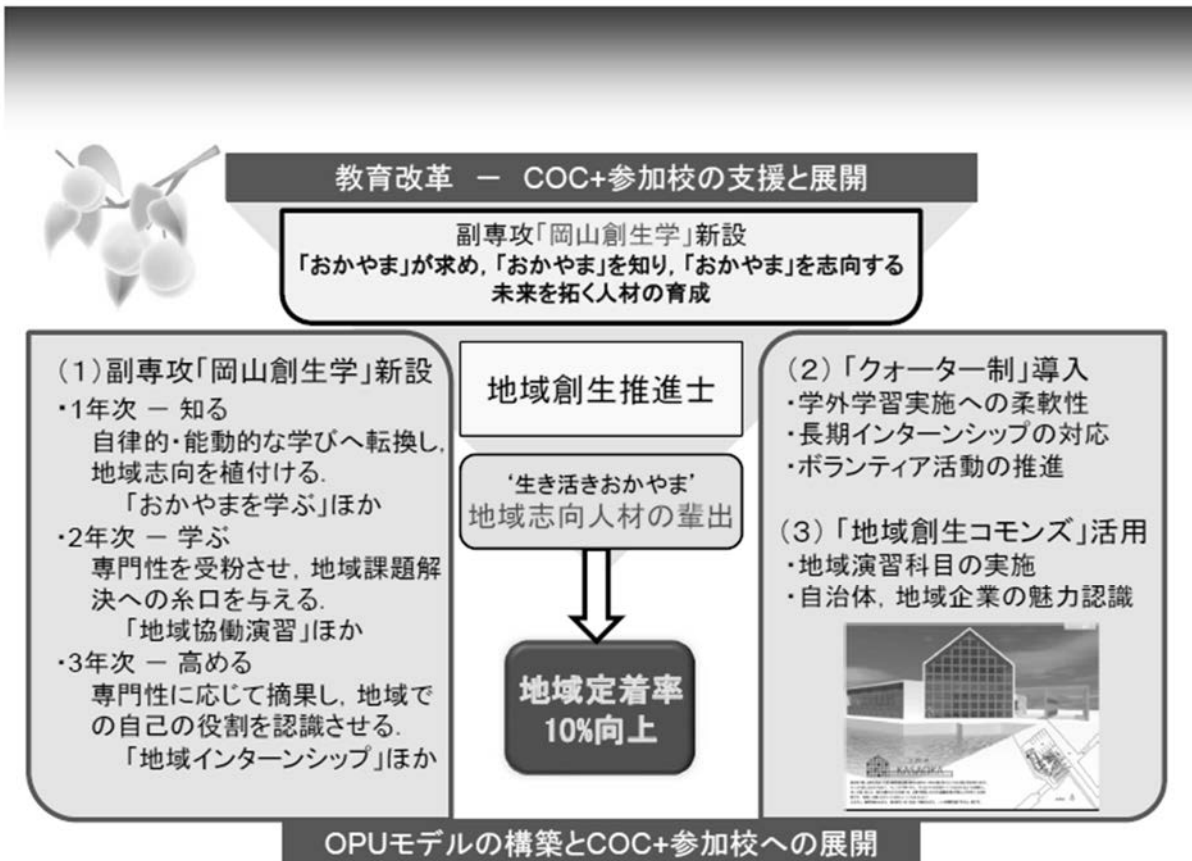


図2. 3-4：教育改革に関する事業概要

2. 3-6 域学連携に関する事業概要

(1) 地域創生commonsの設置と運営

連携自治体（総社市、備前市、真庭市、笠岡市）と大学が協働して教育改革、域学連携、産学連携の場となる「地域創生commons」を各連携自治体に設置する。地域協働の場である地域創生commonsの施設等のハード面の提供は自治体が行い、自治体と地域NPO団体等が協力して運営する。そこでは、「岡山創生学」科目群での授業のみならず、日常的に地域の様々なセクターの方々との対話、学習の場としての機能を持てるように体制を整備する。

(2)地域の課題の掘り起こしと解決

大学、自治体、NPO 団体及び地域が協議会等を設置し、公開講座、地域協働講座等を通して、課題の掘り起こしや解決策の検討を行う。これは、「岡山創生学」科目群における実践科目との連携も図りながら学生の参加も促し、地域を志向した教育も同時に推進する。また、正課外の活動として、連携自治体より要請のある小中高等学校への地域教育支援プログラムにも学生を参画させ、未来を担う子供たちとの小さな課題解決プロセスを共に学ぶ。

(3)研究シーズの有効利用による地域の活性化

COC+大学、COC+参加校のもつ研究シーズを、「地域創生コモンズ」を活用して地域の様々なセクターの人々と地域振興を考えるワークショップを開催することで地域貢献への道筋を議論する。地域防災活動、イベント等地域の活性化に資する活動を行う。重点テーマとして、従来からの継続事業に加え、自治体の要望にも沿った新しい事業にも取り組む。「子育て支援」、「困窮家庭の児童・生徒支援」、「高齢者・障害者支援健康づくりとモニター」、「食育支援」、「小中学生の学習支援」、「防災・減災支援」及び「まちづくり支援」等が挙げられる。

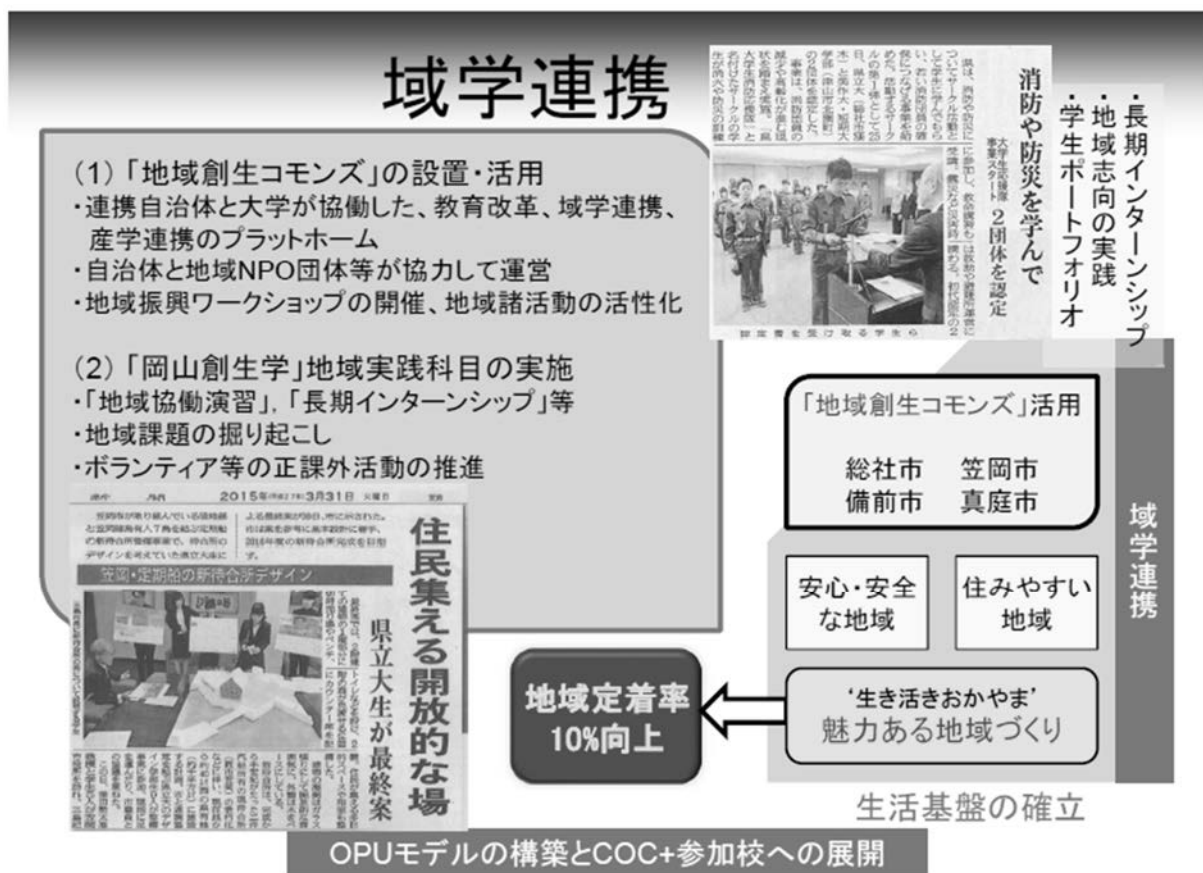


図2.3-5：域学連携に関する事業概要

2. 3-7 産学連携に関する事業概要

(1) 地域企業(中小企業・小規模事業者)の活性化による雇用創出

本学の研究資源やシーズを活かして地域産業の振興に資する諸活動を行う。ものづくり等における地域産業界のニーズに対し、本学の実績を活かしたデジタルエンジニアリングや商品・観光デザイン、保健福祉の専門性を活かしたヘルスケア、食品開発分野等とのマッチングを取り、共同研究や技術指導等を増加させて産業振興活動を展開し、地場産業の活性化、成長を図り、雇用創出を実現する。今までの取り組みの延長も活かしつつ、企業のニーズに応じて新規プロジェクトにも果敢に取り組む。

- ・デジタルエンジニアリング：シミュレーション技術、新材料、バイオマス、製造効率向上

岡山県工業技術センター、県内企業等と共同し、半導体材料の高機能化、金属材料の生産性向上、画像処理技術による製造工程管理など実用価値の高いシミュレーション技術の開発

- ・商品・観光デザイン：岡山県、県内自治体を対象とした観光振興

地域商工会・商工会議所、農・商・工等の各種事業者、NPOなどと連携した地域観光まちづくり組織体の支援、地域観光プログラム及び地域観光商品(土産等)の開発

- ・ヘルスケア：米粉麺の普及と商品化、ヘルスケア産業

東備耐火物粉碎技術を応用した低価格米粉製造法の開発及び新規 100%米粉麺の商品化とその普及、高齢者・障害者の生活支援、就労支援をサポートする福祉用具と支援システムの構築

また、技術講習会等への学生の参画を促進し、地域企業の認知度を向上させることにより、学生の地域定着率の向上を後押しする。

(2) 「雇用マッチングシステム」の構築と運用

雇用創出を実現するためには、地元企業の振興対策が重要であるが、数的に大きく、情報が十分でない県内の中小企業・小規模事業者の特性、特徴を「企業ポートレート」としてつぶさに洗い出して、雇用先リストに加えて行くことも重要である。「雇用マッチングシステム」とは「企業ポートレート」に基づく雇用先リストと、学生のキャリアに関する詳細なデータベースである「学生ポートフォリオ」のマッチングを効率的かつ的確に行うことのできるシステムであり、本COC+事業で構築し、全COC+参加校へも運用を拡大していく。

(3)長期インターンシップの実施と評価

「岡山創生学」科目群の中では、低年次において地域を志向する教育を行い、高年次における「長期インターンシップ」(1ヵ月以上)に繋げ、事業協働地域への定着に結び付ける。そのために、受け入れ企業の開発、インターンシップの内容企画等において、大学と受け入れ側の支援体制作りの合意など、様々なプロセスについて最適なプログラムを産学が連携して検討する。

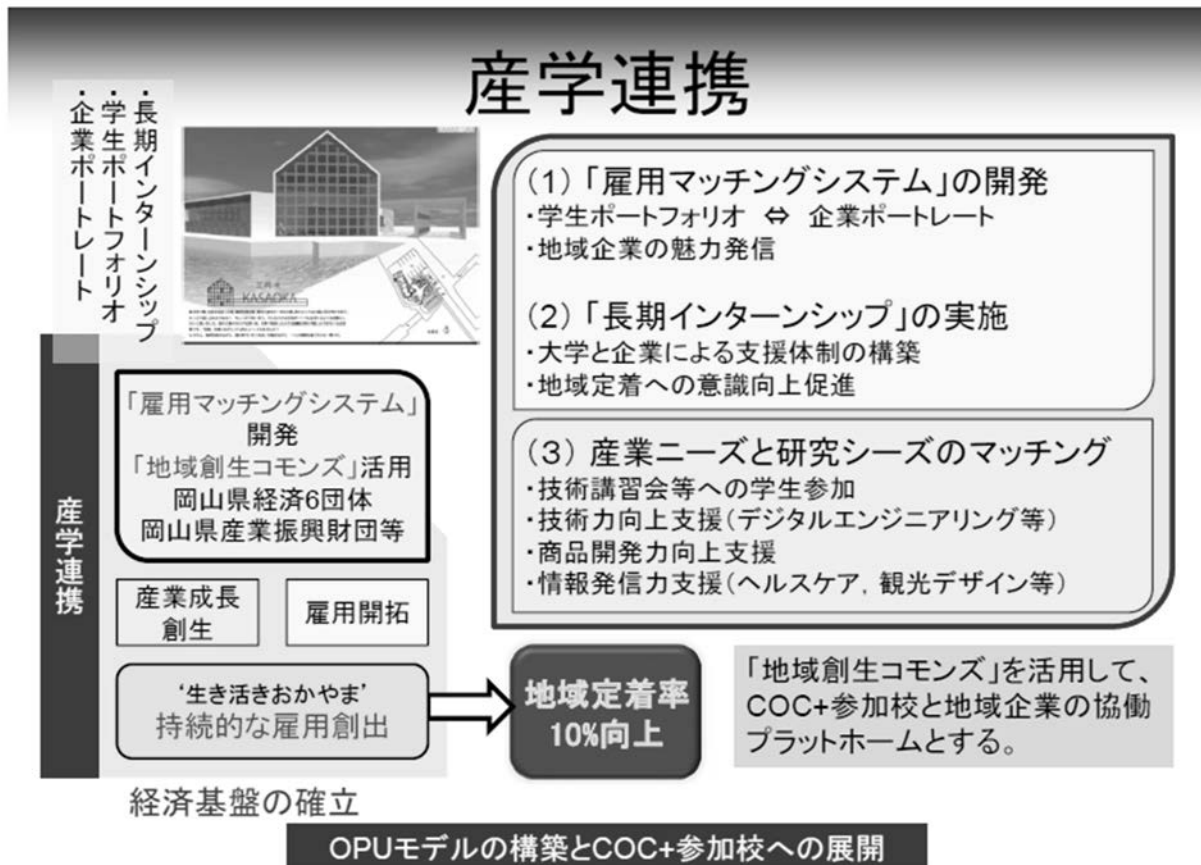


図 2.3-6：産学連携に関する事業概要

2.4 平成27年度の実績

2.4-1 概要

[A] 教育改革（おかやま COC+教育プログラム開発委員会、主体は本学内大学教育開発センター）

- ①：各学部及び地域連携推進センターと連携し、副専攻「岡山創生学」の人材育成像に基づく授業計画、評価方法等を整備した。
- ②：地域連携推進センター、共通教育部及び各学部と協働して、副専攻「岡山創生学」の内、平成 28 年度開講科目「おかやまを学ぶ」、「おかやまボランティア論」、「おかやまボランティア演習」の開講を準備した。
- ③：副専攻「岡山創生学」の平成 29 年度開講科目「地域再生実践論」、「地域協働演習」のプログラムを検討する。特に、「地域協働演習」については、連携自治体との域学連携活動を通して、課題の設定や実施方法の検討を行った。
- ④：連携自治体を活動の場とする地域演習科目「デザインプロジェクト演習」を、デザイン学部 3 年生及び他学部（保健福祉学部、情報工学部）生履修を検討した。
- ⑤：副専攻「岡山創生学」の制度化と履修者の資格認定制度を検討した。
- ⑥：地域連携推進センターと共に、学生の学修過程の記録のための「学生ポートフォリオ」システムの開発準備、及び「長期インターンシップ」システムの開発準備を行った。

[B] 域学連携（おかやま COC+教育プログラム開発委員会、主体は、本学内地域連携推進センター）

- ①：真庭市及び NPO 団体と協働で、地域創生コモンズを整備した。
- ②：真庭市での設置・運用実績及び要望等を参考にしつつ、連携自治体（真庭市、笠岡市、総社市、備前市）に対して、平成 28 年度設置に向けての施設、設備環境、運営体制などを検討した。
- ③：総社市と協力し、子どもの余暇活動、子育て支援・学習支援等を推進するための計画を立案し、実施した。
- ④：笠岡市と協力し、笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援活動計画を立案し、実施した。
- ⑤：岡山県と協力し、県下の防災・減災システム、ボランティア活動ネットワーク構築支援を検討した。

[C] 産学連携（おかやま COC+教育プログラム開発委員会、主体：本学内産学官連携推進センター）

- ①：本学内地域連携推進センター及び産業界の協働機関と連携し、岡山県内企業を対象とした「長期インターンシップ」プログラムの実施計画を策定するとともに

に、参加企業の掘起しを行った。

- ②：平成30年度の運用を目指して、本学内大学教育開発センター及び産業界の協働機関と連携し、学生が理解しやすく有用な情報を提供する「企業ポートレート」システムを検討するとともに、「学生ポートフォリオ」との利用したマッチングを図る「雇用マッチングシステム」の開発のための準備を行った。
- ③：岡山県産業振興財団やマイクロものづくり岡山等との協働により、岡山県下の主要な地場産業であるものづくり・ICT分野（デジタルエンジニアリング）の技術力向上に資するシステムの策定に着手した。
- ④：本学地域連携推進センターと岡山県及び協働自治体の協働により、デザインによる観光振興、商品開発等による地域の魅力発信の仕組みを検討した。
- ⑤：本学保健福祉学部及び岡山県産業振興財団等と連携し、ヘルスケア産業、食品産業等の分野での共同研究を計画・推進した。

[D]【COC+参加大学との計画】

- ①：教育プログラム開発委員会やシンポジウム等を通して、各COC+参加校で実施する地域志向科目に関する情報の報告や討論を行うことで、地域志向科目の内容や実施方法についての課題や解決法に関する知見を共有した。特に、COC大学については、保健医療福祉領域の連携学習手法の研究の実施（吉備国際大学）、「くらしき若衆」育成プログラムの運用に向けての学習環境の整備（倉敷芸術科学大学）等の先行事例に関する知見を提供した。
- ②：他のCOC+参加校へ展開することを前提として、各COC+参加校で実施する地域志向講義と課題解決型演習において用いる地域学習教材や教育システムを開発するための準備を行った。特に、COC大学については、「キャリア開発Ⅱ」における「地域貢献ボランティア」の計画・実施（吉備国際大学）、倉敷アートサポートプロジェクト「地域プラットフォーム形成研究」の実施（倉敷芸術科学大学）、地域貢献実践科目群の試行（くらしき作陽大学）等の先行事例に関する知見を提供した。
- ③：小中高大連携を実施した実績のあるCOC+参加校の知見を共有し、複数の大学が協働することを想定した小中高大連携活動を実施するための準備を行った。
- ④：「学生ポートフォリオ」システム、「雇用マッチングシステム」を併用することにより、実践型社会連携教育におけるコーディネートシステムのCOC+向けシステムを開発するための仕様等を検討するとともに、実装のための環境を整備した。

[E]【事業協働機関の全体計画】

- ①：本学内の組織として、本補助事業全体の活動計画を立案するCOC+推進本部会議を設置した。本会議において立案した計画は、本学の決定機関である教育研究活動委員会または社会活動委員会、及び学内理事会の承認の後、直ちに実施

できる体制とした。

- ②：すべての協働機関で構成するCOC+推進協議会を設置した。本協議会は、11月（平成28年度以降、年2回開催）に開催し、年度単位の事業計画、予算、成果等を審議する場であるとともに、本補助事業のすべての情報を共有する場とした。
- ③：COC+参加校及び自治体等で構成する教育プログラム開発委員会を設置した。本委員会は、2月（平成28年度以降、4月と11月に開催）に開催し、本事業の中核となる教育プログラムの立案・策定を担当するとともに、教育プログラムに関する情報を共有する場とした。
- ④：公立大学協会等の協働機関以外の組織の協力のもと、外部評価委員会を設置した。
- ⑤：経験の豊富な統括補佐コーディネータ（域学・産学分野担当）を雇用したことで、事業の初動で重要となる、協働機関との確実かつ迅速な連携をとることが可能となった。またCOC+活動を確実なものにするため、平成28年度に向けて統括コーディネータ及び2名の推進コーディネータ（教育分野担当及び域学分野担当）を雇用した。
- ⑥：本補助事業のキックオフシンポジウムを開催した。出席者は270名にのぼり、事業協働機関以外からも、学生、新見市、大学コンソーシアム岡山、岡山県立矢掛高校、広島市立大学、鹿児島工業高等専門学校、企業からの参加があった。本学から参加は133名であり、教職員の本COC+事業への意識の向上を促進できた。特に、21名の学生が参加し、学生にとっても本COC+事業、中でも副専攻「岡山創生学」への興味の高さが確認でき、平成28年度から開講される同副専攻のPRに活かすことができた。
- ⑦：本学のホームページに本補助事業の申請内容をアップしたことで、事業協働地域だけでなく学生に対しても本補助事業の意義を周知できた。また平成28年度以降の迅速かつ安定な情報発信を目指し、情報配信専用WEBサーバの設置・導入を行った。

[F] その他

- ①：学内ガバナンスを実現するために、本学学長をトップとし、既存の学内組織と連携をとりつつ、本補助事業の迅速かつ確実な実施を可能とする学内実施体制を確立した。
- ②：平成28年度から参加する岡山市と本補助事業の協働に関する協議を行った。さらに、今回不選定となった事業の代表校である津山工業高等専門学校と、本補助事業への参画に向けた協議を行った。

2. 4-2 実施体制の整備

本学内には、COC+事業の円滑な推進を目的に、本学の地域共同研究機構に「COC+推進本部」を置いた。COC+推進本部の業務及び組織は以下の通りである。

COC+推進本部

【業務】以下の業務を行う。

- (1) COC+事業の企画立案及び実施に関すること
- (2) COC+事業の自己評価に関すること
- (3) COC+事業に参加する高等教育機関、地方自治体、産業界及び NPO 法人等で組織するおかやま COC+推進協議会（以下「COC+協議会」という。）との連絡調整に関すること
- (4) その他 COC+事業に関し必要な事項

【組織】

- (1) 学長（本部長）
- (2) 地域共同研究機構長（副本部長）
- (3) 教育研究開発機構長
- (4) 保健福祉学部長
- (5) 情報工学部長
- (6) デザイン学部長
- (7) 共通教育部長
- (8) 事務局長
- (9) 大学教育開発センター長
- (10) 地域連携推進センター長
- (11) 産学官連携推進センター長
- (12) COC+推進室長及び副室長

さらに、推進本部に、本 COC+事業の企画立案及び実施に係る学内調整を目的とした「COC+推進企画委員会」を、「教育改革」、「域学連携」及び「産学連携」に係る個別事項を検討するワーキンググループ「教育改革 WG」、「域学連携 WG」及び「産学連携 WG」を設置した。また、COC+事業を実施し、推進本部及び COC+協議会の事務を行う「COC+推進室」を設置した。「COC+推進企画委員会」、「教育改革 WG」、「域学連携 WG」、「産学連携 WG」及び「COC+推進室」の業務及び組織は以下の通りである。

COC+推進企画委員会

【業務】以下の業務を行う。

- (1) 本学が進める教育改革（副専攻「岡山創生学」及び学生支援）、域学連携及び産学連携の事業を推進するための企画立案に関すること

- (2) COC+推進本部との連絡調整に関すること

【組織】

- (1) 地域共同研究機構長（委員長）
- (2) 大学教育開発センター長（副委員長）
- (3) 地域連携推進センター長（副委員長）
- (4) 産学官連携推進センター長（副委員長）
- (5) 大学教育開発センター副センター長
- (6) 共通教育部長
- (7) COC+推進室長
- (8) COC+推進室副室長

教育改革WG

【業務】 以下の業務を行う。

- (1) 本学が進める副専攻「岡山創生学」の開発に関すること
- (2) 本学が進める学生ポートフォリオの開発等の学生のキャリア形成支援に関する
こと

【組織】

- (1) 大学教育開発センター副センター長（グループ長）
- (2) 大学教育開発センター共通教育部会長（副グループ長）
- (3) 共通教育部社会連携教育推進室長
- (4) 大学教育開発センターキャリア形成支援部会長
- (5) 本学教員
- (6) COC+推進室副室長
- (7) COC+推進室員

域学連携WG

【業務】 以下の業務を行う。

- (1) 本学が進める域学連携事業の開発に関すること
- (2) 本学が進める域学連携事業の開発に関すること

【組織】

- (1) 地域連携推進センター副センター長（グループ長）
- (2) 地域連携推進センター幹事（副グループ長）
- (3) 地域連携推進センター幹事（2名）
- (4) 本学教員
- (5) COC+推進室員

産学連携WG

【業務】 以下の業務を行う。

- (1) 本学が進める産学連携事業の開発に関すること

(2) 学生と企業等との雇用マッチングシステムの開発に関すること

【組織】

- (1) 地域共同研究機構副機構長（グループ長）
- (2) 産学官連携推進センター副センター長（副グループ長）
- (3) 産学官連携推進センター幹事
- (4) 情報基盤活用推進センター副センター長
- (5) 本学教員
- (6) COC+推進室員

COC+推進室

【業務】 以下の業務を行う。

- (1) COC+推進本部会議が決定した COC+事業の実施に関すること
- (2) 事業協働機関との連絡調整に関すること

【組織】

- (1) COC+推進室長（本学教員）
- (2) COC+推進室副室長（統括コーディネータ：教育分野担当）
- (3) COC+推進室副室長（事務担当）
- (4) COC+推進室員（主任コーディネータ：域学・産学連携担当）
- (5) COC+推進室員（コーディネータ：教育分野担当）
- (6) COC+推進室員（コーディネータ：域学分野担当）
- (7) COC+推進室員（コーディネータ：産学分野担当）
- (8) COC+推進室員（事務担当・2名）

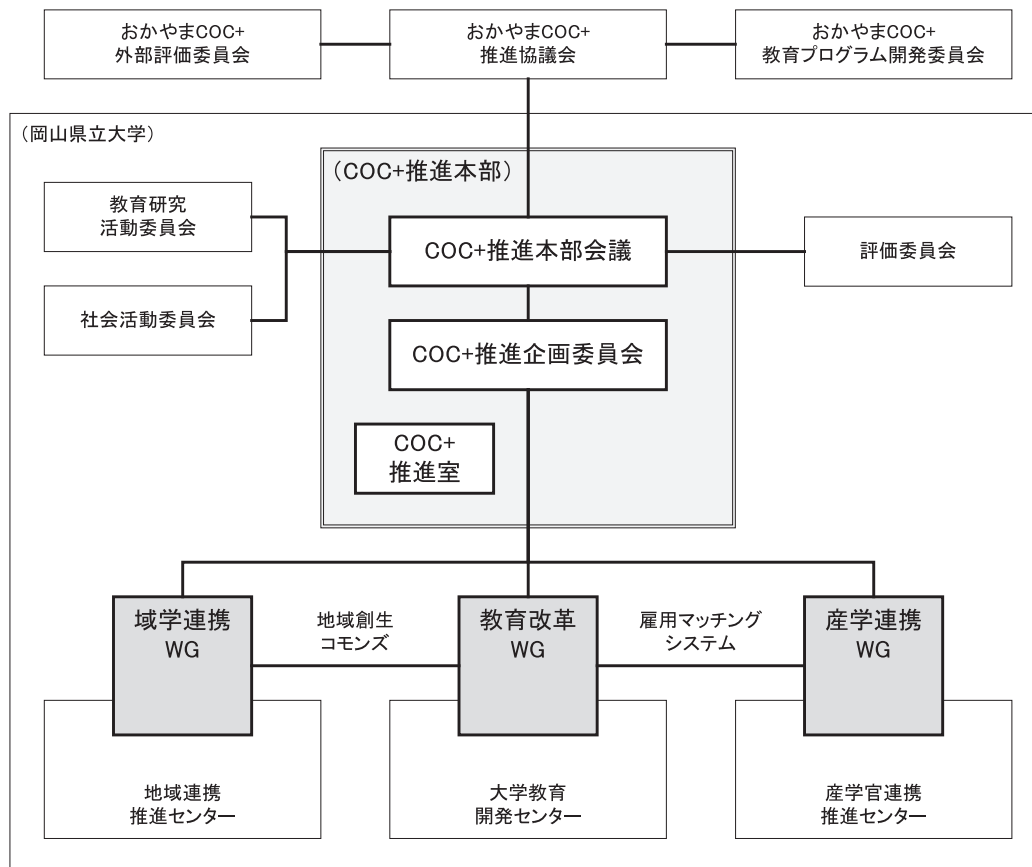


図 2.4-2：実施体制

2.4-3 委員会、シンポジウム等の開催

(1) おかやま COC+推進協議会設立総会及び第1回おかやま COC+推進協議会の開催

□日 時：平成 27 年 11 月 27 日（金）13：00～14：30

□場 所：岡山県立大学 本部棟大会議室

□参加者：

岡山県立大学、岡山大学、岡山理科大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、ノートルダム清心女子大学、岡山県、岡山市、倉敷市、笠岡市、総社市、高梁市、備前市、真庭市、岡山県商工会議所連合会、岡山県経営者協会、岡山県中小企業団体中央会、岡山県商工会連合会、中国銀行、トマト銀行、岡山経済研究所、山陽新聞社、岡山 NPO センター

□実施内容

代表校である岡山県立大学から COC+申請に至る経緯、事業目的、全体計画及び実施体制についての説明がなされた。

以下の規約が制定され、おこやま COC+推進協議会が設立された。

- ・おこやま COC+推進協議会規約
- ・おこやま COC+教育プログラム開発委員会規約
- ・おこやま COC+外部評価委員会規約

岡山県の若者定着・雇用創出に関する連携協力に関する協定書の締結が承認された。

(2)おこやま COC+キックオフシンポジウムの開催

□日 時：平成 28 年 2 月 19 日（金）14:00～16:45

□場 所：山陽新聞社 さん太ホール

□参加者：270 名（内訳：来賓 7 名、経済団体、企業等 41 名、自治体 16 名、教育機関 36 名、本学参加者 170 名）

□実施内容：

【シンポジウム】14:00～16:45

◇開会挨拶：辻委員長
（岡山県立大学長）

◇来賓挨拶

- ・岡山県知事 伊原木隆太 氏
- ・文部科学省 高等教育局
大学振興課 大学改革推進室
課長補佐 永田昭浩 氏



◇基調講演「知（地）恵を活かせ～おこやま創生に向けた人材育成～」

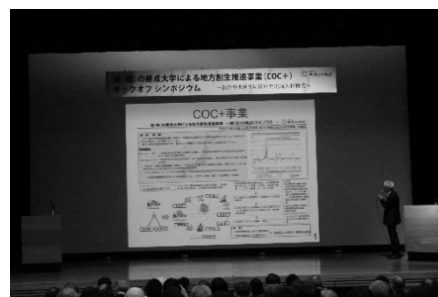
講師：福田収一 氏（慶応義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所顧問，Stanford University, Visiting Professor）

（概要）：地方にはそれぞれの知（地）恵があり、その知恵を活かす多様な視点と発想がイノベーションにつながる。ネット社会はそのような視点を融合してイノベーションを興すのに有効な社会基盤である。従来型の視点による単一的な人材の育成ではなく、これからの時代の変化に対応できる柔軟性をもった人材育成が大切である。



◇COC+の取組紹介

- ①岡山県立大学：COC+事業責任者である渡辺教授から COC+事業「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおこやま’人材育成」の概要が紹介された。特に、本シンポジウム



のメインテーマである人材育成については、教育改革「岡山創生学」等が説明された。

②広島市立大学：広島市立大学 学長 青木信之氏から COC+事業「観光振興による地域創生に向けた人材育成事業」の取組紹介をいただいた。平和学に基づく理念と地域の特性を活かして、総合的に観光コンテンツをまとめ、広島県の地域リーダーとなる人材を育成することが説明された。



③岡山理科大学 副学長 堂田周治朗氏からは同大学の事例報告として、インターンシップ、地域学「岡山学」等の紹介をいただいた。岡山理科大学は、キャリア教育科目（32科目37単位）に重点を置き、インターンシップにも多様な科目を設置していることが説明された。



◇パネルディスカッション

COC+事業責任者渡辺機構長をコーディネータとして、以下のパネリストによるパネルディスカッションを行った。参加者は以下の通り。

パネリスト：片岡聡一氏（総社市長）、青木信之氏（広島市立大学長）、堂田周治朗氏（岡山理科大学 副学長）、大月隆行氏（岡山経済同友会政策委員長/ランデス株式会社代表取締役社長）、辻英明氏（岡山県立大学長）

コメンテーター：永田昭浩氏（文部科学省 高等教育局大学振興課大学改革推進室 課長補佐）福田収一氏（慶応義塾大学システムデザイン・マネジメント研究所 顧問， Stanford University, Visiting Professor)



【情報交換会】 17:00～18:20

シンポジウム終了後、情報交換会を開催し、約 50 名の参加があった。

3. 地（知）の拠点としての活動

3. 1 地域への貢献

3. 2 行政への貢献

3. 3 企業等への貢献

3. 4 人材の育成

3. 5 その他の貢献

3.1 地域への貢献

3.1-1 公開講座

A. 概要

本学では毎年、一般県民を対象とした公開講座を開催している。本年度の公開講座では、デザイン学部担当で、そのテーマを「地域が求めるもの～『デザインのチカラ』」とし、8月から9月の土曜日に、5日間10講座を実施した。

B. 日程等

テーマ：地域が求めるもの～「デザインのチカラ」

担当学部：デザイン学部

受講対象：県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

その他：全5日の講座のうち、3日以上出席の者に修了証書を交付した。

日 程		テーマ	講 師
8月22日 (土)	13:15～13:30	開 講 式	学 長 辻 英明
	13:30～15:00	地域のチカラってどんなもの？ ～観光にまつわるデザインから～	准教授 西田麻希子 教 授 吉原 直彦
	15:10～16:40	産地のやきものとデザイナーの関わり	講 師 作元 朋子
8月29日 (土)	13:30～15:00	「つかいやすさ」をデザインする	准教授 益岡 了
	15:10～16:40	間伐材の可能性	准教授 南川 茂樹
9月5日 (土)	13:30～15:00	ラテンアメリカ表現	准教授 真世土マウ
	15:10～16:40	地域防災とデザイン	准教授 齋藤美絵子
9月12日 (土)	13:30～15:00	漢字アニメーションを通じた日本語学習 への興味喚起	講 師 山下 万吉
	15:10～16:40	簡易な3Dプリンタの導入方法と活用事例	准教授 三原 鉄平
9月19日 (土)	13:30～15:00	台湾老街（歴史的町並み）とその保存 ～台湾の地方都市を中心に～	准教授 西川 博美
	15:10～16:40	縁の下のデザイン	教 授 山下 明美
	16:40～16:50	閉 講 式	学部長 森下 眞行

C. 開催状況

(1) 参加者

居住地	人数	比率
総社市	31	52.5%
倉敷市	5	8.5%
岡山市	17	28.8%
その他	6	10.2%
計	59	100.0%

・受講者数：59名

・修了証交付者数：40名

年齢	人数	比率
10歳代	3	5.1%
20歳代	3	5.1%
30歳代	4	6.8%
40歳代	13	22.0%
50歳代	12	20.3%
60歳代	16	27.1%
70歳以上	6	10.2%
計(2名不明)	57	96.6%



(2) 参加者からの意見・感想

- 「デザイン」という言葉の意味が考えていた以上に深く重いものである事を強く感じた。
- 新聞等で見かけたことしかないテーマについて掘り下げられており面白かった。
- 「その地域住民にとって何でもないものでも、他地域の方から見れば物珍しい」というのは「地域起し」のヒントになると思う。
- デザインに対する基本的な考え方、方法を教えていただいた。この考え方、見方で物を鑑賞したいと思う。

- 毎回多岐にわたるテーマでとても楽しかった。各先生方の準備が大変だっただろうなあと思うくらい力を入れてくださっており、参加してよかった。
- 実習形式も取り入れ、講義（基礎）と実習（応用）のような、対になる形式を一部でもよいので取り入れて欲しい。

D. 今後に向けて

今回の講座では、「地域」と「デザイン」を関連付け、各教員の研究内容や学生の活動実績を取り入れた講義を実施した。岡山県内のことだけでなく、日本全国、さらには海外におけるデザイン活動の紹介により、改めて地元地域の特色の再発見や愛着心につながるとの意見が聞かれた。また、毎回の授業において積極的な質疑応答がなされ、受講者の学習意識の高さが窺えた。一方で、演習・実技の増加を希望する声も多く、今後は幅広い世代に対して満足度の高い内容を検討することが必要である。

3. 1-2 岡山県生涯学習大学主催講座

A. 概要

岡山県の特性を活かした学習講座を開設・体系化して学習機会を提供することで、県民の学習意欲を高め、地域における生涯学習の一層の振興を図るために、平成6年に設置されたのが岡山県生涯学習大学である。岡山県立大学は平成23年度から参加協力を行っており、本年度は「主催講座（現代的課題を学ぶコース）」として参加した。

B. 日程等

テーマ：認知症と向き合う～少子高齢社会における豊かな老後～

担当学部：保健福祉学部

受講対象：県内居住者、あるいは県内に通学・通勤している人

日 程		テーマ	講 師
7月11日 (土)	13:15～13:30	開 講 式	学 長 辻 英明
	13:30～15:00	認知症の理解と認知症予防	准教授 藤井 保人 助 教 澤田 陽一
	15:10～16:40	介護保険のしくみを理解する	教 授 井村 圭壯
7月18日 (土)	13:30～15:00	安心して暮らせる社会を目指して ～少子化・子どもの育ちを考える～	教 授 佐藤 和順
	15:10～16:40	いつまでも安心して暮らせる社会 ～認知症の方を支える家族と介護～	准教授 桐野 匡史

7月25日 (土)	13:30～15:00	認知症の方と家族を地域で支える ～認知症サポーターになろう～	准教授 佐藤ゆかり
	15:10～16:40	介護ワンポイントアドバイス ～介護技術に困っていませんか～ *さまざまな事例の実践を行います	教授 谷口 敏代 准教授 原野かおり 助教 松田 実樹
8月1日 (土)	13:30～15:00	認知症の方と家族を支える ～もっと知りたいケアマネジャーの仕事～	教授 村社 卓
	15:10～16:40	音楽療法からのヒント	教授 岡崎 順子
8月8日 (土)	13:30～15:00	認知症が疑われる場合の家族の対応 ～受診に向けた家族の取り組み～	准教授 竹本与志人
	15:10～16:40	家族はどうすればいいの？ ～認知症とコミュニケーション障害～	教授 中村 光
	16:40～16:50	閉 講 式	学部長 高橋 吉孝

C. 開催状況

(1) 参加者

居住地	人数	比率
岡山市	14	29.8%
倉敷市	10	21.3%
総社市	16	34.0%
その他	7	14.9%
計	47	100.0%

・受講者数： 47名

・修了証交付者数： 43名

年齢	人数	比率
10歳代	3	6.4%
20歳代	0	0.0%
30歳代	0	0.0%
40歳代	6	12.8%
50歳代	6	12.8%
60歳代	13	27.7%
70歳以上	19	40.4%
計	47	100.0%

(2) 参加者からの意見・感想

- 自分の家族が認知症になった時のことを考えると心構えはしておくべきだと思った。今回の講座1つ1つがとてもわかりやすく良かった。
- 今回のテーマは最高でした。まだまだ教わりたいことが沢山あり、持続的に教え頂けたらとても嬉しいです。
- 外から認知症の人を見ることは出来ても内面について知ることは難しいので、今回、内面からの話を聞いたことが良かった。変わっていくことに対して家族も不安に思うけれど、当たり前だけれど忘れていた、本人が一番不安だということに気付けたのが良かったです。
- 初回の講義は少しむずかしいと思いましたが毎回資料を頂いていたので後から見ても判りやすく受講してよかったです。
- 介護ワンポイントアドバイス・音楽療法等も生かして認知症でなくても高齢者にはやさしくにつきこいで接したいと思います。

- 講座生が聞くだけでなく、問題を投げかける形式が意識して授業を受けることができる。
- 講義ばかりではなく実技も入れていただくと受講者同士の交流もはかれると思います。



D. 今後に向けて

本事業は岡山県生涯学習センターの委託事業であり、本年度で4度目の開催にあたる。過去の講座は「主催講座（大学院コース）」という形式で行われ、地域での指導やボランティア活動等に活かす、より高度な実践力を身につける講座として開設していたが、昨年度からは、環境・自然保護、高齢社会と介護、科学技術、健康づくり等、現代的課題について学ぶことを目的とする「主催講座（現代的課題を学ぶコース）」へ形式が変わった。

平成 27 年度は、高齢社会の課題のひとつである「認知症」をテーマに、保健福祉学部教員が講座を実施した。認知症予防から、福祉制度の活用、家族や地域のサポート等、認知症に対する知識や対応方法を学ぶとともに、一部で演習も取り入れた。受講後のアンケートから、今後も同一内容での開講を求める意見が多く、充実した講座であったと伺える。一方で、実技・演習の増加を求める声も多く、多様な年齢層と受講者数のバランスを検討し、要望に応えられる実施方法を計画することが今後の課題である。

3. 1-3 アクティブキャンパス

A. 概要

アクティブキャンパスは、従来の定置型のサテライトキャンパスに変えて、平成19年度から移動型の情報発信基地として設けたものである。アクティブキャンパスでは、県内の団体・施設等からの要望に応え、本学として主体的に社会人に向けた公開講座や専門分野に関する研究会の開催等を行う。具体的には、①企業関係者等との交流や共同研究の相談などの産学官連携事業、②本学における最新の研究内容、デザイン作品等に関する情報の発信事業、③社会人を対象とした公開講座等の開催事業、④その他本学の地域貢献活動の推進に必要な事業について、本学の社会活動を審議する機関「社会活動委員会」で事業計画を承認するとともに、必要な支援を行うものである。

B. 開催状況

(1)岡山医療安全研究会

概要：医療従事者、事務職員、大学等教員等を対象として、第6回岡山医療安全研究会・医療安全シンポジウム（テーマ：インシデントレポートを活かす！）を開催した。

まず、「インシデントレポートを活かす！～リスクの把握と管理の一元化システムの構築～」と題して、内田宏美氏（島根大学医学部看護学科教授）が基調講演を行った。

その後、シンポジウムを開催し、斉藤美保氏（長崎大学病院安全管理部看護師長）は「看護師がエラーを未然に防止した事例の検証」、鈴木佳世子氏（獨協医科大学病院看護師長）は「インシデントレポートの分析に基づいたフィジカルアセスメント力を高める教育プログラム」、丸山雅道氏（岡山大学病院医療安全管理部看護師長）は「インシデントレポート報告の部署内・院内活用」と題して講演をし、ディスカッションをした。参加者は、各々の病院等で活かすことのできる何かを、つかみ取ることができたと考えられる。多くの参加があり、インシデントレポートに対する関心の高さがうかがえた。

日時：平成27年9月26日（土）（計1回）

場所：岡山国際交流センター（イベントホール）

参加者：197名

担当：保健福祉学部看護学科

教授 沖本克子（代表者）

助教 高林範子、助教 犬飼智子、助教 網野裕子

関西福祉大学看護学部 准教授 鈴木千絵子

(2)慢性疾患を持つ患者の看護を考える事例検討会

概要：平成 25 年から、患者へのかかわり方に解決志向アプローチを用いた効果について、認定看護教育センターの修了生を中心に、多施設で共同研究を行っている。今後各施設で継続して、その効果について共有し、新たなかかわり方を工夫する場として、事例検討会を活用する予定である。臨地実習の事例やかかわりがこんな事例について検討し、事例分析を通して、看護のあり方を検討する。面接の基本としている解決志向アプローチについて、専門家の講義を聞き、実践に活かす力を養うことを目的とする。

今年度の実績は、以下のとおりである。

回数	月日	場所	内容	参加者数
1	4月24日	県立大学	事例検討	5
2	5月27日	県立大学	事例検討	5
3	6月26日	県立大学	事例検討	6
4	7月23日	県立大学	事例検討	18
5	9月26日	県立大学	事例検討	5
6	11月27日	県立大学	ケアリングを用いた実習指導のあり方	3
7	1月21日	県立大学	事例検討	4
8	2月20日	岡山駅付近	解決志向アプローチを使った面接	20

担当：保健福祉学部看護学科 教授 住吉和子

(3)ELNEC-J in 岡山県立大学

—超高齢社会における質の高いがん看護・緩和ケアに向けて—

概要：エンド・オブ・ライフ・ケアの基本的知識と看護実践能力を高めることを目的とし、アメリカで開発された ELNEC の日本版を ELNEC-J の指導者とともに講義とグループワークで実施した。本カリキュラムは、日本ホスピス緩和ケア協会により緩和ケア病棟、在宅緩和で従事する看護師は受講するよう推奨されている。今年度は、24 名の受講修了者には、認定証が授与された。

回数	日	内容	参加者
第1回	10月3日(土)	「エンド・オブ・ライフにおける看護、痛み・症状マネジメント、喪失・悲嘆・死別、高齢者の問題」	24名
第2回	10月4日(日)	「文化への配慮、倫理、コミュニケーション、臨死期のケア」	24名

場所：倉敷第一病院 ISAM ホール、

担当：保健福祉学部看護学科 准教授 名越恵美（代表者）

助教 井上かおり、川村友紀



(4) 地域病院・診療所における外来糖尿病患者に対する集団栄養指導

概要: クリニック及び病院の外来患者に対し、糖尿病の栄養食事療法に関する集団指導を実施した。

開催日	場所	内容	参加人数
3月27日	河合内科西口クリニック	食事療法全般をテーマに実施し、低エネルギー甘味料や食物繊維についての質問があった。	5名
8月25日		参加者が2名であったため、個別指導を行った。	2名
10月26日		代用甘味料をテーマに実施し、パルスweetを用いたスイーツの試食も行った。	9名
11月11日	長野病院	予め作成提案した献立を基に、糖尿病食事会の開催に参加した。医師の講話の後、食事会のデザートについて説明等を行った。	26名

担当: 保健福祉学部栄養学科 准教授 平松 智子 (代表者)
 河合内科西口クリニック 院長 河合 洋二郎
 長野病院 医師 八幡 愛美、管理栄養士 吉田 亜弥子

(5) 公開講座「歌の翼にのせてX①～⑨」

概要: 一般の方を対象に、呼吸トレーニングと発声法、詩の解釈と音楽分析を学びながら、ピアノ伴奏にのせて世界の名歌を中心に合唱する講座を毎月1回(計9回)実施した。また、10月17日に本学講堂において開催された「人と人がつながるコンサート」に出演し、成果を発表した。



日 時：平成27年4月27日、5月25日、6月22日、7月27日、8月24日、
9月28日、10月13日、11月30日、12月21日（計9回）

場 所：岡山国際交流センター

参加者：毎回約37名（延べ333名）

「人と人がつながるコンサート」の参加者 32名

担 当：保健福祉学部保健福祉学科 教授 岡崎順子

(6)岡山県子育てネットワーク交流集会

概 要：民官学協働による子育て環境の改善と支援のあり方を考え、活動の視野の広がりや活性化をもたらすため、「パパから学ぶ～僕がイクメンになったわけ～」をテーマに、講演と事例報告・全体討議を開催した。講演は本学の佐藤和順教授が「今子どもの育ちに必要なもの」をテーマに行った。事例報告は、大島望氏（山陽新聞社：育児休暇取得の経験について）・港正明氏（岡山市立千種小学校：牛窓ルンビニ保育園での父親によるボランティア活動について）・野崎隆二氏（ネットソリューション株式会社：岡山子育て応援宣言企業の取り組みと効果について）・伊藤家生氏（ほっとはあと）総社市での両親学級の取り組みについて）の4氏により行われた。

日 時：平成28年2月7日（計1回）

場 所：おかやま西川原プラザ

参加者：35名

担 当：保健福祉学部保健福祉学科 准教授 中野菜穂子

(7)「コミュニティカフェ総社」

概 要：総社市、高梁市の精神保健関係者（行政、指導員、病院職員）、当事者、家族、学生、地域住民を対象に、精神障害の理解をねらいとしたサロン（ストレス対処SOCサロン）とコーラスを毎月各1回（年間計23回）、人と人がつながるコンサート（年間1回）を実施した。

日 時：

1) アンダンテコーラス

4月13日、5月18日、6月8日、7月13日、9月17日、10月5日、
11月9日、12月14日、1月18日、2月22日、3月14日（計11回）

2) ストレス対処力SOCサロン

4月6日、5月11日、6月1日、7月6日、8月3日、9月7日、10月12日、11月2日、
12月7日、1月11日、2月15日、3月7日（計12回）

3) 「人と人がつながるコンサート」

10月17日（計1回）

場 所：総社市ふれあいセンター（コーラス）

こだまの集い作業所（ストレス対処力SOCサロン）

岡山県立大学講堂（人と人がつながるコンサート）

参加者：1) アンダンテコーラス	毎回約10名（年間 延べ110名）
2) ストレス対処力SOC研修	毎回約15名（年間 延べ180名）
3) 「人と人がつながるコンサート」	約200名
1) 2) 3) の参加者の合計	約490名

担 当：保健福祉学部保健福祉学科

准教授 坂野純子（代表者、SOCサロン）

教 授 岡崎順子（コーラス指導）

人と人がつながるコンサート（10月17日）の様子



アンダンテコーラス



御南保育園



アンサンブル総社



岡山ジュニア合唱団

(8)OPUキッズダンスワーク～障がいのある子もいない子も一緒にダンス～

概要：障がいをもつ子どもとその家族の余暇活動を芸術的側面から支援し、連携の在り方を探る目的で開催した。ダンス活動を通して、表現することの楽しさを知り、豊かな人との交流やコミュニケーションを体験する。

- 日時：第1回 平成27年6月14日（日） ダンスワーク①
- 第2回 平成27年7月25日（土） ダンスワーク②
- 第3回 平成27年8月24日（月） ダンス作品練習・衣裳づくり
- 第4回 平成27年9月11日（金） ダンス作品仕上げ
- 第5回 平成27年10月12日（月・祝日） ステージ発表・リハーサル
- 第6回 平成27年10月17日（土） ステージ発表・本番
- 第7回 平成28年3月5日（土） 実践の振り返りDVD鑑賞会など
- （計7回）

場 所：きよね夢てらす、岡山県立大学講堂・リズムダンス室・図画工作室

参加者：延べ140名

担 当：保健福祉学部保健福祉学科 准教授 新山順子

協 力：保健福祉学部保健福祉学科 子育て支援コース4年生有志
子ども学専攻3年生有志

(9)自動車検証技術コンソーシアム立ち上げ準備会

概 要：車載コンピュータシステムの自動検証技術に関する情報共有を目的としたコンソーシアムの立ち上げ準備の一環として、参画企業の技術者および関連分野への就職を希望する学生を対象とした、関連技術の紹介やチュートリアルを実施した。

回数	日時・場所	内容	参加者
第1回	12月17日(木) 14:30～17:10 本学	「自動検証技術コンソーシアムについて」 講師：岡山県立大学 有本和民 「記号モデル検査に関するチュートリアル」 講師：株式会社フォーマルテック 早水公二 「ネットワークハードウェアから考察する SDN (Software-Defined Networking)」 講師：REVSONIC(株) 岩本久	10名
第2回	2月19日(金) 15:00～17:10 本学	「マイコンはどこからきたのか、マイコンとは何者か、マイコンはどこへ行くのか」 講師：慶應義塾大学 清水徹 「自動検証技術コンソーシアムの活動とその意義について」 講師：岡山県立大学 有本和民	50名

担 当：情報システム工学科 教授 有本和民 (代表者)、助教 横川智教



(10)岡山オープンソース技術研究会

概要：県内のオープンソース技術に興味のある技術者・学生を対象に、地域のオープンソースコミュニティの活性化、ソフトウェア技術者の交流支援を目的とし以下の二つを代表に、多くの勉強会イベントを支援・共催した。

日・場所	イベント	内容	参加者
5月16日(土) 本学	オープンセミナー2015@岡山	中四国最大級のオープンソースイベント(2008年より本学開催, 下記写真)	110名
12月5日(土) 本学	合同勉強会 in 大都会岡山 -2015 Winter-	県内のIT技術勉強会の合同イベント	80名



また、オープンCAE勉強会@岡山と題し近年注目を集めているオープンCAE技術の勉強会を連続的に開催し、多数の講演・発表を行った。年度内は4月25日、5月30日、6月27日、8月1日、9月5日、10月3日、11月14日、12月12日、1月23日の計9回。会場は主に本学の教室、まれに岡山市民会館等を利用した。

担当：情報工学部

助教 芝 世式 (代表者)

助教 荒井 剛, 天寄 聡介

(11) 高品質ソフトウェア開発技術勉強会

概要：ソフトウェアシステムの高品質化のための技術動向に関する、理論・実践の両面における幅広い知識や技術の共有を目指して、ソフトウェア開発の第一線で活躍する専門家による講演を実施した。

日時：平成28年2月19日(金) 13:00 ~ 15:35

場所：本学

内容：「形式手法に基づくソフトウェアシステムの高信頼化技術」

講師：岡山県立大学 横川智教

「ベンチャー企業のエンジニアがみたソフトウェア開発の現在」

講師：株式会社ゼロスタート 出張純也

「ゲーム開発での静的解析の利用例」

講師：株式会社カプコン 木本雅博

参加者：54名

担当：情報システム工学科

助教 横川智教（代表者）

助教 天寄聡介



(12) 地域の健康生活力および教育力の向上に係る支援活動

概要：①地域住民組織への出前講演や支援活動，②小・中・高・特別支援学校の児童・生徒（教員，保護者）を対象とした講習会，等を通して，地域住民の健康向上および児童・生徒の科学教育・スポーツ活動に貢献するイベント等を実施した。

	開催日・場所	内容	参加者	担当者
1	5月26日 笠岡市六島	笠岡諸島島の運動会(笠岡市六島)に参加し、介護予防測定(身体組成、運動機能など)を実施した。 (笠岡市ならびにNPO法人かさおか島づくり海社からの依頼)	笠岡諸島島民 約60名	綾部准教授、学生6名(うち、2名は大学院生)

2	2月11日 総社市	総社市健康フェスティバル(総社市)に参加し、健康体力相談コーナーを実施した。 (総社市健康医療課からの依頼)	総社市民 約40名	綾部准教授、学生3名(うち、2名は大学院生)
3	3月5日 総社市	そうじゃわくわくフェスティバル(総社市)に参加し、体力測定コーナーを実施した。 (総社市教育委員会からの依頼)	総社市民 約30名	犬飼教授、綾部准教授、学生2名
4	3月18日 笠岡市白石島	笠岡市白石島健康体力相談(笠岡市白石島)に参加し、健康・身体機能測定(身体組成、骨密度、動脈硬化など)と講演会を実施し。 (岡山県(おかやま大学生中山間地域等研究・連携促進事業)の一環)	笠岡諸島島民 約30名	綾部准教授、学生10名(うち、2名は大学院生)

担当：情報工学部人間情報工学科

教授 佐藤 洋一郎 (代表者)

教授 穂苅真樹 (コーディネータ)

准教授 綾部誠也 (コーディネータ)

学科全教員 (企画, 担当, 他)

(13)犬島 ESD ワークショップ「いぬじま探検隊 PART II」

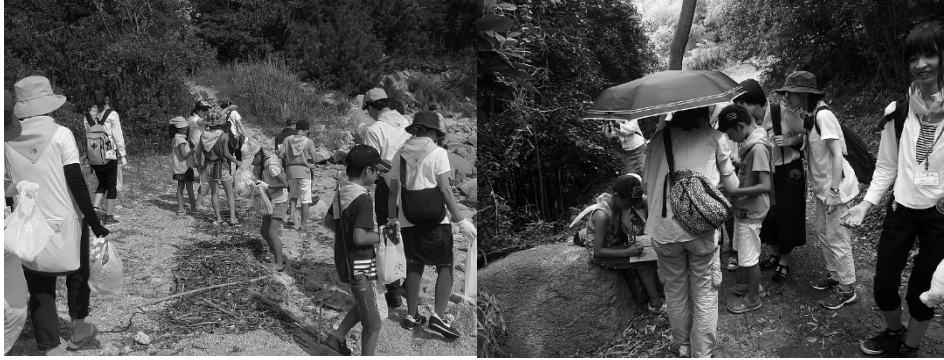
概要：小学生(3、4年)を対象としたESD(持続可能な社会に向け行動する人材の育成)ワークショップ「いぬじま探検隊 PART-2」を岡山市の犬島自然の家で開催した。デザイン学部の学生12名が参加し、企画から運営までをトータルに担当した。台風15号の影響による犬島連絡船の欠航で、1泊2日の予定を急遽日帰りプランに変更したため、実施できなかったワークショップの一部を、追加計画として別日程で実施し、小学生たちに「地域・自然・未来」について考える機会を提供できた。

日時：平成27年8月24日(月)

場所：岡山市犬島自然の家周辺(岡山市東区犬島327-5)

内容：・ワークショップ①島内探検
・ワークショップ②ごみ拾い
・ワークショップ③お宝発見

参加者：10名(総社市内小学生9名、保護者1名)



日 時：平成 28 年 2 月 14 日（日）追加ワークショップ

場 所：旧堀和平邸（総社市総社 2 丁目 5-20）、総社宮境内（県総社市総社 2-178-1）

内 容：ワークショップ④鬼凧揚げ

参加者：8 名（総社市内小学生）



担 当：デザイン学部デザイン工学科 教授 森下 眞行（代表者）

講師 朴 貞淑

助教 上田 篤嗣

（14）「アニメとエコのまちづくり」第6回忍者学校

ビカリアによる可視光通信温度計の制作—スマホでキャッチー

概 要： 本学デザイン学部大学院生小川君が講師として昨年東大によって開発された導線マーカーを使った塗り絵を制作した。電気が通るマーカーの一筆書き上にボタン電池とLEDをつけて蛍光ペンで塗り絵をした。さらにブラックライトを当てて蛍光カラーが反応する。その後町民らも加わり A2 パネルで作品を制作した。デザインはビカリアをモチーフにした。



可視光通信の IT キッドを組み込み温度計にして、スマホで温度を表示させた。

日 時：平成 28 年 3 月 5 日（計 1 回）

場 所：岡山県勝田郡奈義町豊沢

こども会集会室

参加者：【PM13：00～ エコ教室】幼稚園名生 3 名、町民 10 名

担 当：デザイン学部デザイン工学科 准教授 児玉由美子（代表者）

（15）写真ワークショップ

写真ワークショップ〈PHOTO STADIUM〉

概 要：写真作品の制作に関する基礎的な知識及び実践講座を経て撮影を行った。倉敷アイビースクエア内アイビー学館で開催される PHOTO STADIUM 展示に向けての応募作品としての完成を目指し、参加者計 39 名がそれぞれの応募作品を提出した。PHOTO STADIUM グランプリ選出作品は倉敷フォトミュラル f 個展部門展示において、倉敷アイビースクエア内アイビー学館で展示した。



日 時：【A 日程】平成 27 年 8 月 14 日、8 月 15 日

【B 日程】平成 27 年 8 月 16 日、8 月 17 日

（計 4 回）

場 所：倉敷市民会館（第 1 会議室～第 5 会議室）

参加者：【A 日程】25 名 【B 日程】14 名

担 当：デザイン学部造形デザイン学科 准教授 北山由紀雄（代表者）

写真ワークショップ〈親子対決フォト・ワークショップ〉

概 要：デジタル一眼レフカメラを用いての写真撮影を行った後、小学生とその保護者が別会場に分かれて、それぞれが倉敷フォトミュラル f への応募作品の制作を行った。また、小学生参加者は、これ以外に各自フォトフレームの制作を行った。倉敷フォトミュラル f へ応募した親子それぞれの作品を、倉敷アイビースクエア内アイビー学館で展示した。



日 時：平成 27 年 8 月 22 日、23 日（計 2 回）
場 所：倉敷市民会館（第 1 会議室～第 5 会議室）
参加者：【22 日】15 組 28 名 【23 日】15 組 30 名
担 当：デザイン学部造形デザイン学科 准教授 北山由紀雄（代表者）

（16）高梁市成羽美術館との連携によるデザイン活動

概 要：造形デザイン領域の教員 3 名と 3 年次生 5 名が、高梁市成羽美術館との連携によるデザイン活動に取り組んだ。化石の研究者によるレクチャーの聴講や美術館収蔵品の見学調査を実施したうえで、ミュージアムショップのためのグッズを企画・提案した。さらに、商品化を想定しながら制作した成果物をミュージアムショップに展示し、岡山県高梁市の地域資産である植物化石の魅力と産学官連携活動成果について幅広い世代の一般市民に向けて公開した。



日 時：平成 27 年 7 月 18 日から 9 月 13 日（計 50 日間）
場 所：高梁市成羽美術館ミュージアムショップ
参加者：展示期間中 約 2,400 名
担 当：デザイン学部造形デザイン学科 准教授 島田清徳（代表者）
教授 難波久美子、助教 樫尾聡美

（17）素材体験型ワークショップと研究発表会

概 要：造形デザイン領域の教員 4 名と大学院生 2 名及び学部 3 年次生 7 名が、幅広い世代の一般市民に向けて、糸や布等の様々な素材を体験できるワークショップを実施した。同時に展覧会形式による研究発表会を実施し、セラミックやテキスタイルの素材を利用した授業課題作品や産学官連携事業のデザイン成果物等を展示公開した。



日 時：平成 28 年 2 月 2 日から 2 月 7 日
（計 6 日間）
場 所：山陽新聞社さん太ギャラリーおよび社屋ロビー
参加者：展示期間中 115 名
担 当：デザイン学部造形デザイン学科 助教 樫尾聡美（代表者）
教授 難波久美子、准教授 島田清徳、准教授 真世土マウ

3.2 行政への貢献

3.2-1 岡山県への貢献

本学の設置者である岡山県へは各種の委員会やイベントで多くの貢献を行ってきた。本学は保健福祉学部、情報工学部、デザイン学部から構成されているが、以下のような委員の応嘱状況である。

	岡山県	岡山県 教育委員会	岡山県 教育庁	岡山県立 美術館	合計
保健福祉学部	21	0	2	0	23
情報工学部	4	0	0	0	4
デザイン学部	7	1	0	1	9
合計	32	1	2	1	36

保健福祉学部では、介護保健審査会、社会福祉審議会、子ども・子育て会議、健康おこやま21推進会議、食の安全・食育推進協議会など学部の特性に応じた委員会の他に、環境審議会、都市計画審議会、芸術文化賞選考委員会などに貢献している。

情報工学部では、高度情報化推進協議会、工業技術センター外部評価委員会などに貢献している。

デザイン学部では、建築審査会、都市計画審議会、屋外広告物審議会、文化財保護審査会などの他に、土地開発審査会、環境影響評価技術審査会、おこやまUDシニアアドバイザー会議などにも貢献している。

また、共同研究・受託研究等の詳細は53頁を参照されたい。デザイン学部では学部の特色を活かし、受託研究としてポスターやグッズ等のデザイン、動画やウェブサイトの作成等を行っている。

その他にも本学として、岡山県生涯学習センターの委託を受け、「岡山県生涯学習大学主催講座」を開催している。詳細は30頁を参照されたい。



3.2-2 市町村への貢献

県内市町村及び県外への委員の応嘱状況は以下のようになっている。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
国	0	2	2	4
総社市	23	3	3	29
岡山市	3	1	1	5
倉敷市	2	1	2	5
津山市	1	0	0	1
笠岡市	2	0	0	2
備前市	2	0	0	2
美作市	2	0	0	2
浅口市	2	0	1	3
真庭市	1	0	2	3
井原市	0	1	0	1
瀬戸内市	1	0	0	1
美咲町	0	0	1	1
広島県	0	0	1	1
奈良県	4	0	0	4
奈良県三郷町	1	0	0	1
奈良県香芝市	1	0	0	1
滋賀県大津市	2	0	0	2
滋賀県守山市	1	0	0	1
滋賀県草津市	3	0	0	3
滋賀県野州市	1	0	0	1
合計	52	8	13	73

活動の内容は、保健福祉学部の応嘱が圧倒的に多く、内容的には地域の福祉、介護、子育て、健康などに関するものが多くを占めている。

なお、総社市との間では、平成20年に締結した包括連携協定に基づき様々な活動を行っており、本学が有する知識や情報、研究成果を地域に還元する一方、総社市からはインターンシップの提供等のサポートを受ける相互支援体制を形成している。

(主な連携事業)

[連携活動において地域に貢献したもの]

- ① 共同研究等の実施
【共同研究・受託研究等(行政関係)実績(53頁)を参照】
- ② 市民向けPR事業
 - ア 「夏休み県大探検」【8月21日(金)AM、3学部対応】
 - ・参加者 78名(市内小学生44名と保護者34名)
 - ・テーマ 「声って不思議、歌ってステキ♪」
「不思議なカメラを使って遊ぼう！」
「ロボットやキャラクタになってみよう！」
「脳をだましてみよう！」
「木小屋くうかんを体験しよう」
 - イ 「夏休み工作教室」【8月21日(金)PM、デザイン学部対応】
 - ・参加者 42名(小学生高学年20名と保護者22)
 - ・内容 「マーブルランプ作り」
～自分でデザインしたマーブル模様の
テーブルランプを作ろう！～
- ③ 県大そうじゃ子育てカレッジ
【保健福祉推進センター実績(94頁)を参照】
- ④ 総社市防災訓練【11月15日(日)】
 - ・会場 総社市立維新小学校
 - ・概要 岡山県立大学消防応援隊6名が「知っておきたい防災知識」を講演

[連携活動において支援を受けたもの]

- ① 共通教育講義「大学で学ぶ」への講師派遣【5月27日(水)】
「人間力」(講師：片岡市長) ※ 新入生約400名を対象
- ② インターンシップの実施【8月7日(金)～9月4日(金)】
2～4年生が参加、インターンシップ報告会では学生一人ひとりが体験で得た成果を報告するとともに総社市へ提言を行った。
- ③ 中国南昌大学校の日本語・日本文化生活体験研修
【7月28日(火)～8月5日(水)】
本学が中国南昌大学から語学研修生11名を受入れ実施
総社市は市内観光、総社市民との交流やホームステイの実施等で支援
- ④ ハサヌディン大学民族舞踊グループ受入【11月6日(金)～10日(火)】
インドネシアハサヌディン大学から約20名の学生を受入れ実施

3. 2-3 各種委員・講師の応嘱(行政関係)

本学における平成27年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区 分	国・独立 行政法人	県	市町村	計
保健福祉学部	4	24	36	64
情報工学部	8	5	2	15
デザイン学部	1	12	10	23
合 計	13	41	48	102

(注) 公表を制限されているものを除く

本学における平成27年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区 分	国・独立 行政法人	県	市町村	その他	計
保健福祉学部	0	18	12	0	30
情報工学部	0	0	4	0	4
デザイン学部	2	9	3	0	14
合 計	2	27	19	0	48

A. 各種委員の応嘱

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
井上 幸子	岡山市教育委員会	岡山市問題行動等対策委員会委員
二宮 一枝	岡山市	岡山市開発審査会委員
山本 浩史	倉敷市	倉敷市介護認定審査会委員
久保田 恵	倉敷市教育委員会	平成27年度スーパー食育スクール事業に係る推進委員会委員
二宮 一枝	総社市	総社市医療費適正化推進委員会委員
桐野 匡史		総社市障害支援区分認定審査会委員
久保田 恵		「子育て王国そうじゃ」まちづくり協議会委員
井上 幸子		総社市障害支援区分認定審査会委員

氏名	従事先	従事内容
井上 幸子	総社市	総社市障害者施策推進協議会委員
周防 美智子		ひきこもり支援等検討委員会委員
二宮 一枝		総社市介護保険運営協議会委員
二宮 一枝		総社市建築審査会委員
二宮 一枝		第1・2回全国屈指福祉会議委員
平松 智子		総社市働く婦人の家運営委員会委員
吉本 孝司		総社市国民健康保険運営協議会委員
近藤 理恵		第1・2回全国屈指福祉会議委員
近藤 理恵		総社市特別職報酬等審議会委員
京林 由季子		総社市人権教育推進協議会委員
近藤 理恵		「子育て王国そうじゃ」まちづくり協議会委員
近藤 理恵		平成26・27年度第1回総社市総合計画審議会委員
近藤 理恵		総社市子ども・子育て会議委員
中野 菜穂子		「子育て王国そうじゃ」まちづくり協議会委員
樂木 章子		日本語教育事業運営委員会委員
藤井 保人		総社市男女共同参画推進審議会委員
坂野 純子		障がい者理解啓発パンフレット作成委員
坂野 純子		総社市男女共同参画推進審議会委員
中村 孝文	浅口市	浅口市障害支援区分認定審査会委員
佐藤 ゆかり		浅口市介護認定審査会委員
岸本 妙子	瀬戸内市	瀬戸内市地産地消ヘルシーメニュー審査委員会委員
久保田 恵	備前市	備前市健康づくり推進協議会委員
村社 卓	笠岡市	笠岡市福祉施策審議会委員
近藤 理恵		笠岡市子ども・子育て推進会議委員
二宮 一枝	津山市	津山市健康づくり推進審議会委員
竹本 与志人	美作市	美作市介護保険事業計画策定委員会委員
周防 美智子	奈良県生駒郡三郷町	第1回 三郷町介護保険運営協議会委員
周防 美智子	滋賀県守山市	守山市いじめ問題第三者調査委員会委員

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
岸原 充佳	文部科学省科学技術政策	科学技術専門家ネットワーク専門調査委員
滝本 裕則	研究所	科学技術専門家ネットワーク専門調査委員
高戸 仁郎	岡山市	岡山市スポーツ推進審議会委員
菊井 玄一郎	井原市	井原市情報化推進懇談会委員

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
齋藤 美絵子	岡山市	岡山市景観審議会委員
福濱 嘉宏	倉敷市	倉敷市住生活基本計画審議会委員
村木 克爾	総社市	総社市総合計画審議会委員
森下 眞行		総社市吉備線設備方針等検討委員会委員
齋藤 美絵子		総社市放送番組審議会委員
齋藤 美絵子	浅口市	浅口市都市計画審議会委員
三原 鉄平	真庭市	真庭市指定管理者選定審議会委員

B. 講師派遣

保健福祉学部

氏名	従事先	従事内容
周防 美智子	奈良県教育委員会	家庭の教育向上のための保護者対応ステップアップ 研修講座
周防 美智子		ブラッシュアップ研修講座講師
周防 美智子		奈良県スクールソーシャルワーカー活用事業におけ るスーパーバイザー
周防 美智子		中学校・高等学校生徒指導連絡協議会講師
中野 菜穂子	岡山市	「生涯現役社会づくり検討会」
平松 智子	総社市	栄養委員研修会（講話と調理実習）講師
木本 眞順美	真庭市	「食物アレルギーへの対応について」
久保田 恵	備前市	乳幼児健診栄養相談従事者のスキルアップを目的と した勉強会
池田 隆英	美作市教育委員会	美作市内幼稚園・保育園職員研修会講師

氏名	従事先	従事内容
周防 美智子	草津市教育委員会	草津市学校問題サポートチーム会議・スーパーバイザー
周防 美智子		草津市グレードアップ連絡会講師
周防 美智子	大津市教育センター	教育相談～教育相談の実際～
周防 美智子		教科等領域別研究部会 生徒指導部会 公開研修講座講師
周防 美智子	滋賀県野州市	「適応指導支援講座・野州市教師育成塾Ⅶ」講師
周防 美智子	草津市	草津市教職員夏期研修講座講師
周防 美智子	奈良県香芝市	香芝市教育講演会講師

情報工学部

氏名	従事先	従事内容
綾部 誠也	総社市	健康フェスティバル講師「健康体力相談～健康づくりのために最適な運動の測定・相談～」
綾部 誠也	総社市教育委員会	そうじゃわくわくフェスティバル体力測定コーナー講師
犬飼 義秀		そうじゃわくわくフェスティバルバレーボール講師
渡辺 富夫	倉敷市	平成27年度高梁川流域連携中枢都市圏ビジョン懇談会意見交換

デザイン学部

氏名	従事先	従事内容
岩本 弘光	林野庁	まちと森林をつなぐ木づかい全国キャラバン講師「木の利用で、暮らしが変わる。地域が変わる。～木材利用の価値とこれからの可能性」
柴田 奈美	国立療養所邑久光明園	「楓」俳句欄の選者
吉原 直彦	広島県	第3回新県美展（第67回広島県美術展）
関崎 哲	倉敷市立美術館	実技講座講師「銅版画・石版画」
岩本 弘光	真庭市	北房地域新保育・教育環境整備事業への政策アドバイザー
柴田 奈美	美咲町教育委員会	「第19回さくらのうた」俳句部門審査員

3. 2-4 共同研究・受託研究等(行政関係)

A. 共同研究

相手方	題目	研究代表者
総社市	総社市における一人親世帯の子どもの現状と支援策に関する調査研究	保健福祉学部 近藤 理恵教授
総社市	総社市防災情報総合ウェブサイト「家族だそうじゃ！みんなで減災・みんなのために！」のデジタル版ハザードマップ部分の多言語化(日本語・英語・ポルトガル語・中国語)	デザイン学部 齋藤 美絵子准教授

B. 受託研究

相手方	題目	研究代表者
岡山県 (農林水産部農政企画課)	県産農林水産物の機能性調査事業	保健福祉学部 伊東 秀之教授
笠岡市	地域福祉に関するアンケート調査研究	保健福祉学部 村社 卓教授
3Rキャラクタープロジェクト実行委員会	3Rプロジェクトごみの分別啓発事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 (総合政策局公聴広報課)	戦略的な情報発信に係る共同研究事業	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 (都市計画課)	岡山後楽園情報提供アプリ機能追加業務	デザイン学部 嘉数彰彦教授
岡山県 (おかやまマラソン実行委員会事務局総務企画課)	おかやまマラソン入賞メダルデザイン作成	デザイン学部 西田 麻希子准教授
岡山県 (産業労働部産業振興課市町村課)	おかやまグリーンバイオ・プロジェクト公式ウェブサイトのための情報デザイン	デザイン学部 齋藤 美絵子准教授

C. その他の外部資金

相手方	題目	研究代表者
中国経済産業局	極短パルスレーザーとメッキによるパワー半導体ガラス基板のマスクレス配線工法開発	情報工学部 尾崎 公一教授
	3次元LSIウェハ薄化を実現する革新的接合工法の開発	
岡山ESD推進協議会	岡山市犬島地区を拠点とした次世代型ESD教育プログラムの開発	デザイン学部 森下眞行教授

3.3 企業等への貢献

この章では3.2で述べた自治体以外の共同研究、受託研究等について記載する。企業等との関連では、共同研究・受託研究・教育研究奨励寄附金・その他の4つに分類できる。学部別の件数は以下のようにになっている。金額については第5章を参照されたい。

	保健福祉学部	情報工学部	デザイン学部	合計
共同研究	13	19	13	45
受託研究	2	10	7	19
教育研究奨励寄附金	7	22	7	36
その他	1	3	1	5
合計	23	54	28	105

3.4 人材の育成

3.4-1 保健福祉学部

A. 看護学科

昭和 22 年から平成 15 年の間に、保健婦規則による保健婦及び養護訓導の養成では 169 名、岡山県保健婦専門学院・岡山県公衆衛生看護学校における保健師・養護教諭一種の養成では 2,348 名を輩出している。

昭和 37 年の岡山県立高等看護学校開校から平成 26 年までの 52 年間でおよそ 2200 名の卒業生を送り出し、概ね 1,450 名は岡山県内の看護職者として巣立ち、看護実践および教育・研究、行政等の第一線で活躍している。また、平成 5 年の岡山県立大学保健福祉学部看護学科開設時より学部教育の選択制として助産師教育を実施しており、4 年間で看護師と助産師の国家試験受験資格を得ることができる県内唯一の大学である。平成 26 年までに助産師課程の修了者 72 名の大半は、岡山県内の医療施設等に就職している。

なお、保健師教育は法改正（修業年限延長）を機に、平成 25 年度から大学院前期課程で行っており、全国では 2 番目の開設である。

本学の卒業生は、地域を見守る看護専門職者として貢献している。

(1) 過去 5 年間の進路状況

就職および進学希望者の内定率は 100% である。国家試験合格率は、表 2.4-1 のように、看護師・保健師・助産師のいずれにおいても、5 年連続で全国平均を上回っている。就職および進学希望者の内定率とその県内外の割合は図 2.4-1 の通りである。

表 2.4-1 国家試験合格率 (%)

	看護師			保健師			助産師					
	本学	全国	全国 大学	本学	全国	全国 大学	本学	全国	全国 大学			
H22 年度	100 回	100	91.8	98.3	97 回	95.8	86.3	89.7	94 回	100	97.2	97.9
H23 年度	101 回	100	90.1	97.3	98 回	92.9	86.0	89.2	95 回	100	95.0	96.0
H24 年度	102 回	100	88.8	96.0	99 回	100	96.0	97.5	96 回	100	98.1	99.2
H25 年度	103 回	97.6	89.8	97.0	100 回	100	86.5	88.8	97 回	100	96.6	97.6
H26 年度	104 回	97.7	90.0	96.9	101 回	100	99.4	99.6	98 回	100	99.9	100

注：全国とは全受験者数に占める全合格者数の割合を示す
 全国大学とは新卒受験者数に占める大学新卒者の合格者数の割合を示す

過去 5 年間の入学生の 65% (130 名) が岡山県出身者であり、そのうちの 85% (110 名) は看護職者として岡山大学病院や倉敷中央病院など県内屈指の医療施設や保健所等で活躍している。

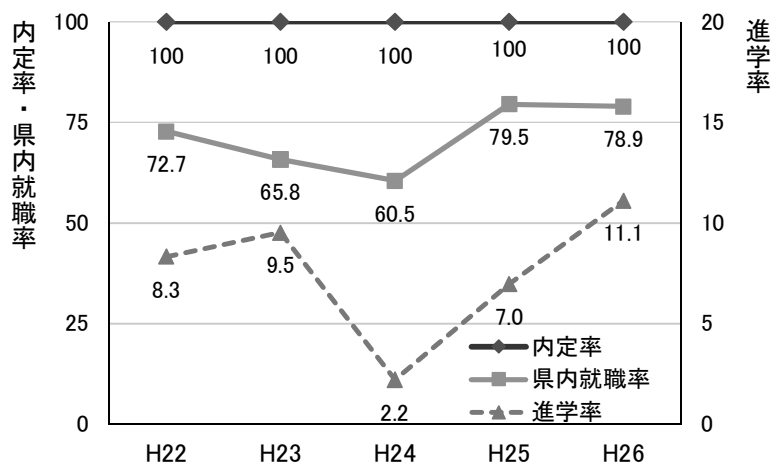


図 2.4-2 就職および進学者の内定率と県内外の割合 (%)

(2) 県内看護学校・病院等の看護職者の養成

【主な看護研究支援施設と研究課題数】

患者へより質の高い援助を提供すること（業務改善）、後進の育成能力の向上や臨床現場における看護師の看護研究能力の向上を目的とした看護研究に関する講義および研究の講評などの支援を行っている。本学科教員は平成 22～26 年度の 5 年間でおよそ 450 名の看護師の養成へも寄与している。また、臨床アセスメント能力を向上する目的で「卒業生里帰り研修」の事業を平成 26 年度から開始し、学部授業を卒業生が聴講するとともに、在学生とのディスカッションを通して、相互に看護を深める機会を持っている。

◎公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院：30 題

◎日本赤十字社岡山赤十字病院：60 題

◎地方独立行政法人岡山県精神科医療センター：18 題

【岡山県看護協会との連携】

日本看護協会認定看護管理者規定により認定された教育機関の一つである岡山県看護協会認定看護管理者教育課程委員会の委員として、教育課程（ファーストレベル・セカンドレベル・サードレベル）の企画・運営・評価を行い、委員会活動の一環として、教育修了者のフォローアップ研究の企画、運営、講評を行っている。平成 23 年から 27 年度の 5 年間にわたり、岡山県看護協会が主催する認定看護師（糖尿病看護分野、皮膚・排泄ケア）の共通科目および糖尿病看護分野の専門科目の講義・演習を行った。岡山県の糖尿病分野の認定看護師の充足を持って、今年度でその教育を終了した。さらに、看護師職能集会、岡山県実習指導者講習会、岡山県看護学会、保健師職能集会等の講師として看護専門職の看護実践能力の開発・向上に努めている。

B. 栄養学科

(1) 栄養学科の教育状況

栄養学科は、人の体のしくみを理解したうえで、食品の科学、調理法から衛生管理、栄養教育までの広い知識・技術を身につけ、健康づくり・疾病の予防、治療などに応用できる人材の育成をめざしている。そのため、食と健康の相互関係を科学する「生命科学としての栄養学」に主眼を置き、「食物を摂取する人」を中心に据えたカリキュラムを編成し、食品学、栄養学、生命科学を3本柱とする関連科目を体系的に教育している。表2.4-3に示すように管理栄養士国家試験合格率は90%以上の高い水準を保っており、高度な専門知識を習得した人材の育成を行っている。また栄養学科で取得可能な資格は表2.4-4のとおりである。

表 2.4-3 過去5年間の管理栄養士国家試験合格率

卒業年度	H21年 度	H22年 度	H23年 度	H24年 度	H25年 度	H26年 度
本学	90.0%	95.7%	97.6%	94.7%	90.2%	95.2%
管理栄養士養成課程 全国・新卒	78.7%	81.4%	91.6%	82.7%	91.2%	95.4%
全体（既卒、栄養士養成校含）	32.2%	40.5%	49.3%	38.5%	38.5%	55.7%

表 2.4-4 栄養学科で取得可能な資格

- ・栄養士
- ・管理栄養士国家試験受験資格
- ・食品衛生管理者（任用資格）
- ・食品衛生監視員（任用資格）
- ・栄養教諭一種免許状

(2) 栄養学科の就職・進学状況

平成27年度の栄養学科の就職率は1月末現在で、35名（95%）であった。産業別割合は病院・医療施設12名（24%）、公務員9名（24%）、社会福祉事業（老人・介護・障がい者・児童等）5名（14%）、一般企業（食品・化学等）5名（14%）、大学院4名（11%）、未定2名であった。そのうち大学院を除く、管理栄養士・栄養士として就職するものは名24名（67%）、食品衛生監視員、食品分析等が4名（12%）、一般事務3名（9%）であった。

おもな就職先としては、岡山県、三重県、由布市、総社市等の市町村行政機関、岡山県栄養教諭および山口県、兵庫県、岡山県の学校栄養職員、倉敷中央病院、心臓病センター榊原病院、島根大学医学部附属病院、済生会今治病院、淳風会健診センター等の医療機関、ハートフルきらめき荘等の高齢者福祉施設や今保育園、岡山協立保育園等の児童福祉施設、更に神戸屋、ファンケル等食品・化学企業における商品開発や品質管理業務など多岐にわ

たる。これらの職務に対応可能な多数の優秀な卒業生を輩出している。

(3)岡山県内専門職との連携及び支援

栄養学科教員は各自の専門性を活かし、岡山県内で活躍している卒業生を含む各職域の管理栄養士・栄養士等の専門職と連携して教育・研究事業を実施するとともに、本学保健福祉推進センターの所属組織である栄養学研究会の企画・運営や外部講師として講演する際には研究成果に基づく最新の知見の情報提供や技術支援に努めている。以下にこれまで実施した一例を示す。

- ・ 集団給食従事者（保育園、学校、病院、高齢者施設等）に対する支援：各職域別に給食での食物アレルギー対応の実際に関する講演を実施。特に本学地域貢献特別研究で岡山県内保育園を対象に実施した食物アレルギー対応実施時の危機管理に関する研究の成果である「ヒヤリハット報告書」を用いて研修を実施し、栄養管理の向上に努めた。

H21	岡山県保育協議会 笠岡支部研修会
H22	備前保健所井笠支所、吉備中央町 岡山県保育協議会 給食従事者研修会
H23	備前保健所及び備前保健所東備支所で実施 岡山県保育協議会 久米苫田地区研修会 県大・保健福祉推進センター 栄養学研究会
H24	岡山県保育協議会 久米苫田地区研修会 県大・保健福祉推進センター 栄養学研究会
H25	真庭保健所
H26	真庭市
H27	瀬戸内市

- ・ 行政栄養士に対する支援：市町村行政栄養士が行う健康増進計画や食育推進計画の評価・策定業務に関するスキルアップ研修会や栄養改善協議会での研修会講師を務めた。

H22	倉敷市保健所 管理栄養士研修会 岡山県市町村栄養士協議会研修会
H23	岡山県市町村栄養士協議会研修会
H24	岡山県市町村栄養士協議会総社支部研修会
H25	岡山県備前市栄養改善協議会
H26	備前市、総社市、美作市栄養改善協議会
H27	備前市、総社市、美作市、浅口市栄養改善協議会

・岡山県との連携

保健福祉行政：保育所での栄養管理や食育推進に関する研修会で講師を務めた。

教育委員会：栄養教諭を中核とした食育推進事業で地域連携検討委員会委員として生活習慣・食生活アンケート調査の分析や事業への助言を実施、また栄養教諭 3 年目研修会講師を務めた。

更に教職課程担当教員を中心に栄養教諭免許更新講習を主宰し、栄養教諭のリカレント教育の機会を提供するとともに講師を務めた。

岡山県保育所研修会 乳児栄養 (H21～H27)
保育園における食育の推進に関する研修会 (岡山県、岡山市、備前市、赤磐市、美作勝英地区、久米・苫田地区、久米南町、総社市、笠岡市、真庭市、瀬戸内市、矢掛町で実施)
寄島鴨方地区、岡山市、総社市内小学校教職員研修会
津山市・総社市・岡山市幼稚園協議会
栄養教諭を中核とした食育推進事業 (H23 笠岡市、H24 矢掛町、H25 早島町、H26・27 倉敷市)
栄養教諭 3 年目研修講習会の講師 (H25,26,27 年度)
栄養教諭免許更新講習会の実施 (主催県立大)

C. 保健福祉学科

(1)保健福祉学科のあゆみと教育実績

こんにちのような複雑化・高度化された社会において、人々が抱える生活問題に十分に対応するためには、保健と福祉の両面の政策・サービスが融合された、新しい制度・サービスの構築が必須である。このような時代背景のもと、保健福祉学科は、日本で初めて保健福祉学の名称を用いた学科として平成5年4月に開学した。伝統的な社会福祉学に加え、保健学(健康科学)、心理学、障害科学分野の教員も加わって、新しい保健福祉学の創造と発展、現代的ニーズにマッチした知識と技術を有する社会福祉士の育成に力を注いできた。以来、多数の優秀な人材を福祉分野に輩出しており、彼らの中には現在では、それぞれの職場や地域で管理職・リーダーとして活躍している者も少なくない。また、平成9年度からは大学院修士課程を、平成15年度からは博士課程を設置し、高度専門職や教育・研究者を社会に送り出している。施設長、職場の管理職・リーダー、団体代表、大学教員などとして活躍している卒業生の中には、全国レベルで活動している者や、帰国後母国で保健福祉学の教育・実践に携わっている者も多い。さらに、平成25年度からは、保健福祉学科は「社会福祉学専攻」「子ども学専攻」の2専攻に分かれ、それぞれの教育理念に基づき、社会福祉士と介護福祉士、幼稚園教諭と保育士の養成を柱として、少人数制教育による本格的な専門職育成および大学院における高度専門職・研究者育成に取り組んでいる。

社会福祉学専攻の中に設定されている介護福祉士養成教育では、平成5年に岡山県立大学短期大学部で養成教育が始まり、13期生までに約650名の介護福祉士を養成してきた。卒業生の中には、大学の教員や施設管理者等、介護福祉の現場でリーダーとして活躍している者が多い。平成19年には、短期大学部を発展的に改組し、保健福祉学部保健福祉学科

に介護福祉コースを設置し、4年制教育を開始している。公立4年制大学で介護福祉士を養成しているのは、全国でも5校のみである。今後深刻化する高齢社会の様々なニーズに対応するため、専攻では「ケアチームリーダー」「ケアマネジメント力」「介護福祉の専門性の向上」「介護福祉士としてのリーダー」等の人材養成に向けたカリキュラムを構築している。講義・演習では、基本的なケア技術の習得に加え、ケア技術の根拠となる原理原則を演習の中で実験的に検証し、研究に発展させている。また介護実習においては、eラーニングを導入し、実習巡回時の対面指導と遠隔指導を組み合わせ、さらに積極的に学習効果を上げる指導体制を整えている。

一方、子ども学専攻は、岡山県における保育士養成事業の伝統を受け継ぐものである。日本では戦後間もない昭和23年に児童福祉法が施行され、児童の健全な育成を担う施設としての保育所等の児童福祉施設や、保育に従事する専門職としての保育士（当時は保母）資格の法的基盤が整備された。岡山県における保育士養成事業は、他県の11校とともに全国で最も早く、岡山県立保育専門学園において昭和25年から開始されている。保育士養成課程が岡山県立短期大学に移行された昭和43年からは、幼児の健全育成に携わるもう1つの柱である幼稚園教諭の養成課程を設置して、岡山県立大学短期大学部での教育を経て現在に至っている。卒業生の多くは、幼稚園・保育園の職員として巣立っていく。その中には、現在では園長などの指導的立場で活躍している者も多い。大学・専門学校で教員研究に従事している者もいる。また、行政機関で児童育成や子育て支援に関わり、教育委員会の仕事をしている卒業生もいる。そして、平成19年からは保健福祉学科の中で保育者育成を行っており、児童養護施設や障害児施設、子育て支援センターに勤務する者も増えている。今後は、未就学児に教育と保育を一体的に提供する認定こども園など、卒業生の活躍の場はますます広がっていくことが期待されている。このような本学科における高い教育力は、実績としても高い就職・進学率、社会福祉士国家試験合格率となって現れている。

(2)就職・進学状況

保健福祉学科の就職率は、毎年ほぼ100%である。平成26年度の場合(就職希望者55名)、①国家公務員(法務教官)1名、②地方公務員(一般事務・福祉区分)4名、(福祉専門職)3名、(保育士)1名、③医療機関(医療ソーシャルワーカー)5名、(医療事務)1名、(介護福祉士)3名、④社会福祉施設(相談員)4名、(介護福祉士)10名、(生活支援員)7名、(保育士)4名、⑤私立保育園(保育士)6名、⑥一般企業(金融機関、教育産業等)3名、(福祉サービス企業)2名、⑦非営利団体(一般事務)1名であった。この内、県内就職者41名(内、県外出身者2名)、県外就職者14名(内、Uターン就職者11名)である。

進学は、大学院進学者(岡山県立大学、神戸大学)2名、専門学校進学者2名であった。

主な就職活動へのサポートとしては、①本学就職資料室及び就職相談(カウンセラー)の利用に関する情報提供及び本学就職ガイダンス開催の案内、②本学求人NAV Iシステム利用に関する指導、③学科職担当教員による個別就職相談対応及び指導、④医療・福祉事業所合同就職説明会の開催、⑤3年次生就職ガイダンス(4年生就職体験談)の実施、⑥

就職掲示板への求人票の掲示やメール等による求人情報の提供など積極的に実施している。

(3) 社会福祉士国家試験合格状況

社会福祉士の国家試験において、本学科はこれまで全国的にも高い合格率を示している(表 2.4-5)。学科では、国家試験合格に向けて模擬試験の実施、学生による自主的な学習会のサポート等を行うなど、国家資格取得に向けた学生の意欲向上に努めている。

表 2.4-5 過去 5 年間の社会福祉士合格率

	合格率 (%)	全国福祉系大学内順位 (10人以上受験校)	全体合格率 (%)
平成 22 年度	78.6	15/195	28.1
平成 23 年度	81.8	6/216	26.3
平成 24 年度	51.8	18/218	18.8
平成 25 年度	84.5	10/216	27.5
平成 26 年度	76.8	8/219	27.0

※合格率は新卒、全国福祉系大学内順位は新卒と既卒を合わせたものである。



ソーシャルワーク演習の授業風景

3.4-2 情報工学部

【方針】

情報工学部では、情報技術を活用して、人間および自然との調和を図りながら高度情報化社会の持続的発展に貢献できる技術者の育成を目指し、3つの学科を設置している。すなわち、3学科に共通する基盤技術としての情報工学に加え、“+α”の知識を得ることにより、将来を見据えた技術者人材(シーズ)を育成している。

情報工学部 = 情報工学・ICTを基盤として“+α”



図 2.4-6 3 学科の工学分野

- 情報通信工学科では、情報通信技術（ICT）を支える情報工学、通信工学、電子工学に関する幅広い知識と応用力、創造力を身に付けた技術者、
- 情報システム工学科では、情報工学、機械工学、インタフェース工学に基づいた領域横断型の感性を持った新たな工学的価値の創出に参加できる技術者、
- 人間情報工学科では、「人間中心の設計思想」に基づき、情報工学、人間工学、機器設計工学に関する知識を融合的に身に付けた技術者の育成を目指している。

【実績】

平成 26 年度には、153 名が学部を卒業、75 名が大学院を修了した。

このうち、大学院（博士前期課程）への進学者 71 名を除く 157 名の技術者の卵を社会に送り出した。岡山県内への就職者は学部卒業生 42 名（就職者の約 56%）、大学院修了生 12 名（就職者の約 24%）となっている。岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されている。就職先業種は、情報工学部の育成方針に沿った製造業、情報サービス業が中心であり、特に、大学院修了者の約 92%が、専門性を活かすべく、製造業および情報サービス業に就いている。今後とも、岡山県の産業振興に寄与する人材を育成すると共に、日本全国あるいは世界に向けたグローバルな技術者の育成に、教員一丸となって取り組んでいく。

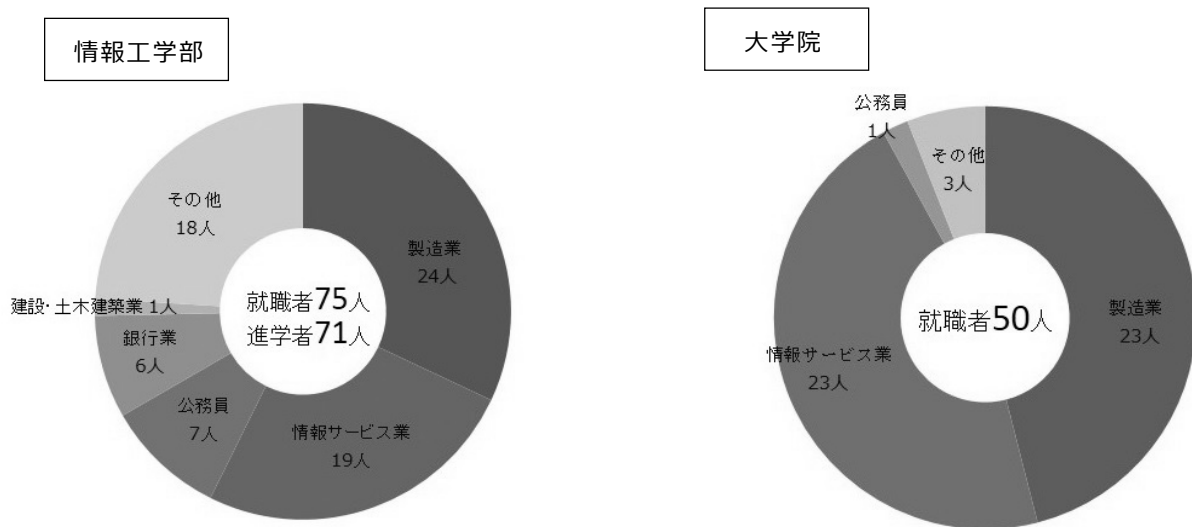


図 2.4-7 平成 26 年度卒業生・修了生の進路状況

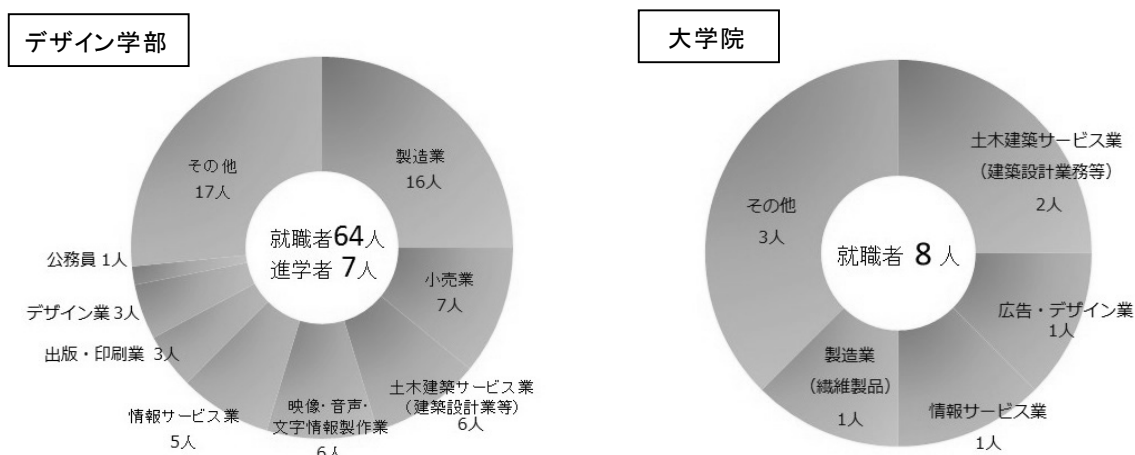
3. 4-3 デザイン学部

【方針】

デザイン学部では、情報化、グローバル化など刻々と変化する社会にあって、社会動向を的確に把握することにより課題を自ら発見し、それをデザインによって表現・解決することを通じて、豊かで新しい生活と文化の形成に必要なデザイン専門力とマネジメント能力を有する、地域と世界に貢献できる人材の育成を目指している。目指す人材像は次のとおりである。

- ・人間・社会・自然に関する十分な情報分析ができ、それを応用できる構成力及びデザイン力を身に付けている人材。
- ・豊かな教養と高い人間性を基礎として、新たな生活と文化の価値を創造する能力を身に付けている人材。
- ・発想・想像力、課題発見・解決力及び企画提案力を身に付けている人材。
- ・国際化に対応できる外国語によるコミュニケーション能力及びグローバルな視点を身に付けている人材。
- ・常に知的好奇心を持ち、学習継続意欲を身に付けている人材。

【実績】



平成26年度には、94名が学部を卒業、10名が大学院（修士課程）を修了した。このうち岡山県内への就職者は学部卒業生25名（就職者の約39%）、大学院修了生4名（就職者の約50%）となっている。岡山県内のみならず、日本全国各地での活躍が期待されている。

近年、一般企業からの求人も多く、就職先業種は、一般企業の広報部門からデザインの専門職まで多岐にわたっている。中には、起業や作家活動をする卒業生もいる。今後とも、岡山県内だけでなく、日本全国あるいは世界に向けた信頼されるグローバルな活躍ができるデザイナーの育成に、取り組んでいく。

3.5 その他の貢献

3.5-1 各種委員等への派遣(行政関係以外)

県立大学では3.2の行政以外でも人材面で多くの貢献を行っている。それを本章でまとめる。

本学における平成27年度の各種委員の応嘱の状況は、次のとおりである。

区 分	教育機関	協議会・ 各種団体等	計
保健福祉学部	4	47	51
情報工学部	2	17	19
デザイン学部	0	8	8
合 計	6	72	78

本学における平成27年度の講師派遣の状況は、次のとおりである。

区 分	教育機関	協議会・ 各種団体等	計
保健福祉学部	44	64	108
情報工学部	6	8	14
デザイン学部	14	7	21
合 計	64	79	143

本学における平成27年度の非常勤医師、非常勤講師及び役員の派遣の状況は、次のとおりである。

区 分	非常勤医師	非常勤講師	役 員	計
保健福祉学部	8	28	0	36
情報工学部	0	14	4	18
デザイン学部	0	6	2	8
合 計	8	48	6	62

3.5-2 職員表彰

A. 学内表彰

本学の職員表彰規程に基づき、職務上の功績が顕著であった尾崎公一教授（情報工学部 学部）、野津 滋教授（情報工学部）が表彰され、9月17日に理事長(学長)から表彰状と記念品が授与された。

(表彰理由)

(1) 尾崎教授

共同研究等による社会貢献に積極的かつ継続的に取り組んでおり、マグネシウム合金及びアルミニウム合金製部品の低コスト化・高付加価値化に関する顕著な共同研究実績など、岡山県内中小企業の新技術開発に関して数多くの実績をあげたことが高く評価された。

(2) 野津教授

開学以来、一般情報処理教育、情報系工学研究科、スポーツシステム工学科(現人間情報工学科)の立ち上げや大学機関別認証評価など、大学組織や教育体制の整備・充実及び教育改革に精力的かつ主体的に取り組み、大きな実績をあげたことが高く評価された。



表彰式後の記念写真

B. 学外表彰

保健福祉学部	教授	住吉 和子	Asia Future Conterence 2014 Best Poster Prize
保健福祉学部	教授	山下 広美	平成 27 年度栄養士養成功労
保健福祉学部	教授	伊東 秀之	日本生薬学会学術貢献賞
保健福祉学部	教授	近藤 理恵	国際ソロプチミストアメリカ日本西リジョン第 29 回リジョン大会ルビー賞
情報工学部	教授	渡辺 富夫	IEEE RO-MAN2015 (The 24th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication) Best Interactive Presentaion Award
情報工学部	教授	渡辺 富夫	IEEE RO-MAN2015 (The 24th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication) KAZUO TANIE AWARD
情報工学部	教授	佐藤 洋一郎	IEEE RO-MAN2015 (The 24th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication) KAZUO TANIE AWARD
情報工学部	助教	瀬島 吉裕	IEEE RO-MAN2015 (The 24th IEEE International Symposium on Robot and Human Interactive Communication) KAZUO TANIE AWARD
情報工学部	教授	若林 秀昭	JSST2015 (The 34th JSST Annual Conference International Conference on Simulation Technology) Outstanding Presentation Award
情報工学部	助教	瀬島 吉裕	岡山工学振興会科学技術賞
デザイン学部	助教	上田 篤嗣	「海の湖」浜名湖観光圏ロゴマーク優秀賞

※職名は受賞当時のものです。

4. 県立大学の組織と活動

- 4. 1 地域共同研究機構
- 4. 2 産学官連携推進センター
- 4. 3 地域連携推進センター
- 4. 4 保健福祉推進センター
- 4. 5 認定看護師教育センター

4.1 地域共同研究機構

4.1-1 体制

地域共同研究機構は、平成 17 年 10 月、県立大学の社会貢献体制を見直した結果、地域貢献活動を全学横断的に強力かつ効率的に推進するために発足した。発足以来、本学の教育研究活動を活性化し、地域社会や行政機関との連携を深め、地域産業の振興や福祉の充実を図るためにさまざまな活動を行ってきた。

平成 27 年度の地域共同研究機構の体制は以下のとおりである。

所 属	役 職	氏 名	職 名	学 部 名
地域共同研究機構	機構長	渡辺 富夫	教 授	情報工学部
	副機構長	佐藤洋一郎	教 授	情報工学部
産学官連携推進 センター	センター長	渡辺 富夫	教 授	情報工学部
	副センター長	岡崎 順子	教 授	保健福祉学部
		伊藤 信之	教 授	情報工学部
		村木 克爾	教 授	デザイン学部
	幹事	岡崎 愉加	准教授	保健福祉学部
		山本登志子	准教授	保健福祉学部
		高戸 仁郎	教 授	情報工学部
		市川 正美	准教授	情報工学部
		中西 俊介	准教授	デザイン学部
	保健福祉推進センター	センター長	谷口 敏代	教 授
副センター長		實金 栄	准教授	保健福祉学部
幹事		池田 理恵	准教授	保健福祉学部
		平松 智子	准教授	保健福祉学部
		樟本 千里	講 師	保健福祉学部
		國島 丈生	准教授	情報工学部
		朴 貞淑	講 師	デザイン学部
認定看護師教育 センター	センター長	住吉 和子	教 授	保健福祉学部
地域連携推進センター	センター長	佐藤洋一郎	教 授	情報工学部
	副センター長	久保田 恵	教 授	保健福祉学部
		徳田 安紀	教 授	情報工学部
		山下 明美	教 授	デザイン学部
		横田 一正	特任教授	地域共同研究機構
	幹事	井上 幸子	准教授	保健福祉学部
		京林由季子	准教授	保健福祉学部
		石井 裕	准教授	情報工学部
		綾部 誠也	准教授	情報工学部
三原 鉄平		准教授	デザイン学部	

平成 27 年 4 月に設置した「地域連携推進センター」を中心に、文部科学省の COC+事業に併せて、本学と自治体との関係の強化に取り組んでいく。

4. 1-2 領域・研究プロジェクト活動

「人間尊重と福祉の増進」という本学建学の理念、「人間・社会・自然の関係性を重視する実学を創造し、地域に貢献する」という教育研究の理念に基づいて、平成19年に発足したプロジェクトは8年目を迎えた。この「領域・研究プロジェクト」は異分野の教員や学外からも研究者を募って、下表にある「健康・福祉」、「地域・環境」、「モノ・コトづくり」の3つテーマで4つのプロジェクトを実施している。

H27年度「領域・研究プロジェクト」

領域	■プロジェクト名、「研究課題」	内 容
	メンバー（○：代表者）	
健康・福祉	<p>■岡山県産米を用いた米粉麺の特性および食育に関する研究 「米粉麺の開発」</p> <p>○伊東秀之 山下広美，岸本妙子，久保田恵，中島伸佳， 新田陽子，中西俊介，田淵真倫美，井上里加子， 我如古菜月</p>	<p>米粉利用拡大を目的とした米粉利用拡大の一環として、商品価値の高い米粉麺開発。 本年度は次の4つの研究</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 岡山県産米粉使用の新規米粉麺開発 2. 新規米粉麺の成分組成・弾力性等の基礎データ化 3. 有色米を混合した機能性成分測定分析 4. 新規米粉麺の活用・普及策
地域・環境	<p>■新製品の企画・開発を促進するための産学協働 「地元ブランド産品を創製するための産学連携活動の実践」</p> <p>○村木克爾 山下明美，A・ブルネリ，市川正美，三原鉄平， 上田篤嗣，山本登志子，高戸仁郎，樫尾聡美</p>	<p>MoDD ネットの参画企業を中心とした産学連携活動により、全国に通用する地元ブランド創出の拠点・定着・展開した。 新たなオリジナルブランド創出プログラムに加え、MoDD ネットを通じた異業種協調の多面的・包括的な共同研究を行い、その成果は、各種メディアを通じて備中・総社発の事例として発信した。</p>
モノ・コトづくり	<p>■デジタルエンジニアリング 「数値解析によるものづくり支援に関する研究」</p> <p>○尾崎公一 末岡浩治，中村浩三，佐藤洋一郎，福田忠生， 山内仁，芝世式，小武内清貴，中西亮太（県工技C）， 泉妻宏治（グローバルウェア），J. Vanhellemont（ Gent 大）， 大西謙二（中国ゴム）</p>	<p>異分野の数値解析技術者の知識を融合して、企業の解析ニーズに応える研究を行うとともに、新しい数値解析技術開発。 本年度は、当初設定のテーマに1テーマを加え、次の4つのサブテーマで取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半導体材料・機器の高機能・高性能化 2. 金属材料の高強度化と生産性向上 3. 高分子材料の製造加工と製品性能向上 4. 画像処理技術による製造工程管理

	<p>■人がつながる身体性メディア技術 「人を引き込む身体的コミュニケーション技術の研究開発」</p> <p>○渡辺富夫 佐藤洋一郎，石井裕，瀬島吉裕，西田麻希子， 高林範子，小川浩基(インタロボット，コアテック)， 中茂睦裕(日本電信電話)</p>	<p>音声対話でのうなずきや身振りなどの身体的リズムをCGキャラクターやロボットに導入し、対話者の一体感が実感できる身体的インタラクション・コミュニケーションシステムを研究開発した。開発技術は、教育・看護・エンタテインメントなどの人が関わる現場で、技術の有効性を実証し実用化に取り組んだ。</p>
--	--	--

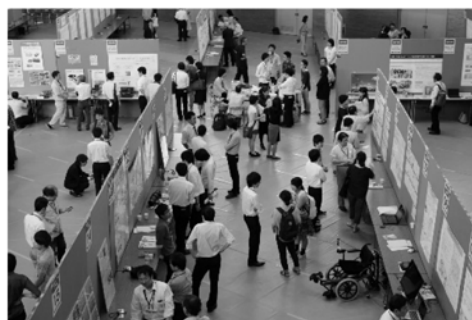
4. 1-3 OPUフォーラム 2015

教員の研究紹介や地域の企業・団体・市民との交流促進を目的に開学記念日頃に毎年開催する OPU フォーラムを開学記念日である5月29日(金)に本学キャンパスを会場にして開催した。

外来者数はおよそ750名であった。

テーマは「場力・知力・環力 ～22歳のチカラ～」とし、特別講演会として、V・プレミアリーグにおいてアタック・ブロック・サーブの技術力データは7位か8位でありながら、前年の成績が8チーム中3位の成績であった地元の「岡山シーガルズ」の監督である河本昭義氏を招いて行った。

体育館、講堂の内外を会場として研究ポスター展示、実験デモ、相談コーナー、講演、交流会など半日間さまざまな行事が開催された。



【展示会場】

開催概要

日時	平成27年5月29日(金) 11:00~17:30
会場	岡山県立大学構内
テーマ	場力・知力・環力 ～22歳のチカラ～
参加者	約800名
プログラム	<p>11:00～ 開場(受付開始)</p> <p>13:00～13:10 開会挨拶(学長挨拶)</p> <p>13:10～14:10 特別記念講演会(講堂)</p> <p>「地域との結束で目指す頂点」 岡山シーガルズ監督 河本昭義氏</p> <p>■研究展示会 11:00～16:15 (体育館アリーナ)</p> <p>本学研究のポスター展示 124件</p> <p>企業展示 19件</p>

自治体の展示	2 件
■地域の食	11：00～売り切れまで（野外テント）
■健康測定コーナー	13：00～16：15（体育館プラザ）
	17：00～18：00 交流会（講堂前広場）

OPU フォーラム 2015 展示テーマ一覧

	テーマ名	担当者名
1 看護学科	より安全な手術看護を目指して－砕石位の安全な取り方に関する研究－	高橋 徹、可児聖史郎
	看護師の道徳的発達と道徳的感受性の関連性	山口三重子、産賀知子
	静脈穿刺時に血管怒張を高める方法の検証	荻野哲也、佐々木新介、市村美香
	意思決定支援に関わるがん化学療法認定看護師の実践知	名越恵美、門倉康恵
	成人看護学急性期におけるシミュレーション教育効果の検証	名越恵美、犬飼智子、Su Kyoung Chiung 他
	新人助産師における分娩介助技術の習得過程	岡崎愉加、原田さゆり
	長期入院高齢患者の家族へのスピリチュアルケア	實金 栄、井上かおり、竹田恵子、太湯好子
	乳児の寝床内気候に関する研究	池田理恵
	幼児期の母親の関わりと子どもの行動発達	井上幸子、鈴木越治、土居弘幸、頼藤貴志
	父親の育児支援におけるニーズと育児の現状調査	原田さゆり、岡崎愉加
	地域に密着した医療安全推進活動の実際と課題	網野裕子、高林範子、犬飼智子、沖本克子
	看護職者の職場でのハラスメント被害と精神的健康の関連	川村友紀、實金 栄、山口三重子、出井涼介
	総合病院に勤務する臨床看護師の研究活動の実態把握と研究活動に影響を与える要因	浅井美穂
	糖尿病相談室開設の現状報告	住吉和子、佐田佳子、平松智子、高林範子 他
2 栄養学科	乳中における L-PGDS の存在意義と酵素化学的性質	木本眞順美、山本登志子、栗木隆吉、田中充樹
	自然薯低温乾燥粉末の食品機能性の探索	山本登志子、川上祐生、高橋吉孝、木本眞順美 他
	肺線維症に対する抗体治療薬の開発を目指した基礎研究	高橋吉孝、大河内脩二、川上祐生、山本登志子
	化学構造が決定している単一の植物色素による絹への個別染色に関する研究	中島伸佳、難波久美子
	生理活性脂質の合成阻害を介した抗アレルギー作用を有する機能性食品の探索	川上祐生、山本登志子、伊東秀之、高橋吉孝
	食を通じた異文化理解度調査－ハラル食の普及に向けて－	岸本妙子、川上貴代、久保田恵、平松智子 他
	赤米種皮の色素成分の化学構造	我如古菜月、伊東秀之
	岡山県産米を用いた米粉麺の特性および食育に関する研究	伊東秀之、岸本妙子、久保田恵、新田陽子 他
	トキワレンゲのポリフェノール成分と機能性	伊東秀之、加藤奈々、我如古菜月
	清水白桃の幼果を使用したピクルスのレシピ開発	田淵真倫美、市川俊美、武田大吾
	酢酸は培養筋管細胞において AMPK 活性化を介しグルコーストランスポーター4 の発現を誘導する	吉村征浩、木本眞順美、高橋吉孝、山下広美
	MSI を用いた玄米中のリゾリン脂質の局在可視化-酒造りに関する精米の科学的意義-	吉村征浩、財満信宏、森山達哉、河村幸雄
	SC を活用した食育推進システムの構築に関する基礎的研究	久保田恵、井上里加子、但馬康宏、川上貴代
	糖尿病が血液透析患者の QOL に与える影響	平松智子、村上泰子、眞井佳子、高須伸治

	テーマ名	担当者名
3 保健福祉学科	地域高齢者の身体機能低下や体形変化を補完するユニバーサル水着の開発研究	佐藤ゆかり
	シルバーカーの段差乗り上げを容易にするための機構付与に関する研究	中村孝文、高戸仁郎、田内雅規
	高齢者の孤立予防に関わるボランティアの共感力に関する研究	村社 卓
	働く人の貢献感と健康との関係	藤井保人、谷口敏代、高木二郎、廣川空美
	介護福祉施設における組織的公正と介護福祉士の相談対応力がワーク・エンゲイジメントに与える影響	谷口敏代、原野かおり、高木二郎、廣川空美
	介護福祉士の仕事継続意向の実態	原野かおり、桐野匡史、出井涼介、谷口敏代
	重複障害者の高齢化に伴う家族支援のあり方に関する事例研究	松田実樹、谷口敏代、原野かおり、佐藤ゆかり
	民生委員を対象とした認知症の疑いのある高齢者を発見した際の援助要請意向と受診促進意向に関する研究	竹本与志人、杉山 京、中尾竜二、澤田陽一 他
	音楽が介在する世代間交流事業における交流の特徴と課題	坂野純子、岡崎順子
	遊びを通して多様な関係性を構築する世代間交流の試み	新山順子、京林由季子、樟本千里、高梁多美子
	日本、韓国、フランスにおけるひとり親家族支援	近藤理恵
	小学生の抑うつ状態と問題行動 - 追跡調査による検討 -	周防美智子
	血液透析患者の心理的変容過程と家族心理に関する研究	竹本与志人、杉山 京、木村亜紀子、仲井達哉 他
	幼児の情報に対する確信度に情報提供者の違いが及ぼす効果	樟本千里、峪川花織、峠元茉緒
	保健福祉学部の多職種連携教育「チームガバナビリティ演習」	中村 光、住吉和子、川上貴代 他
4 情報通信工学科	進化計算を用いた訪問介護スケジューリング	金川明弘、竹原勇朔、山本貴大
	ロボットによるマルチモーダルコミュニケーション能力の学習	岩橋直人
	ロボットによる実世界情報を用いた言語理解の研究	岩橋直人
	パノラマ仮想空間 PasQ	國島丈生
	感染症数理モデルを用いた無線 LAN 情報配信方式のモデル化	榊原勝己、武次潤平、藤野貴志、原田拓弥 他
	SIW を用いた左手系フェライトデバイスに関する研究	大久保賢祐、安達太一、八杉 奨
	ポスト壁導波路を用いたマイクロ波加熱チップ	岸原充佳、内海裕一
	注視誘導技術に基づくセールス・プロモーションツールのデザイン	滝本裕則、山内 仁、金川明弘
	高速かつ高効率な次世代通信システムに関する研究	稲井 寛、若林秀昭、荒井 剛
	広帯域マルチキャリア伝送の安定化と効率化に関する研究	荒井 剛、稲井 寛、若林秀昭
	心拍数計測用 24GHz ドップラーセンサの 1 チップ化に関する研究	伊藤信之、佐藤良樹、西野賀雄、近藤洋平
	キャリアアグリゲーションに対応するマルチバンド受信器の集積化に関する研究	伊藤信之、小川巧馬、板野由佳
	動的再構成技術と投機実行に対応した並列処理プロセッサの開発	森下賢幸
	マルチタスク処理可能なパイプライン処理型動的再構成プロセッサ	小椋清孝
	積層型メタルスリットアレイの光学共鳴モードに関する研究	徳田安紀、坂口浩一郎、福嶋丈浩
	GaAs 二次元微小共振器レーザの TM モード発振	福嶋丈浩、坂口浩一郎、徳田安紀
	非対称結合量子井戸における励起子吸収特性に関する研究	坂口浩一郎、福嶋丈浩、徳田安紀
	IV族混晶太陽電池における変換効率予測システムの開発	末岡浩治、中塚 理、泉妻宏治
総社市英語特区における音声活動支援システムの構築	松田雅子、杉村寛子、永松美保	

	テーマ名	担当者名
5 情報システム工学科	ロボットは東大に入れるか ～英語センター試験の解き方～	磯崎秀樹、菊井玄一郎
	翻訳の良し悪しを自動採点する	磯崎秀樹
	米粉麺が利用可能なレシピの自動抽出と食育に関する情報処理	但馬康宏、久保田恵、井上里加子 他
	家電機器使用時の電気回路モデルの推定に関する研究	徳永義孝、江見健太
	ペダリング運動の制御メカニズムに関する研究	山崎大河、田口恵理、竹下 洋、忻 欣
	防災情報に関する地域データの統合利用に関する研究	菊井玄一郎
	人がつながる身体性メディア技術	渡辺 富夫 他
	自己参照型身体的アバタを介した遠隔コミュニケーション支援	石井 裕
	エネルギー保存を考慮した画素値分布推定法とその応用に関する研究	尾崎公一、佐藤洋一郎、福田忠生、山内 仁 他
	過熱水蒸気処理を施した竹バイオマスをを用いたグリーンコンポジットの研究	小武内清貴
	組込みシステムの高信頼化と低消費電力化を目指した設計および検証	有本和民、佐藤洋一郎、横川智教
	ネットワークルータにおけるバッファメモリスステムの高性能化	有本和民、佐藤洋一郎、横川智教
	劣駆動ロボットシステムの制御設計と解析に関する研究	忻 欣、谷本圭吾、小野 真、山崎大河
	流体解析ソフト OpenFOAM の応用	芝 世武
岡山オープンソース技術研究会の紹介	芝 世武、荒井 剛、天寄聡介	
6 人間情報工学科	テクスチャレスな環境における視差計算手法の検討	松井俊樹
	定常状態における観測分析に基づく異常検知システム	山内 仁、滝本裕則、倉西佐知
	ラバーバンドの振りを利用した拮抗駆動型アクチュエータの開発	宮田龍一、山本静果、井上貴浩
	小学生を対象としたソフトボール投げ動作の解析	佐藤洋一郎、瀬島吉裕、高杉整二、山内 仁
	解析シミュレーションネット OKAYAMA	佐藤洋一郎、直島好伸、尾崎公一、福田忠生 他
	瞳孔反応がもたらすコミュニケーション支援効果	瀬島吉裕、佐藤洋一郎、山内 仁
	快適生活を探る認知行動科学	迫 明仁、大山剛史
	小学生児童の蛇口把持・回旋動作に関する研究	齋藤誠二、古賀和樹
	ライフサイエンスに関わるセンシング技術	穂苅真樹、沖 俊典
	ソリッドゴムと発泡ゴムの作製プロセス	野津 滋、辻 博明、大西謙二
	中脳橋被蓋の視床投射ニューロンと含有カルシウム結合タンパク	柳原 衛
	屋外歩行空間の温熱快適設計	島崎康弘、吉田篤正
	路面走行時における幼児二人同乗用自転車の数値解析モデル	大田慎一郎
	視覚なし歩行中に手すりから受ける情報は歩行方向の維持に貢献するか	高戸仁郎、中村孝文
筋機能に着目した上肢の左右差に関する研究	大山剛史	
健康長寿を実現するために最適な身体活動支援システム	綾部誠也、犬飼義秀、高戸仁郎	
7 デザイン工学科	PC オーディオデザインの提案	益岡 了
	台湾雲林県斗六市太平路の町並みの成立と保存についての研究	西川博美
	遠隔地域の住民との協働による公園活性化デザイン手法	津田勢太、中原嘉之、榊田洋子、伊藤立平
	地域資源を活かした持続可能な高齢者の福祉住環境に関する研究	朴 貞淑、森下眞行、中村孝文、上田篤嗣、上田恭嗣

	テーマ名	担当者名
7 デザイン 工学科	竹集成材の集成工程を応用した家具の研究	三原鉄平、中山正明
	小石川養生所と赤ひげの虚実	福濱嘉宏
	ユーザビリティ検証可能なデザインモデル製作に関する研究	中原嘉之
	独自製品開発を目指す中小企業助勢のための産学協働活動に関する調査研究	村木克爾、市川正美、 山下明美、上田篤嗣 他
	提案型共同研究の諸事例と進展	村木克爾、市川正美、 山下明美、上田篤嗣 他
	ウェアラブルデバイスのユーザインタフェース提案	尾崎 洋
8 造形 デザイン 学科	「セラミックデザイン原画とデッサン」 瀬戸内市立美術館から中国景德鎮陶瓷学院へ	久保田厚子、岸本員臣、 藤井雅司、中村光孝
	日本的市民社会強化の研究	子野日俊夫
	「絵本の力」を活用した地域活動の実践	山下明美
	「備中 no 町屋 de クラス」のイベント・プロモーションに関する研究	山下明美
	夏目漱石の俳句研究 - 正岡子規生前における句作活動を中心に -	柴田奈美
	天然素材テキスタイルの商品開発に関する研究 IV	難波久美子、山下明美、 中島伸佳、國藤勝士
	天然素材を使用したクツシタの企画開発研究	難波久美子
	ザハ・ハディド・プロジェクトを題材にした MOOCS の提案	助川たかね
	自然光による露光で制作する感光性樹脂版画の研究	関崎 哲
	間伐材の需要を促すため、素材を生かし身体感覚に訴える造形デザインの研究	南川茂樹
	パブリックスペースに於ける写真作品の有効活用に関する研究	北山由紀雄
	SOJA イルミネーション 2014 における、新規テーマ作品の研究開発	中西俊介
	株式会社「さのオートセンター」のシンボルマーク、ロゴタイプ、サイン看板等、総合的なデザイン制作	野宮謙吾
	大学のイメージ広告におけるキャッチコピー表現の研究	野宮謙吾、 西田麻希子
	五感を通して出会う 体感型展示会の実践研究	島田清徳
	メソアメリカ土器の研究 「交錯する文化-死者の日をとおして」	真世土マウ
	総社市 防災情報総合サイトの作成	齋藤美絵子、菊井玄一郎 但馬康宏、総社市総務部総務
	日本語教材サイトにおける日本語学習者のための漢字アニメーションの制作	山下万吉
	気づきのユーモアを対象にしたビジュアルリテラシーの研究	西田麻希子、吉原直彦
	独自技法による染色造形表現の研究	檜尾聡美
高齢者の行動分析におけるコミュニケーション研究	石 王美	

9 企業・団体の 展示	(株)英田エンジニアリング、青山茶舗、池田精工(株)、インタロボット(株)、岡山ヤクルト販売(株)	
	円岩盤石開発センター(株)、家具のひらやま、倉敷いぐさ今吉商店、倉敷スクールタイガー縫製(株)	
	倉敷成人病センター、倉敷中央病院、コアテック(株)、白菊酒造(株)、シャープタカヤ電子工業(株)	
	タケシンパッケージ(株)、(株)中国銀行、(株)テオリ、(株)トマト銀行、(株)ハローズ、(株)フジワラテクノアート	
	富士ベークライト(株)、(株)フォーマルテック、ペガサスキャンドル(株)、(株)マルト水産、(有)まるみ麺本店	
	(株)ホテルリゾート下電+ゆのごう美春閣、(株)両備ヘルシー케어	
	NPO 法人あゆみの会、NPO 法人さんかくナビ	NPO 法人
	岡山県産業労働部、総社市役所政策調整課	行政
	岡山県警本部、総社消防本部、(株)モリタホールディングス他	防災関連
	津山ホルモンうどん、日生カキオコ、矢掛テンペ、県大米粉麺	地域の食

《会場写真》



【会場入り口】



【受付】



【河本氏講演】



【パネル展示】



【企業展示】



【デモ展示】



【屋外展示】



【食のテント】



【健康測定】



【交流会】



4. 1-4 情報発信

社会貢献活動の展開においては、本学の研究シーズ等の外部への発信と、学内の教員等の外部情報入手・共有が極めて重要となる。本年度は以下の取り組みを行った。

(1) 県内での本学の研究シーズ等の外部発信

研究シーズ等の情報発信では、各種産学連携イベントで積極的に行っている。教員の研究シーズを発信したものと、本学の産学連携の取り組みを紹介したものについて本年度の主な取り組みを取り纏めた。

本年度は5つのイベントで延べ24名の教員が発表を行った。

県内での産学連携イベント等での研究シーズ情報発信（学会等の発表を除く）

行事概要	
発表テーマ	教員名
第23回 おかやま生体信号研究会	
日時：平成27年8月31日（月）14：15～17：25	
場所：岡山県立大学 大会議室 全員がプレゼンテーション実施	
ノーマリオフコンピューティング技術の生体信号処理への適用	有本 和民 教授
生体の運動制御の理解とその応用について	山崎大河 准教授
靴底の磨耗機序と磨耗の影響について	齋藤誠二 准助教
ヒューマンインタラクションにおける視線行動とインタフェース設計	瀬島 吉裕 助教
第20回岡山リサーチパーク研究・展示発表会	
日時：平成28年3月18日（金）13：00～17：00	
場所：テクノサポート岡山（岡山市北区芳賀 5301） ※プレゼンテーション実施	
より安全な手術を目指して～手術時の安全な体位の取り方に関する研究	高橋 徹 教授
ロボットによる言語獲得技術	岩橋 直人 教授
靴底の磨耗機序と磨耗の影響について	※ 齋藤誠二 准助教
酵母に酢酸耐性を付与する後術の開発	※ 田中晃一 准教授
剛体面を有する展開型骨組構造の開発	津田勢太 准教授

力学特性制御可能な機能性クッションの研究開発	大田慎一郎 助教
非漢字圏の日本語学習者に向けた漢字アニメーション教材の制作	山下 万吉 講師
次世代産業に関わる大学・高専シーズ発信会	
日時：平成 28 年 3 月 2 日（水）13：20～16：50	
場所：岡山ロイヤルホテル（岡山市北区絵図町 2-4）	
技術相談対応： 1 件	※プレゼンテーション実施
モデル検査技術による組込みシステム向けフォーマル検証手法	有本 和民 教授
高周波・アナログ LSI の設計・評価	伊藤 信之 教授
計算機シミュレーションによる材料機能の予測	末岡 浩治 教授
人を引き込む身体的コミュニケーション技術	渡辺 富夫 教授
エネルギー保存を考慮した画素値分布推定手法	佐藤洋一郎 教授 山内 仁 准教授
空調機統合型電気自動車(AI-EV)の開発	中川 二彦 教授
表計算ソフトに適した変圧器励磁突入電流の数値計算方法に関する検討	徳永 義孝 准教授
鋳造アルミ合金の強度特性評価	福田 忠生 准教授
2次元共振器半導体レーザの設計・評価 ※	福嶋 浩 准教授

(2) 県外での情報発信の取り組み

本年は下記箇所で発信を行った。(2つのイベントで3回の発信)

イノベーション・ジャパン 2015	
日時：平成 27 年 8 月 27 日（木）～28 日（金）9：30～17：30	
場所：東京ビッグサイト（東京都江東区有明 3-11-1）	
発話音声からロボットやキャラクターの動きを自動生成	渡辺富夫 教授
食品に含まれる機能性ポリフェノール成分の同定と定量方法の開発	伊東秀之 教授
中国地域さんさんコンソ新技術説明会	
日時：平成 27 年 11 月 5 日（木）9：45～16：00	
場所：JST 東京本部別館ホール（東京都千代田区五番町 7）	
ネットワークルータにおけるパケットキューメモリの管理方法	佐藤洋一郎 教授

4.2 産学官連携推進センター

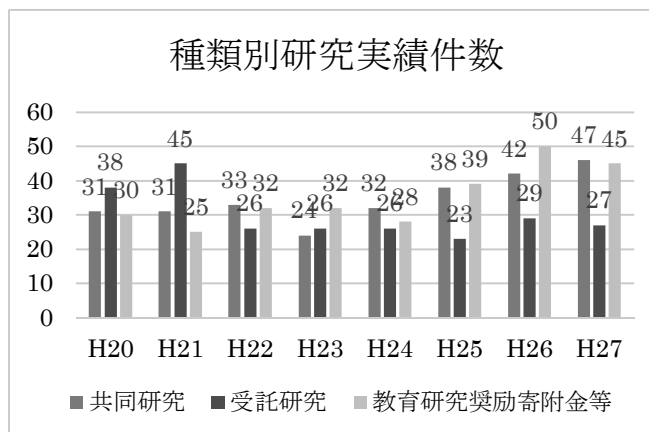
4.2-1 企業等と連携した研究活動

平成27年度は第2期中期計画の3年目に当たる。中期計画で他の各研究の目標件数は、それぞれ年平均で共同研究43件、受託研究27件、教育研究奨励寄附金等41件である。

平成27年度の目標件数と実績は、共同研究：目標44件に対して実績47件、受託研究：目標30件に対して実績27件、教育研究奨励寄附金等：

目標53件に対して実績45件となった。件数でいえば教育研究奨励寄附金が大きく目標に達することができなかったものの、金額面で言えば全体で目標87,000千円に対して103,257千円（118.7%）と目標並びに昨年実績の82,915千円を上回った（124.5%）。

一部を除いて地場の中小企業においてはまだ経営環境は厳しく、交流会などでコーディネータに相談はあるものの共同あるいは受託研究実施まで繋がるものは少ない。今後とも地域に根ざした本学の存在感を出すべく活発な産学官連携活動を進めたい。また相談に対して敷居の低い大学として地元企業に認められるよう一層の努力をしていく。



(1) 共同研究

産学官連携推進センターは普段からの自治体、支援機関、金融機関、経済団体等が主催する各種交流会、セミナー及び展示会に参加することにより企業ニーズの探求をしてきた。

各教員の学会活動や企業との交流会などの地道な努力により、本年の共同研究の件数は47件となった。



共同研究風景

(2)受託研究

受託研究は公的機関からの委託研究や民間企業と共同で公的競争的資金獲得に基づくものが多い。この研究はここ数年23～29件で推移している。公的機関からは各種事業に関係した啓発的なデザインの受託研究が多かった。

本年の総数27件のうち半分近くがデザイン学部で実施したものである。

(3)教育研究奨励寄附金等

教育研究奨励寄附金は外部の企業・団体から本学の教育・研究奨励のために寄附されるもので、本学の日ごろの社会貢献活動が反映されているとも言える。件数は45件で、昨年実績の50件には及ばなかったが過去実績では2番目に多い件数であった。今後ともニーズにあった社会貢献に取り組みたい。

(4)外部競争的資金への応募支援

産学連携コーディネータが関与する外部競争的資金としてはJSTのA-STEP(シリーズ探索型など)、中国産業創造センター新産業創出研究会などが該当する。

本年度は、新産業創出研究会で「ロボットのコミュニケーション深度を高める身体動作を自動作成するボードの開発」を行った。

4. 2-2 アクティブ・ラボ

アクティブ・ラボ（出前研究室）は教員とコーディネータが企業・団体に出向き、本学研究シーズ紹介、訪問先企業の抱えている課題ヒアリングや情報交換を行う場で、地域社会に役立つ実学を行う場として位置づけられている。訪問先は日常的な技術相談や産業支援機関からの紹介で決まる場合が多い。事前に企業情報を入手して概略の把握をしてから訪問している。



訪問先で意見交換をする中でニーズとシーズがマッチして共同研究をするに到るケースもある。本年度は40企業・事業所を訪問し延べで51人の教員が参加した。学部別では、デザイン学部が18名、保健福祉学部が17名、情報工学部が16名であった。

平成27年度 アクティブ・ラボ実績

NO.	実施日	担当教員	NO.	実施日	担当教員
1	4月15日	中西俊介准教授（デ）	13	7月28日	尾崎公一教授（情）
2	5月19日	尾崎公一教授（情）	14	7月28日	齋藤誠二准教授（情）
3	5月28日	尾崎公一教授（情）	15	8月4日	森下眞行教授（デ） 三原鉄平助教（デ）
4	6月23日	尾崎公一教授（情）	16	8月5日	小武内清貴助教（情）
5	6月26日	入江康至教授（保） 田中晃一准教授（保）	17	8月11日	西田麻希子准教授（デ）
6	7月1日	森下眞行教授（デ） 三原鉄平助教（デ）	18	8月20日	三原鉄平助教（デ）
7	7月3日	西田麻希子准教授（デ）	19	9月9日	森下眞行教授（デ）
8	7月3日	齋藤誠二准教授（情）	20	9月9日	尾崎公一教授（情）
9	7月7日	尾崎公一教授（情）	21	9月10日	三原鉄平助教（デ）
10	7月7日	小武内清貴助教（情）	22	9月28日	田中晃一准教授（保）
11	7月14日	山下明美教授（デ） 三原鉄平助教（デ）	23	10月1日	難波久美子教授（デ）
12	7月27日	入江康至教授（保）	24	10月8日	高戸仁郎教授（情）

25	10月15日	岸本妙子教授（保）	33	12月25日	田中晃一准教授（保）
26	10月16日	山下明美教授（デ）	34	1月7日	山下広美教授（保）
27	10月19日	山下明美教授（デ） 岸本妙子教授（保）	35	1月21日	谷口敏代教授（保）
28	11月9日	田中晃一准教授（保）	36	3月4日	山下広美教授（保） 田中晃一准教授（保）
29	11月17日	綾部誠也准教授（情） 齋藤誠二准教授（情）	37	3月15日	田中晃一准教授（保）
30	11月27日	田淵真愉美准教授（保） 我如古菜月助教（保）	38	3月16日	村木克爾准教授（デ） 高戸仁郎教授（情） 市川正美准教授（情）
31	12月11日	田中晃一准教授（保）	39	3月28日	中西俊介准教授（デ） 西田麻希子准教授（デ）
32	12月18日	尾崎公一教授（情）	40	3月30日	田中晃一准教授（保）

（凡例）（保）：保健福祉学部、（情）：情報工学部、（デ）：デザイン学部

4. 2-3 学外組織との連携・協働活動

産学官連携推進センターでは各金融機関、経済団体、産業支援機関等が主催するセミナー、交流会、相談会等のイベントに積極的に参加した。これらの活動を通じて本学シーズと社会ニーズのマッチング、情報収集並びに人的交流を行っている。

(1) 各種支援機関との協働

① 岡山・産学官連携推進会議

本会議は産学官の連携・協働の動きを強化し、県民力を結集して産業振興を図るための組織として、経済団体、行政、支援機関及び大学等県内の主要機関（20機関）が連携して平成15年に設立されたものであり、「交流の場の提供」、「企業人材の育成事業」、「インターンシップ制度の充実」、「産学官連携情報提供」などを行っている。産業界6、大学等13、行政4、その他6機関の計29機関で構成されている。

ア 産学官連携交流会

平成22年度から地域産業団体、企業と大学・研究者との交流を目的として開催されている。本年度は笠岡市で始めて交流会が開催され、新見市でも昨年に引き続き開催された。

【本年度の活動】

- ◆幹事会・セミナー、シンポジウム 2回

- ◆ワーキンググループ 2回
- ◆産学官連携交流会（笠岡、新見）各1回

② 岡山リサーチパーク研究・展示発表会

岡山リサーチパークに関係する企業・大学・研究機関の研究成果を発表する。また、その成果を県内に広めるため交流・相談の場を提供し、事業化に向けた積極的な産学官連携を推進し、県内の産業に貢献することを目的として毎年行われている。第20回を迎えた本年は本学から7件の展示を行い、うち2件のプレゼンテーションを行った。（詳細は78頁）

【本年度の活動】

- ◆研究・展示発表会 1回

③ 県内支援機関

ア 岡山県産業振興財団

【本年度の活動】

- ◆各種セミナー 6回
- ◆支援制度説明会 3回

イ 岡山県中小企業団体中央会

【本年度の活動】

- ◆事業説明会 2回

④ 金融機関との連携活動

本学は平成20年に中国銀行、トマト銀行、おかやま信用金庫の三行と包括協定を同時に提携し、県内の中小企業を中心に産学連携活動を行っている。本年は中国銀行及びおかやま信用金庫のビジネス交流会に参加した。県内の信用金庫などが合同で行う「しんきん合同ビジネス交流会」にも参加した。



ちゅうぎん6次産業化交流会

【本年度の活動】

- ◆しんきん合同ビジネス交流会 1回
 - 第11回 平成27年9月9日 コンベックス岡山 相談件数：4件
- ◆中国銀行 2回
 - ちゅうぎん産学官連携セミナー 平成27年10月28日 中銀本店
(渡辺教授プレゼンテーション)
 - 6次産業化交流会 平成28年3月10日 中国銀行本店 相談件数：4件

◆トマト銀行 1回

トマト・アグリフードフェア 2015 平成27年8月6日 相談件数：2件
岡山コンベンションセンター

◆信用組合合同（笠岡） 1回

しんくみビジネスマッチング 平成28年11月11日 相談件数：2件
笠岡総合体育館

⑤ 県立研究機関協議会

岡山県立研究機関及び地方独立法人法により設置される研究機関の試験研究に関する情報交換、技術交流等を通じて、技術の向上、研究開発の推進と研究機関の活性化を図り地域振興に資するため設置された協議会である。

◆機関長会議 1回

⑥ さんさんコンソ(中国地域産学官連携コンソーシアム)

文部科学省のイノベーションシステム整備事業大学等産学官連携自立化促進プログラム（機能強化支援型）に、岡山大学・鳥取大学が共同で応募し採択され、平成20年度から同受託事業として実施されてきた。平成24年度をもって文科省事業としては終了したが、平成25年度以降も両校が中心となり事業を継続し、中国地域の産学官連携活性化の一翼を担うべく活動している。

【本年度の活動】

◆コーディネータ会議 2回

知財セミナー 1回

⑦ その他

その他に以下の機関が主催した交流会やセミナーに参加した。

- ◆岡山市、◆農工商ネットワーク、◆岡山テンペ協会、
- ◆西日本医系大学知的財産管理ネットワーク、◆産業技術総合研究所
- ◆岡山県6次産業化サポートセンター、◆岡山県異業種交流プラザ

(2)技術分野別産学官連携組織・研究会などの協働

① ミクロものづくり岡山推進会議

ミクロものづくり岡山推進協議会は、精密生産技術を核とするミクロものづくり産業クラスターの形成に向け、ミクロものづくりに関係する企業、大学、産業支援機関等で構成されている。地域の総力をあげた取り組みを円滑かつ効果的に展開するため、関係者の意識の統一を図るとともに、事業推進に当たっての基本方向について協議決定することを目的として、平成16年8月に設立された団体である。

技術別の活動としては「半導体ネットおかやま」、「解析シミュレーションネットOKAYAMA」、「おかやま電池関連技術研究会」、「おかやま生体信号研究会」などのサブネットがある。

ア 解析シミュレーションネットOKAYAMA

本学情報工学部の佐藤洋一郎教授が副会長を務める会で、本年度は岡山理科大学自然科学研究所と共催でシンポジウムを開き二人の教員が発表をした。

内部に4つの解析グループを持ち講習会やセミナーを行っている。

【本年度の活動】

- ◆運営委員会等 4回
- ◆フォーラム、シンポジウム 2回

イ 半導体ネットおかやま

本学情報工学部の末岡浩治教授が副代表を務める会で、平成17年に発足した本会は研究者・技術者のネットワーク形成、企業人教育への貢献、共同研究プロジェクトの構築などを行ってきた。また、次のステップとして「基礎研究及び開発研究を活発化し、プロジェクト研究開発、ベンチャーの創出を目指し、岡山県の特徴ある半導体関連産業の活性化を図る」という設立趣旨に沿った活動をしている。本学からは6名の教員が研究者として参加している。

【本年度の活動】

- ◆例会 2回

ウ おかやま生体信号研究会

本会は、ヒトの動き・脳波・筋電・心電・血圧など、ヒトをはじめとする生き物に由来する信号の総称である「生体信号」に関連する技術の研究を対象としている。具体的には、生体信号の計測・処理技術、生体信号による機器制御技術、生体信号の診断応用・評価、並びにその応用技術などの研究を行っている。

本年は8月31日に第23回例会及び幹事会が本学で開催され4人の教員が発表した。

【本年度の活動】

- ◆定例会 3回

② おかやまバイオアクティブ研究会

本会は、平成19年岡山県下の大学および公的研究機関における研究者、並びに企業が会員として参加し、生理活性およびそれに関連する物質に関する研鑽や情報交換及び人的交流などを行い、岡山県下の食品・医薬品関連技術及び産業の発展に寄与することを目的として発足した。

【本年度の活動】

- ◆シンポジウム、委員会等 3回
- ◆見学会 1回

③ 岡山県食品新技術応用研究会

本会は、食品分野の新技術に対応できる人材の養成を目的として昭和62年に設立された。現在、県内外の食品関連企業約50社と個人・公的機関等の方々約40名で構成され、食品事業のための食品企業による食品セミナー/シンポジウムを開催し会員の資質向上を図っている。

【本年度の活動】

- ◆研修会 5回
- ◆研修会兼シンポジウム/見学会 6回

④ NPO 中国四国農林水産・食品先進技術研究会(中四国アグリテック)

農林水産業及び食品産業に関する企業、大学、試験研究機関の関係者を中心として、中国四国地域の農林水産業及び食品産業の先端・先進技術に関わる研究開発とその実用化を促進し、これらに関連する産業の発展に資することを目的として活動している。

【本年度の活動】

- ◆セミナー 1回
- ◆運営委員会、総会 1回

4.3 地域連携推進センター

4.3-1 センターの開設にあたって

本学第2期中期計画の基本方針の1つである「戦略的な地域貢献の取組の推進」を実現するために、包括提携を締結している総社市、笠岡市、備前市、真庭市を中心として、地に足の着いた地域貢献活動を推進していく。このための戦略的目標として、以下の3つを設定した。

【戦略的目標】

- 1) すべての世代が住み易く、活力・魅力のある地域づくり
- 2) 地域の特徴を活かした地場産業の創生・成長
- 3) 地域に必要とされる人材の育成・輩出

これらの戦略的目標を実現するために、自治体、地域の方々、地場企業、NPO等と協働して、教員だけでなく学生も参加し、以下のような取組を進める。

【地域の課題の掘り起しとその解決に関する取組】

フィールドワーク的な演習、地域インターンシップ、ボランティア活動の一環として、教員が学生とともに地域に赴き、自治体や地域の方々と膝を交えて、住み易い地域づくりに向けた、地域の真の課題を掘り起す。解決に向けては、本学の研究シーズや教育シーズとのマッチングを取り、学生も参加して課題に取り組む。

【地場産業の創生・成長に関する取組】

本学の特色ある3つの学部の教員が協働かつ横断的に取り組んでいる領域研究プロジェクトや地域貢献特別研究の成果を積極的に利用し、産官学連携推進センターと協働し、岡山県の代表的な地場産業であるデジタルエンジニアリング産業の技術力向上、閑谷学校や備前焼等の観光資源の事業化、米粉麺や果物などの地域特産物のブランド化等に取り組む。

【人材の育成・輩出に関する取組】

大学教育開発センターと協働し、地域課題の解決の取組を通して、自主性や協働性を養い、課題設定能力や実用的な問題解決能力を身に着けることで、地域に必要とされる人材の育成を行う。さらに、地域の課題だけでなく、地域の魅力を知ることにより、地域を指向した人材の育成にも取り組む。

4. 3-2 主な活動実績

(1)COC+事業について

①COC+事業における地域連携推進センターの役割

「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+事業）」は、若者の東京一極集中に歯止めをかけ、地域に定着させることを目的として、高等教育機関、自治体、企業、NPO 等と協働して、学生にとって魅力ある雇用を創出・開拓すると同時に、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組を支援するものである。本学が代表校として採択された課題は、「地域で学び地域で未来を拓く‘生き生きおかやま’人材育成事業」であり、教育改革、域学連携及び産学連携の3つの主要な活動で構成される。詳細は、本誌2.「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を参照されたい。

地域連携推進センターが主に担当するのは、言うまでもなく、域学連携であり、以下の項目の実施が計画されている。

(1) 地域創生コモンズの設置と運営

本学と包括提携を締結している総社市、備前市、真庭市及び笠岡市に、域学連携、教育改革及び産学連携の場となる「地域創生コモンズ」を設置する。

(2) 地域の課題の掘り起こしと解決

大学、自治体、NPO 団体及び地域が、公開講座や地域協働講座を開催することで、課題の掘り起こしや解決策の検討を行う。

(3) 研究シーズの有効利用による地域の活性化

研究シーズを、「地域創生コモンズ」を活用したワークショップを開催することで地域貢献への道筋を議論する。重点テーマとしては、「子育て支援」、「困窮家庭の児童・生徒支援」、「高齢者・障害者支援健康づくりとモニター」、「食育支援」、「防災・減災支援」及び「まちづくり支援」等が挙げられる。

②COC+事業に係る活動実績

ア 実施体制の整備について

COC+事業における域学連携活動は、COC+推進企画委員会の下に設置された域学連携WGが主体となって推進することとなっている。域学連携WGの業務は、

(1)本学が進める域学連携事業の開発に関すること

(2)本学が進める域学連携事業の開発に関すること

であり、

(1)地域連携推進センター副センター長（グループ長）

(2)地域連携推進センター幹事（副グループ長）

(3)地域連携推進センター幹事（2名）

(4)本学教員

(5)COC+推進室員

により構成されるものである。本年度は、平成 28 年 1 月 20 日（水）に第 1 回目を開催し、以後、2 月 12 日（金）、3 月 3 日（木）、3 月 31 日（木）の計 4 回開催した。

イ 地域創生コモンズについて

- ・真庭市：真庭市勝山振興局管内では、大学など高等教育研究機関と地域や企業との関係を強化・継続させ、交流推進による地域活性化を目的とした「勝山カレッジ」を設置する計画を推進している。勝山カレッジの設置目的と地域創生コモンズの目的とが合致していることから、連携して推進することとし、勝山振興局内に地域創生コモンズを設置することとなった。本年度は、設備や利用規定等の整備を行い、平成 28 年 4 月 25 日（月）に開所式を開催することとなった。
- ・笠岡市：4.3-2(2)④に記載した笠岡港住吉地区の待合所が新たに建設されることになり、この一角に地域創生コモンズを設置することとなった。開所式は、待合所の開所式と開催することとなっており、平成 28 年 12 月 1 日を予定している。
- ・総社市：総社市から提案のあった清音福祉センター等を視察し、活動内容の検討と並行して、設置場所の検討を進める。
- ・備前市：伊部駅から徒歩数分の施設（現在、観光休憩所として利用）を第 1 候補として、検討を継続している。

ウ 研究シーズの有効利用による地域の活性化について

以下のような活動を実施した。

- ・高齢者・障害者支援健康づくりとモニター：新規重点枠「笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援活動」として実施。
- ・食育支援：4.3-2(2)①及び②を参照のこと。
- ・防災・減災支援：4.3-2(2)③を参照のこと。
- ・まちづくり支援：久世・勝山地域ののみどころ MAP の制作。

(2)地域連携活動について

主な地域連携活動は以下の通りである。

①備前市食育推進専門委員会(平成 27 年 8 月 10 日)

平成 27 年 8 月 10 日に備前市役所において開催された「備前市食育推進専門委員会」に久保田准教授と本学保健福祉学部栄養学科公衆栄養学研



研究室の学生4名が参加した。この会議では、「語り継ぎたい食べつぎたい備前の食～地産地消をすすめるために～」をテーマとして、情報交換を行った。平成27年度の地域連携活動の一貫として、学生が主体となって作成した冊子「美膳の伝道師 備男備女集めました」において取材に協力していただいた方々とともに、取材を通しての気づきや学びなどを紹介した。

②備前市栄養教室(平成27年8月11日)

備前市民センターにおいて開催された「備前市栄養教室」に本学保健福祉学部栄養学科公衆栄養学研究室の学生3名が参加し、健康講話「ベジ活のすすめ 簡単3stepで健康美人」と地産地消と郷土料理の普及をねらいとした「野菜たっぷりベジ活メニュー」の調理実習を実施した。ヒナビジョンや備前市広報誌で紹介された。

- ・がらエビの揚げ焼き丼
- ・しらも和え(郷土料理)
- ・なすとオクラの豆乳みそ汁
- ・ピオーネわらびもち料理



③消防応援隊

地域防災の中核である消防団は、団員数の減少や団員の高齢化などの問題を抱えている。そこで岡山県は、平成27年度、若者の消防団への入団促進や消防団に対するイメージアップを図ることを目的として、岡山県大学消防応援隊育成・活動支援事業を立上げた。本



学では、10名の学生(保健福祉学部7名、情報工学部3名)が岡山県立大学消防応援隊を結成・申請し、岡山県大学消防応援隊に認定された。平成27年7月25日に開催された結団式に、美作大学消防応援隊とともに出席した。そして、岡山県総合防災訓練(8月30日開催)、総社市防災訓練(11月15日開催)等に参加し、消防防災知識の普及啓発活動を行った。

④笠岡港(住吉地区)待合所のデザイン

笠岡諸島へ向かう本土側の笠岡港(住吉地区)の客船待合所の建て替えデザイン案を、津田准教授の指導の下、本学学生が提案した。学生が現地や笠岡諸島(北木島・白石島)を訪れ、地域の歴史や現状、住民の意向を調査し、住民が利用するために必要な機能と観光客が魅力を感じるようなデザインを制作した。津田准教授と政策に携わった本学学生が笠岡市役所を訪れ、三島笠岡市長にデザインの説明し、正式に採用された。笠岡港(住吉地区)の新しい客船待合所は、このデザイン案に沿って、平成28年度から建設に着手する予定である。また、この待合所には、COC+事業の「域学連携」活動の一貫として、「地域創生コモンズ」が設置されることが決定している。



(山陽新聞：平成27年3月31日)

⑤その他

以下に主な項目のみ示す。

- (A) 新規重点枠「笠岡諸島での疾病予防・健康増進に向けた高齢者健康増進支援活動」(情報工学部・綾部准教授)
- (B) 真庭市久世地域を拠点とするまちづくり市民団体「まにワッショイ」と連携し、H28年秋の飲み歩きイベントを見据えた、久世・勝山地域ののみどころMAPの制作(デザイン学部・三原准教授)
- (C) 岡山県老人クラブ連合会主催の平成27年度市町村老連正副会長会議において、「明るく、楽しく、そしてあきらめない生き方～音楽と語りから生まれる大きな力～」をテーマに講演と会場参加型のコンサートを実施(保健福祉学部・坂野准教授)

(3)まとめと今後の課題

本年度は、主に、COC+事業の域学連携に係わる活動を行っており、本学が初めて国家的な大型プロジェクトに採択され、貢献できたことは大きな成果と言える。また、COC+事業の目玉である地域創生コモンズについては、計画通り、真庭市についての整備を完了できた。しかし、今後の利用計画については、具体的なレベルに達するまで検討が進んでいないのが現状である。また、地域連携活動については、これまで教員単位で行ってきたものの掘り起こしや支援を中心に行い、埋もれた活動が極めて多いことが判明した。しかし、当初の目標である、将来を見据えたプロジェクト化は実現できなかった。

以上から、平成 28 年度に向けた主な課題を以下に列挙する。

- ◇COC+事業における「域学連携」活動との連携強化
- ◇地域創生コモンズの利用促進
- ◇地域連携活動のプロジェクト化
- ◇岡山県立大学の地域連携活動の積極的な広報
- ◇小さな地域連携活動の掘り起こしと支援

4. 4 保健福祉推進センター

4. 4-1 晴れの国鬼ノ城カレッジ

(1)概要

保健福祉推進センターでは、地域の人々の健康づくりや福祉、地域貢献の推進に資することを目的に、毎年「鬼ノ城カレッジ」を実施している。今年度は、「復興と再生に生きる、日本文化とユニバーサルデザイン」をテーマに、永年松下電器産業（現パナソニック）で商品デザインを担当し、社内のユニバーサルデザイン活動を立ち上げ、その責任者として企業内や社外での活動を広くリードして来た細山雅一、細山 UD-Unit 代表に講演していただいた。

(2)実績

日 時：平成27年11月14日（土）13:30～15:30

場 所：岡山県立大学 学部共通棟南 8206 大講義室

主 催：岡山県立大学 保健福祉推進センター

テーマ：復興と再生に生きる、日本文化とユニバーサルデザイン

講 師：細山 UD-Unit 代表 細山雅一

参加者：140名

講演内容：「ユニバーサルデザインとは何か」や具体的な「事例紹介」に加え、2014年秋に福島県で開催された第5回国際ユニバーサルデザイン会議プレカンファレンスで語られた「復興と再生のユニバーサルデザイン」の報告を交え、日本文化に見られるユニバーサルデザイン視点が、如何に被災者の心やコミュニティを支えているのかなど暮らし方やモノの在り方と、これからの超高齢社会や心地よい暮らしのヒントを与える。これを機会に皆さんも是非日本文化の持つ、ユニバーサルデザインポイントに目を向け、心地よい暮らしのカタチを作っていきませんかと述べられた。



(3)評価と来年度の課題

今年度の「鬼ノ城カレッジ」では、日本文化に見られるユニバーサルデザインの視点が、被災者の心やコミュニティを支え、これからの超高齢社会や心地よい暮らしのヒントを与えていただいた。アンケート調査の結果、講演内容については「満足した（62.0%）」、「やや満足した（31.0%）」で好評であ

った。また感想には「ふすまにさまざまな意味が込められていて、日本ならではの文化を今後もつなげたい」「日本の建築っていいですね。日本文化がこんなによいものとは知らなかったので、参加して良かったです」「地域振興、地域再生についてもっと詳しく活動している人の話を聞いてみたい」「ユニバーサルデザインに関して、あまり知識も持っていないくて、初めは正直聞くだけだったのですが、聞いているうちに徐々に面白くなって、多くの知識を得ることができました。これから、外に出るときはところどころのユニバーサルデザインを探してみようと思います。」などが記載され、講演は大変に意義深い内容であった。中には「聴衆参加型」「晴れの国鬼ノ城カレッジ」というものをもっと多くの人を知れるようにしてほしいです」などの意見が寄せられていた。今後の検討課題としては、地域からの一般の参加者を増やすこと、実施時期や広報活動のあり方を見直すこと、参加者の属性の多様性に配慮し、企画内容を検討することである。

4. 4-2 各種研究会活動

(1) 地域看護学研究会

① 概要

本研究会は、地域看護の実践現場で遭遇する課題を研究的な視点から捉え、地域看護従事者の実践力を高めることを通して、地域の人々へのより適切な支援に資することを目的としています。

今回は、社会的環境の質改善とセルフ・ネグレクトとの関係について、ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例等をもとに、地域看護従事者の役割や効果的な介入・評価等について学修します。

② 実績

	日時・場所	テーマ	話題提供者	参加者
第1回	平成28年3月5日(土) 保健福祉学部棟6316 13:00~15:00	セルフ・ネグレクト の人への支援 ～ゴミ屋敷・サービス拒否・孤立事例への対応と予防～	東邦大学 看護学部教授 岸 恵美子	12名

③ 今後の展望と課題

本年度は、1回の実施となったが、高齢者等のひきこもり、孤独死等の学識経験者を招聘して地域看護の視点から、セルフ・ネグレクトについて理解を深めることができたので、今後、福祉関係者等との連携協働に資することが期待できる。次年度は、さらに発展できるよう、会員等の実践事例を通して年2回はとりくみたい。

(2) 栄養学研究会

① 本年度の目標

栄養士・管理栄養士は、食に関するプロとして病院、行政、学校、保育所や高齢者等の福祉施設、地域活動栄養士、教育研究機関など多くの分野で活躍している。新しい情報をいち早く入手し、正し

い知識を持って指導に当たることなど常に自己研鑽が必要である。そこで当栄養学研究会は、社会的ニーズが高く、幅広い内容を学ぶ機会を作るとともに会員間の情報交換の場として、また、大学生にも実践や経験を共有できる場としている。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	6月13日(土) 岡山県立大学 保健福祉学部 6101講義室	「災害時の食事情～二度の震災体験から～」	岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 内科学教授 入江康至	演者は阪神大震災と東日本大震災の二度被災した経験を基に講演された。震災後の栄養・食事に関する相違点を比較しながら、管理栄養士としての役割や、被災地における管理栄養士の活動についての実際を講演いただいた。被災地では、管理栄養士は、保健師、看護師、医師、薬剤師等とのチームでケアにあたるのが特に重要になることを知った。	17名
第2回	6月13日(土) 岡山県立大学 保健福祉学部 6101講義室	「給食における備蓄食品の利用法あの手この手」～α化米の調理法の検討	岡山県立大学 保健福祉学部 栄養学科 講師 田淵真愉美	岡山県内の医療施設の備蓄状況の調査の結果、備蓄保有施設は約半数で、岡山県の防災意識の低さが露呈した。備蓄食品の管理には保管場所、在庫処理方法、経済的問題等、上層部の考え方も大きく関与する。今回はα化米を災害時においしく食べるための標準化調理マニュアルの必要性が判明し、今後検討していく予定であるとのことであった。	17名
第3回	9月5日(土) 岡山県立大学 8901講義室	「眠りの脳科学 早寝早起き朝ごはん 元気もりもりやる気ぐんぐん 笑顔ニコニコ 栄養指導に行かず眠りの知識」	川崎医療福祉大学 医療福祉学部 臨床心理学科 教授 保野孝弘	眠りと目覚めのリズムについて科学的にわかりやすく解説され、生物時計については遺伝子レベルで研究が進んでいる。エビデンスを踏まえ夜更かしの影響、食事、食欲とリズム、ホルモンとの関係について楽しくクイズを交えながらの講演であった。多くの学生が受講しており、自分の生活状況に照らし、少しでも学生生活の乱れが改善の方向へ向かうとよいと思われた講演であった。	118名
第4回	11月14日(土) 岡山県立大学 8206大講義室	【鬼の城カレッジとの共催】 「復興と再生に生きる、日本文化とユニバーサルデザイン」	細山UD-Unit 代表 細山 雅一	福島の復興と再生の実情と課題などを交えながら日本の文化を丁寧な解説された。そこにはユニバーサルデザインとしての工夫や新しい発見もある。特に避難時の仮設住宅における個人の空間の役割、重要性、仕切りとしての日本文化の障子の役割についてはとても印象に残った。障子は光を透す。人の気配を感じることができる物である。ぬくもりのある空間である。しかし気配は感じるが形は目には入らない。気配を感じるという人とのつながりとしての障子の役目はすばらしいものがある。ということに感動を覚えた。	6名

第5回	12月5日(土) 岡山県立大学 保健福祉学部 6117 講義室	「イモ類の調理科学と食文化」	岡山県立大学 名誉教授 渕上倫子	イモ類について科学的な視点からご講義いただいた。イモの種類は豊富で、普及の歴史から世界中での栽培の分布や供給量、食べ方の違いがあることを知り、それが様々なイモを食べる文化となっていることを学んだ。とくに日本でよく食べられるジャガイモ、サツマイモ、里芋、ヤマイモについて、性質や栄養について分析し、適した調理法が見いだされ、それぞれのイモに代表的な料理となって我々の生活に定着していることを知った。	18名
-----	--	----------------	------------------------	--	-----

③ 今後の展望と課題

栄養学研究会の必要性は会員からの声も多く、テーマ、日程によっては参加者が非常に少ない会があった。このことを踏まえ、次年度からのテーマの設定、開催日時等については会員の意見を取り入れて計画を立てたい。また、卒業生のリカレント教育としての役割も兼ねる内容が多いことから、今年度卒業生に当研究会への入会を募り、専門職として、レベルアップを図り、現場で能力を発揮できるような研究会としたい。

今後は専門職の情報交換の場としても、この研究会の役割を検討し具体的に展開したい。そして社会のあらゆる場面で栄養士・管理栄養士のニーズが高まることを目標に、日々研鑽を重ねていきたい。

(3) 保健福祉研究会

① 概要

保健福祉研究会は、これまでの「社会福祉研究会」の名称を変更し、広く保健福祉領域に関心のある研究会会員を募集することで、人々の「健康」と「福祉」に関わる保健福祉領域（関連・隣接領域を含む）の専門職の人々を対象に、実践現場での現状や課題を整理しながら研究的な視点から検討することをねらいとしている。特に、実践現場で発生している課題（臨床疑問）を手掛かりとして、それを研究へと発展させる過程の中で、「実践」と「研究」の架け橋となるような研究会の運営を目指している。

本年度は、臨床疑問から研究疑問へと発展させるプロセスを中心に、保健福祉学的な視点からみた研究の進め方、研究事例の紹介、研究計画の方法など、計4回のミニ講義を実施した。また、会員相互の交流を図る中で関心の高い研究テーマを模索し、そのテーマについてグループワークを行いながら、研究会会員間での情報共有を図った。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	8月1日(土) 学部共通棟(東) 8901教室	現場で活かす 研究の進め方 Part.1	岡山県立大学 保健福祉学部 桐野匡史	実践者(現場)と研究者(理論)の立場の違いを尊重しながらも、クライアントの抱える問題が複雑化する中で「どうやるか(How to)」から「なぜそうなるか(Why)」を考える研究の必要性と、臨床疑問と研究疑問の関係について講義が行われた。	9名(会員7名・非会員一般2名)
第2回	10月17日(土) 学部共通棟(東) 8901教室	現場の疑問を 明らかにする ための研究	岡山県立大学 保健福祉学部 周防美智子	実践現場で生じた疑問(臨床疑問)をどのようにして研究疑問へと発展させるのかについて、具体的な研究事例の紹介が行われた。その後、グループワークを通じて、現在実践現場で生じている現状や課題についての討論が行われた。	7名(会員)
第3回	12月19日(土) 保健福祉学部棟 6614教室	脳から見た社会	岡山県立大学 保健福祉学部 澤田陽一	脳科学/心理学/社会科学の視点から、脳から人の社会的行動を捉えることの意味と必要性について講義が行われた。その後、実験計画の視点から、独立変数、従属変数、交絡要因を位置づけるための講義と演習が行われた。	3名(会員)
第4回	1月30日(土) 保健福祉学部棟 6614教室	現場で活かす 研究の進め方 Part.2	岡山県立大学 保健福祉学部 桐野匡史	研究疑問をさらに発展させるために、研究レビュー、概念と測定、概念モデルの構築の方法と留意点について、いくつかの事例を踏まえた紹介が行われた。その後、グループワークでは、概念モデルの構築についての討論が行われた。	4名(会員)

③ 今後の展望と課題

本年度は、当初の計画通り、保健福祉学的な視点から見た研究の進め方(臨床疑問から研究疑問へと発展させる過程)を中心に、研究事例の紹介も交えて研究会会員相互の交流を図ることができた。

来年度は、研究会会員の要望を踏まえ、グループワークの中でも特に関心の高かった研究テーマについて、研究計画を立案し、調査研究等の実施に向けた準備等に取り組んでいきたい。また、本研究会が研究会会員のみならず、広く保健福祉領域の専門職を対象とした情報交換や学びの場としてもその役割を果たせるよう、卒業生や多領域の専門職の参加を促せるような企画・運営のあり方についても検討していきたいと考えている。

(4) 介護福祉研究会

① 概要

第一回：谷口 敏代 教授より、実現化しつつあるキャリアプランの詳細と、現場の施設高齢者介護が量と質の両面共にその供給体制が危機的状況にあること、及び介護福祉士養成施設校の大幅な定員割れが続いており（充足率 54.0%）人材確保が喫緊の課題であるとの説明を受ける。参加者からは「時間に追われて質の高い介護ができない」、「個別ケアを考える時間がない」、「学校で習ったことと現場のギャップが大きい」等々深刻な介護福祉士の抱える課題が明かにされた。

第二回：有料老人ホームいずみの里 施設長より看取りケアに関する講話がされた。私達のほとんどが年をとって施設に入りたい、介護を受けたいという希望があるわけではなく、その上で、様々な理由から施設に入らなければならなかった高齢者に対し、介護福祉職が何を目指し、どのような理念の下で看取りケアを行っているのか、現場の取り組みについて説明があった。講話では、実際に看取りを行った事例から利用者、家族の想いについて一つ一つの事例にエピソードがあり、「その人らしさ」を支える為に施設が行ってきたケアの紹介がされた。参加者からは、①看取りケアに関わった新人職員へのフォロー、②看取りケアにおける介護福祉職員と他職種との連携のあり方等々の質問があり、施設長より実際に（看取りを）体験することの重要性、自分の気持ちを表出することの大切さ、暮らしの場の中での生活モデルの支援展開（利用者を中心におく）といった考えの下、看取りケアを行っているとの回答があった。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	10月3日(土) 10:00~12:00 学部共通棟北 8901 教室	「介護福祉士の最近の動向」	保健福祉学部 保健福祉学科 谷口 敏代 教授	今後も要介護高齢者が増加し、認知症高齢者、単独或いは夫婦のみの世帯が増加し、介護の多様化、専門化が求められている。現在、或いは将来に於いて、介護の量と質の両面共に日本の社会的介護供給体制は危機的状況にある。近年介護福祉士養成施設の大幅な定員割れが続いており（充足率 54.0%）、また介護職の平均離職率も 16.5%である（高率であると一般に評価されている）。その結果、介護の質の低下が現実起こりつつある。この状況にあつて介護人材の確保は喫緊の課題であり介護職の組織体制、キャリアプランの構築が今実現化しつつある。それが日本介護福祉士会から提案されている「認定介護福祉士」である。	17名（研究会：4名、会員外：13名）

第 2 回	12月5日(土) 10:00~12:00 6310 講義室	「地域から死が 消えている」	角 孝司 (有料老人ホー ムいずみの里 施設長)	私達のほとんどが年をとって施設に入りたい、介護を受けたいという希望があるわけではない。しかし様々な理由から施設に入らなければならなかった高齢者に対し、介護福祉職が何を目指し、どのような理念の下で看取りケアを行っているのか、現場の取り組みについて説明があった。講話では、実際に看取りを行った事例から利用者、家族の想いについて一つ一つの事例にエピソードがあり、「その人らしさ」を支える為に施設が行ってきたケアの紹介がされた。質疑応答では、看取りケアに関わった新人職員へのフォローについて、介護福祉職として人間の死に携わる怖さに対する助言について、看取りケアにおける介護福祉職員と他職種との連携のあり方について質問がされた。	16名(研究会:3名, 会員外:13名)
第 3 回	3月19日(土) 10:00~12:00 8126AV室	認知症の介護	藤井保人 佐藤ゆかり 川西美里	(1) 報告者: 藤井保人准教授 「認知症の病理」 (2) 報告者: 佐藤ゆかり准教授 「認知症の介護」 (3) 報告者: 川西美里氏(特別養護老人ホーム シルバーセンター後楽 介護福祉士) 「現場からの報告」 (4) 質疑応答	11名(研究会:3名, 会員外:8名)

③ 今後の展望と課題

平成25年の改正では「介護は施設から在宅へ」と180度の方向転換をし、施設介護から地域介護へ大きく舵が切られたにもかかわらず、「介護離職を減らす」を目的に施設介護に逆戻りするかに見える昨今の介護事情。来年度は法的に何が作られるのか、追加されるのか、現場はどう変わるのか、これまでの日本の介護の様々な課題はどう変容するのか。先の見えない介護業界を、来年度の4月の時点で最も深刻な課題を捉えて研究会のテーマにする予定である。

(5) 子どもと保育研究会

① 概要

子どもと保育研究会は、子どもの育ちをめぐる諸問題や保育の動向・方法・技術など、幅広く多彩な切り口から本学教員と現場実践者による保育・子育て支援のあり方を探求する研究会となることをめざしている。

今年度も教員が関与する学外の研究会と共催する機会を設けることに加え、関連する学会・講演会等の情報提供も実施した。

② 実績

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第1回	1月9日(土) 就実 こども園	「父親の育児参加を考える」	就実大学 柏まり 岡山県立大学 佐藤和順	岡山県内の子育て家庭を対象にした子育てアンケートの報告を踏まえ、岡山県の子育ての現状を理解するとともに、母親に集中している育児負担を軽減するために、家族や地域社会、保育施設が果たすべき役割について協議した。	41名
第2回	1月27日(水) 本学 8901 講義室	保育士に学ぶ 保育実践	太陽保育園 園長 小倉亨 保育士 服部啓子	総社市にある太陽保育園の概要と特色、各クラスの保育実践について紹介頂き、園長及び保育士というそれぞれのお立場から、保育の成果や課題、保育士や保育士養成に期待することについてお話し頂いた。	22名
第3回	2月7日(日) おかやま 西川原プラザ	パパから学ぶ 僕がイクメンになったわけ	岡山県立大学 佐藤和順 岡山県立大学 中野菜穂子	<アクティブキャンパス 子育てネットワーク交流集会2016 との共催> 父親の育児参画について、講演と県内各地で活躍中の「イクメン」・「イクボス」・父親支援を進める助産師の方々から活動の報告を頂き、父親の取り組みを支える取り組みについて協議した。	35名
第4回	2月18日(木) 本学 8901 講義室	子育て café	岡山県立大学 京林由季子	地域で子育て支援に関わる方々にお集まり頂き、利用者の子育てに関する不安や悩みについて支援者としてどのように対応しているか、グループワークを通して具体例の報告と実践上の課題について協議・発表した。	13名

③ 今後の展望と課題

今年度は、県内で開催された「岡山子育てネットワーク交流集会 2016」等との一部共催などにより、保育や子育て支援に関する多彩なテーマに取り組むことができた。

次年度は、まずは保育所や児童福祉施設等で保育士として地域で活躍する卒業生の参加を促し、本研究会が情報交換や学びの場として卒業後支援や保育者養成への還元ができるよう、研究会の開催方法や内容について引き続き検討したい。また、保育所保育士に加え、幼稚園教諭やこども園職員など、幅広い保育・幼児教育現場に会員登録を呼びかけることで、親子への支援を行う専門職の横のつながりの形成についても考慮していきたい。

(6) コミュニティ家族ケア研究会

① 概要

コミュニティ家族ケア研究会は、地域および学校における看護の実践および研究の発展と向上に努めるため、地域や学校で生活している子どもとその家族の心身の健康支援や、支援のための他職種間連携について検討し、支援の効果を測定して成果を公表することを目的として活動している。

平成25年までに、養護教諭と看護職の2職種のIPEにより養護教諭向けの摂食障害児と家族への保健指導プログラムの開発を行い、「摂食障害の子どもと家族ケア～保健室でできる早期介入～」改訂版パンフレットを作成、その評価としてアンケート調査を実施して、結果を全国学会で発表した。平成26年度以降は、それまでに実施した思春期女性の食と健康に関する調査について、飲酒と

月経、食行動と飲酒、月経痛と鎮痛剤服用、食生活習慣と自尊感情など様々な角度から分析し、全国学会で発表した。また、平成26年度より、研究成果の報告会を大学内で実施している。

② 実績

・第1回研究会

日 時：平成27年5月17日（日）12:30～

場 所：きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン

内 容：平成27年度研究発表学会の決定（日本思春期学会・日本アルコール関連問題学会・日本学校保健学会）研究の進捗状況報告、日本思春期学会へ登録する抄録の検討、自尊感情と生活習慣の分析について等。

参加人数：5名

・第2回研究会

日 時：平成27年6月28日（日）12:30～

場 所：きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン

内 容：日本学校保健学会へ登録する研究抄録の検討、担当者による研究の進捗状況報告。

参加人数：3名

・第3回研究会

日 時：平成27年9月6日（日）12:30～

場 所：きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン

内 容：日本思春期学会での発表報告、日本学校保健学会への参加について、平成27年度研修会の日程の検討、平成28年度の活動計画について等。

参加人数：4名

・第4回研究会

日 時：平成28年1月24日（日）10:30～

場 所：岡山県立大学保健福祉学部棟

内 容：平成27年度研修会

研究報告

「女子高校生の食行動と飲酒に関する研究」「女子高校生の月経痛と鎮痛剤服用の実態」

「女子高校生の生活習慣と自尊感情」「高校生の性に関する意識調査」

講演

「妊娠適齢期の健康教育について考える～大学生の妊娠適齢期に関する知識と意識調査結果から～」

意見交換

参加人数：7名

・第5回研究会

日 時：平成28年2月20日（土）12:30～

場 所：きらめきプラザ6階 ウィズセンター内サロン

内 容：議題、アンケート調査内容の検討、次年度役員について、今年度活動報告、次年度活動計画

参加人数：4名

・第6回研究会

日 時：平成28年3月1日（火）14:00～

場 所：岡山県立大学保健福祉学部棟

内 容：平成28年度の研究計画の検討、平成28年度の役員と役割の検討等

参加人数：4名

③ 今後の展望と課題

次年度は、思春期の性の健康支援を主なテーマとして、高校における新たな研究活動を始めるための準備や研究会主催の研修会を開催するなど、引き続き地域や学校で生活している子どもとその家族の支援のための多職種間連携について検討したい。また、現在の会員は看護職が養護教諭に比べて多く、2職種のIPEを促進するためには、養護教諭の会員を増やすことが継続課題である。

(7)岡山医療安全研究会

① 概要

本研究会は、研究会の開催、研究活動、会員相互の緊密な交流及び情報交換をとおして、地域の医療安全の推進に努めることを目的とした研究会である。

平成27年度はインシデントレポートを年間テーマとして、第6回岡山医療安全研究会と第7回岡山医療安全研究会を開催した。

第6回研究会は、「インシデントレポートを活かす！」をテーマとして、内田宏美氏（島根大学医学部看護学科教授）、丸山雅道氏（岡山大学病院医療安全管理部 GRM・看護師長）、鈴木佳世子氏（獨協医科大学病院 看護師長）、斉藤美保氏（長崎大学病院安全管理部 看護師長）を迎え、シンポジウムを開催した。参加者は197名と、会場に入りきれないほどであった。参加者からは、他施設のインシデントレポートの活用方法を学び、自施設で活かしたいなどのコメントが寄せられた。

第7回研究会は、「RCA（Root cause analysis）分析を学ぶ！」をテーマとして、丸山雅道氏（岡山大学病院医療安全管理部 GRM・看護師長）を講師に、初心者を対象にインシデントレポートの分析方法を学ぶ研修会を開催した。なお、この研究会は、公益財団法人川崎医学・医療福祉学振興会の平成27年度助成金によって開催された。

② 実績

	日・場所	テーマ	講演	内容	参加者
第一回目	9月26日(土) 13:00～16:30 岡山国際交流センター(イベントホール)	「インシデントレポートを活かす！」	基調講演： 内田宏美氏(島根大学医学部看護学科・教授) シンポジウム： 丸山雅道氏(岡山大学病院・GRM、看護師長) 鈴木佳世子氏(独協医科大学病院・看護師長) 斉藤美保氏(長崎大学病院・看護師長)		197名
第二回目	3月19日(土) 13:00～16:30 岡山国際交流センター(レセプションホール)	「RCA分析を学ぶ！」	丸山雅道氏(岡山大学病院・GRM、看護師長)	RCAの概要と実施についての講義の後、グループワークにより、事例をもとにRCAの展開演習を行った。最後に、代表グループが成果を報告した。 (「公益財団法人川崎医学・医療福祉学振興会の平成27年度助成金により実施」) 177名の応募者の中から、各施設1～2名の条件とし、計64名の方に参加して頂きました。 今回参加できなかった方に対して、H28年度中に、同じ内容の研究会を開催する予定にしています。	64名

③ 今後の展望と課題

平成28年度は、医療事故調査制度をテーマとして、研究会を2回開催する予定である。研究会の開催については実績を重ねてきているが、研究活動と会員相互の緊密な交流及び情報交換については今後どのように取り組んでいくかという点が課題であり、平成28年度は研究活動に着手する予定である。

(8)メンタルヘルス研究会

① 概要

岡山県内の社会福祉・教育現場のメンタルヘルスの現状に関する情報の共有と関係者のネットワーク構築をねらいとして、社会福祉・行政・教育関係機関の職員、保護者、学生を対象に、研修会の開催および調査研究の支援を行う。

② 実績

(ア) スヌーズレン歌声広場(会場 県立大学 チュッピー広場)

- 第1回 5月23日 学生3名 子ども6名 保護者3名 関係者1名 教員2名
- 第2回 7月25日 学生3名 子ども7名 保護者3名 関係者1名 教員2名
- 第3回 9月12日 学生2名 子ども5名 保護者2名 関係者1名 教員2名
- 第4回 10月17日 学生21名 子ども7名 保護者4名 関係者20名 教員2名

第5回 12月12日 学生1名 子ども11名 保護者10名 関係者1名 教員2名

第6回 2月20日 学生1名 子ども13名 保護者6名 関係者1名 教員2名

(イ) 研修会「音楽で世代間交流」(会場 総社市内の放課後児童クラブ)

市民の音楽ボランティア「アンサンブル総社」と連携して、総社市内の学童クラブ児童の余暇活動支援をねらいとして、年3回実施した。のべ参加児童数は約170名であった。

第1回 8月16日 学生6名 子ども30名 ボランティア10名 職員3名 教員1名
(総社中央小学校)

第2回 12月25日 学生8名 子ども70名 ボランティア13名 職員3名 教員2名
(総社中央小学校放課後児童クラブ)

第3回 12月25日 学生8名 子ども70名 ボランティア13名 職員7名 教員2名
(総社北小学校放課後児童クラブ)

③ 今後の展望と課題

本年度も昨年に引き続き、事業の目的等を関係機関に周知し、年度前半の実施を目指した結果、5月からの実施となり、スヌーズレン歌声広場は6回の開催、研修会「音楽で世代間交流」は3回の実施となった。参加者が増加するとともに、子どもの年代や発達段階等が拡大している。多様な発達段階の子どもと父親を含む保護者のニーズに対応するプログラム開発が必要である。また、プログラムの充実のためには、親の会、ボランティア団体、教育機関等と連携した実施体制の構築が課題である。



「人と人がつながるコンサート」



「音楽交流活動」



「スヌーズレン歌声広場」

(9) エンド・オブ・ライフ・ケア研究会

① 概要

エンド・オブ・ライフ・ケア研究会は、参加者自身の看護実践能力を高め、患者・家族に質の高い緩和ケアやエンド・オブ・ライフ・ケアを提供することができることを目的に平成25年10月に発足した。平成27年度は、臨床看護師を中心にがん化学療法・緩和ケア認定看護師や教員を参加者とし、エンド・オブ・ライフ・ケア（最後の日々の痛みや苦しみが十分に治療され、本人が望むとおりにすごせるように支援する）に関する基本事項を網羅的に学習したうえで、補完代替療法、介入困難事例の検討、研究発表を実施している。

② 実績(登録会員 23 名)

	日・場所	テーマ	講師	参加者
第1回	6月13日(土) 本学 6301	オリエンテーション・質的研究の分析の 実際	岡山県立大学 名越恵美	4名
第2回	7月11日(土) 本学 6405	壮年期のエンド・オブ・ライフ・ケア	岡山県立大学 名越恵美	6名
第3回	8月1日(土) 本学 6405	外来がん化学療法を受けるがん患者に 関わる看護師の意思決定支援プロセス	松田病院 がん化学療法 認定看護師 門倉康恵氏	6名
第4回	9月12日(土) 本学 6405	悲嘆・喪失への看護	岡山県立大学 井上かおり	9名
第5回	11月14日(土) 本学 6405	補完代替療法ーアロマセラピーー	同仁病院 リエゾン看護師・ アロマセラピスト 川合静代氏	11名
第6回	12月12日(土) 本学 6405	研究計画書について	岡山県立大学 名越恵美	3名
第7回	1月23日(土) 本学 6405	研究発表	川崎医科大学附属 川崎病院 塩田真実 旭東病院 八木一江	13名
第8回	3月5日(土) 本学 6405	症状マネジメント 来年の予定について	岡山県立大学 名越恵美 岡山県立大学大学院 山形真由美	10名



第5回研究会の様様

③ 今後の展望と課題

来年度は、補完代替療法の紹介や高齢化社会を見据えての在宅看取りについての学習会を企画したい。本研究会は登録者数の増加が今後の課題である。また、参加者の学習ニーズを把握し、ともに学べる場となるように企画内容を考えたい。

(10)看護事例研究会

① 概要

平成25年から、患者へのかかわり方に解決志向アプローチを用いた効果について、認定看護教育センターの修了生を中心に、多施設で共同研究を行っている。今後各施設で継続して、その効果について共有し、新たなかかわり方を工夫する場として、事例検討会を活用する予定である。臨地実習の事例やかかわりがこんな事例について検討し、事例分析を通して、看護のあり方を検討する。面接の基本としている解決志向アプローチについて、専門家の講義を聞き、実践に活かす力を養うことを目的とする。

② 実績

回数	月日	場所	内容	参加者数
1	4月24日	県立大学	事例検討	5
2	5月27日	県立大学	事例検討	5
3	6月26日	県立大学	事例検討	6
4	7月23日	県立大学	事例検討	18
5	9月26日	県立大学	事例検討	5
6	11月27日	県立大学	ケアリングを用いた実習指導のあり方	3
7	1月21日	県立大学	事例検討	4
8	2月20日	第一セントラルビル	解決志向アプローチを使った面接	20

③ 今後の展望と課題

事例を振り返ることで、病態の確認や看護ケアの見直しが行え、今後の看護ケアに実践に繋げることができる有意義な検討が行えたと考える。しかし、今年度の事例検討会への参加者が学内の教員と学生に限られていたために、看護ケアに活かすことはできなかった。今後は実習施設の指導者や卒業生の参加を促すことで、事例検討が看護ケアの改善に繋がることが期待できる。

4.4-3 一日保健福祉推進センター

(1)概要

保健福祉推進センターでは、センター業務の一環として、担当教員が県内各地に出向き、県立大学が有する保健福祉分野の知識・技術等を直接地域の専門職や地域住民に幅広く提供して、健康づくりに役立てていただくために「一日保健福祉推進センター」事業を実施している。

(2)実績

平成 27 年度は、保健、福祉、看護、栄養の各分野にわたり計 7 回実施した。

	日・場所	テーマ	講師	内容	参加者
第 1 回	7 月 14 日 (火) 14:00～15:00 松田病院 講義室 (玉野市)	「呼吸器ケア ワンランクアップのコツ」	保健福祉学部 看護学科 教授 高橋徹	松田病院に勤務している看護師を対象に、呼吸器疾患のアセスメントについて教授した。アセスメントの基本となる咳嗽、喀痰、呼吸困難、視診、触診、打診について概説した後、聴診器を使って行う聴診について肺胞音の聞き分け方について述べた。さらに、最近、呼吸器疾患アセスメントの基本機器として使用されているパルスオキシメーターの使用法、アセスメントについて説明した。	10 名
第 2 回	10 月 8 日 (木) 17:00～18:30 倉敷中央病院	「看護研究のまとめ方」について	保健福祉学部 看護学科 准教授 實金 栄	倉敷中央病院より、平成 27 年度看護研究発表会での講演依頼を受けた。	52 名
第 3 回	11 月 8 日 (日) 11:00～12:00 恵風会(岡山市)	「認知症の理解と認知症予防」	保健福祉学部 保健福祉学科 教授 谷口 敏代	スライド (パワーポイント) を使用し、主な認知症の原因疾患と主要な症状、第 1 次予防である運動や食事、日々の生活と認知症の関係について説明した。	施設利用者の家族 30 名 職員 20 名
第 4 回	12 月 10 日 (木) 10:00～12:00 特別養護老人ホーム 天神荘		保健福祉学部 保健福祉学科 教授 谷口 敏代	スライド (パワーポイント) を使用し、それぞれの職種を理解し、働きやすい・働きがいのある職場を作る目的で講演を行った。主な内容は、組織における人材育成、職員間のコミュニケーション、中堅職の役割、年上の部下への指導方法、アサーショントレーニングである。	18 名
第 5 回	2 月 10 日 (水) 12:30～13:30 水島中央病院	術前・術後訪問と術中看護計画	保健福祉学部 看護学科 教授 高橋 徹	水島中央病院に勤務する看護師を対象に、周手術期看護の向上を図るため手術前、手術中、手術後の患者の看護について講演を行った。特に、今回は術前看護に力点をおき、患者さんが安心して安全に手術を受けるために、1. 患者の手術前の精神的不安をいかに取り除くか、2. 手術に影響を及ぼす生活習慣病に対する管理・評価を如何にするか、3. 検査値によらないフィジカルアセスメントの大切さについて講義した。	20 名
第 6 回	2 月 22 日 (月) 14:00～16:00 岡山県備北保健所	「糖尿病の発症予防と重症化予防について」	保健福祉学部 栄養学科 准教授 平松 智子	高梁市の市役所、病院、保育所等に勤務する管理栄養士を対象に高梁市の現在抱える糖尿病問題を踏まえて、管理栄養士が、それぞれの立場で一次、二次、三次予防における糖尿病対策に取り組むための基礎知識、スキルアップの方法についてパワーポイントを用いて 90 分間講義した。その後、参加者とのワークショップを 30 分間行った。	14 名
第 7 回	3 月 26 日 (土) 8:30～17:00 倉敷中央病院	平成 27 年度看護研究発表会	保健福祉学部 看護学科 教授 高橋徹 准教授 井上幸子	倉敷中央病院勤務の看護師が部署ごとに、1 年間かけて行なった種々の看護領域における質的研究、量的研究、観察研究、介入研究など、計 23 演題の発表が行われた。発表終了ごとに、研究の優れた点、疑問点、問題点、今後の課題などについてコメントすることにより、倉敷中央病院の看護研究のさらなる発展の一助となるよう努めた。	80 名

(3) 今後の展望と課題

本年度も昨年に引き続き早期から事業の目的等を幅広く周知し、年度前半の実施を目指した結果、7月からの実施となり、7回の開催となった。実施分野は看護学領域・保健福祉学領域・栄養学領域で実施された。来年度は引き続き早期から県内全域にむけて事業の目的等を幅広く周知するとともに保健福祉推進センターで実施可能な内容等も広く伝えることで、実施分野が多岐にわたるように、また地域住民に対する開催機会の増加につなげていくことが必要である。

4. 4-4 岡山県立大学子育てカレッジ

(1) 概要

大学を核とした産・学・官・民協働による子育てカレッジは、岡山県独自の子育て支援の取組である。開設6年目となる今年度は、親子交流広場と授業との連携や親子交流のための企画を推進し、また専門的な学びの機会である「保育ステップアップ講座」、地域の子育て支援活動を支えるネットワーク研修会等を実施した。

(2) 実績

① 子育てカレッジの実施体制

子育てカレッジを保健福祉推進センターの事業に位置づけ、その運営は「県大そうじゃ子育てカレッジ実行委員会」が中心となって実施している。実行委員会は、本学教職員、地域子育て支援者、総社市、備中県民局、チュッピーひろば利用者等で構成され本年度は計5回の実行委員会を開催し事業の充実を図った。

② 子育てカレッジの取組内容

1. 大学の学生が参加して実施する親子交流等
2. 保育士、幼稚園教諭、その他地域の子育て支援サービスの提供者に対する質的向上の取組
3. 子育てや子育て支援に関する相談の実施
4. 子育てや子育て支援に関する情報発信
5. 子育て支援に関するボランティア・NPOや企業の活動への支援
6. 地域の子育て支援関係者の情報交換
7. その他子育て関連事項の調査等

③ 親子交流広場の設置

親子交流広場（チュッピーひろば）を週に1回程度、年間54回開設し、利用者は670組であった。またひろばと連携して栄養学科、保健福祉学科子育て支援コース及び子ども学専攻学生の実習や、授業成果発表会等を実施した。



○協働授業

日	テーマ	授業との関係	担当教員
6月17日(水) 6月24日(水)	おはなしの会 2015	「保育内容 I (言葉)」とひろばとの協働授業	樟本
8月5日(水)	子どものためのアートパフォーマンス 2015	「保育内容 I (音楽表現 A)」「体育 I」等とひろばとの協働授業 保健福祉学科子育て支援コース・子ども学専攻学生による授業成果発表会	岡崎 新山 樟本
9月2日(水)	チュッピーなつまつり	チュッピーひろば企画の事業に協力	新山
10月～11月	チュッピーひろばの参観	「保育内容 I (人間関係)」とひろばとの協働授業	京林
12月2日(水) 12月8日(火)	親子で楽しむミニクリスマス	「保育内容 I (人間関係)」とひろばとの協働授業	京林
1月12日(火)	チュッピーひろばでからだわくわく遊び	「授業(幼児体育)」とひろばとのコラボ企画	新山

ほか

○公衆栄養学実習 I

日 時：平成 27 年 7 月 7 日(火)、15 日(水)、22 日(水)

場 所：岡山県立大学学部共通棟(西)1 階 5128 遊戯室 (チュッピーひろば)、5127 会議室

内 容：ライフステージ別演習の一環として総社市の子育て支援事業の現状と母子の実態について学ぶため、子育てひろばのスタッフや参加している母親との交流を図った。

参加者：親子 20 組 (3 日間延べ)、栄養学科 3 年生 41 名

担 当：保健福祉学部栄養学科 久保田恵、井上里加子

○スノーズレン歌声広場

日 時：5 月 23 日(土)、7 月 25 日(土)、9 月 12 日(土)、10 月 17 日(土)、12 月 12 日(土)、2 月 20 日(土)

参加者：子ども 49 名、保護者 28 名、学生 31 名、教員 12 名、関係者 25 名

担当教員：保健福祉学科 岡崎順子、坂野純子

○学生相談室外壁面の着彩

日 時：平成 27 年 12 月 8 日 (火) 午前中

場 所：岡山県立大学学部共通棟(西)1 階 5131 学生相談室

内 容：学生相談室外壁面着彩へのひろば親子の参加

参加者：親子 5 組 10 名 デザイン学科 4 年生 2 名



④ 保育ステップアップ講座

子育てカレッジの取組内容 2 として、保育士、幼稚園教諭、その他の子育て支援者に対し、今日的なテーマや課題、現場の保育に直結する実践的な講座を大学内で開催した。

	日	テーマ	講師	参加者
第1回	平成27年 9月5日(土)	子どもの「やってみたい」を引き出す保育	就実大学教育学部初等教育学科 准教授 柏まり	31名
第2回	平成27年 9月26日(土)	「投げる」を楽しむ工夫あれこれ	岡山県立大学情報工学部 人間情報工学科 教授 高戸仁郎	20名
第3回	平成27年 10月3日(土)	もじ絵バッグをつくろう	岡山県立大学デザイン学部造 形デザイン学科 教授 野宮謙吾	15名

⑤ 子どもと保育研究会

保健福祉推進センターの各種研究会活動のひとつであるが、同時に子育てカレッジの取組内容6に位置づけ、地域で活動している子育て支援者等の情報交換と研修の場として研究会を実施した。
(詳細については、子どもと保育研究会の欄、参照)

⑥ 総社市委託:子育て支援者研修事業

総社市から委託を受け、親子支援および子育て支援者研修事業として下記の事業を実施した。

ア NP (ノーバディーズパーフェクト) プログラム

日 時：平成27年9月3日(木)、10日(木)、17日(木)、24日(木)、
10月1日(木)、8日(木)、平成28年3月3日(木) 計7日 毎回10:00~12:00
場 所：岡山県立大学 講堂内会議室
参加者：7名(延べ48名)、延べ託児数：73名、延べ学生ボランティア32名

イ 親子で楽しむ音楽会 ～0歳児からのコンサート～

日 時：平成27年11月23日(祝) 11:00~12:10
場 所：岡山県立大学 講堂
出 演：岡山フィルハーモニック管弦楽団
内 容：音楽および歌を通じた親子交流の大切さを伝えることを目的に、子育て中の母親や乳幼児対象の音楽会を開催した。チャイコフスキー作曲「白鳥の湖」より“情景”、ディズニーコレクションより「ミッキーマウスマーチ」や「ハイホー」、ジブリコレクションより「君をのせて」、「となりのトトロ」など、弦楽器の美しい響きや管楽器の豊かな音量による生き生きとしたオーケストラ演奏を鑑賞し、“みんなで一緒に歌いましょう”では、オーケストラ伴奏で「チュッピーでHappy」、「さんぽ」、「アンパン



マンのマーチ」などを歌のおねえさんたち（学生）と一緒に会場全員で歌い楽しんだ。

参加者：約 700 名

ウ 総社市子育て支援ネットワーク研修会

日 時：平成 27 年 9 月 18 日(金) 13:30～16:00

場 所：岡山県立大学 学部共通棟(西) 5108 講義室

内 容：「地域における子育て支援」

講 師：岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科 講師 周防美智子

参加者：18 名（10 団体）

⑦子育て中のママのためのダンス

日 時：平成 27 年 11 月 25 日（水）13：00～13:45、11 月 26 日（木）10：30～12:00

場 所：岡山県立大学学部共通棟(西)5201 教室(リズムダンス室)

内 容：コンタクト・インプロヴィゼーションの手法による交流とリラクゼーションを目的としたダンスワークショップを開催した。

講 師：勝部ちこ、鹿島聖子(C. I. co)

参加者：親子 12 組（25 日）親子 15 組（26 日）

(3)評価と来年度の課題

開設 6 年目の今年度は、産・学・官・民の協働による様々な取り組みが定着・深化した年といえる。中でも、大学構内に開設した「チュッピーひろば」の存在が「親子への支援」と「学生の学びの実践」の両面により有効に活用されてきたことは評価される。また「保育ステップアップ講座」は、多彩な講師陣によって現職者のニーズやタイムリーな課題に対応した講座を開催して好評であった。「親子で楽しむ音楽会～0 歳児からのコンサート」は乳幼児対象の希少な音楽会として盛況であり、経費面の問題も一部問題を有しながら昨年度からの有料化により継続的に実施したいと考えている。また「総社市子育て支援ネットワーク研修会」のように、地域の子育て支援活動を支える取り組みが子育てカレッジの場で行われることの意義は大きい。本年度より「おかやま子育てカレッジ」備中県民局管内ネットワーク会議等が開催され、本実行委員会よりも実行委員・学生が参加し、他大学と意見交換及び情報交換を行った。

今後は、地域貢献と学生の学びの「場」である「チュッピーひろば」への学生の更なる参加の推進と他大学との連携等を視野に事業展開する必要がある。

4.5 認定看護師教育センター

4.5-1 平成27年度の実績

当教育センターは、生活をデザインし軽やかに管理できるための技術や根拠を開発することができる質の高い糖尿病看護認定看護師の育成を目的として、平成23～27年度の5年間岡山県立大学地域共同研究機構に開設された。

(1) 履修生の実践力を養うための工夫

履修生のアセスメント能力の向上を目的として、看護過程の展開演習をカリキュラムに組み込んでいる。さらに、今年度はコミュニケーション技術の向上を目的として、模擬患者を用いたOSCEを実技試験として採用した。

(2) 教員の教育力向上のための努力

全国5か所の糖尿病看護認定看護師養成機関の専任教員が集まり、教育上の問題点を出し合い、情報を共有する研修会を平成25年3月から年1回開催している。平成27年9月の日本糖尿病教育・看護学会学術集会では、「チームを活性化させるちよとした方略」と題した交流集会を開催した。

(3) 地域貢献

保健推進福祉エンターと共同で、「糖尿病相談室」を運営している。「糖尿病相談室を大学に開設した現状と課題」と題して、平成27年9月の日本看護科学学会で報告した。

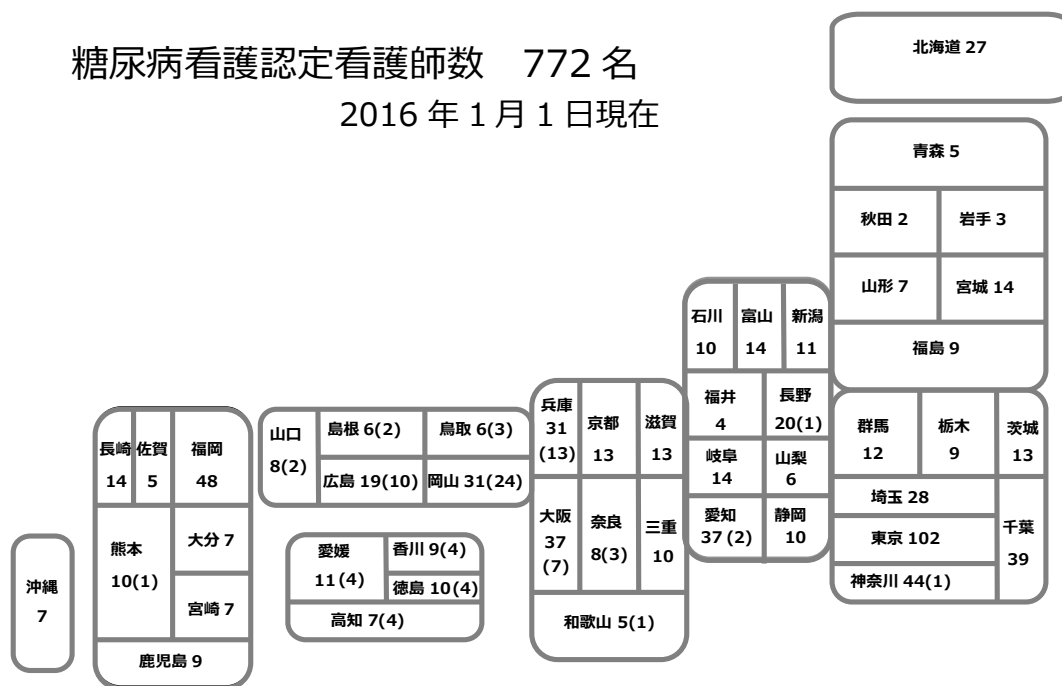
4.5-2 5年間の成果と今後の展望

(1) 認定看護師教育センターの成果

認定看護師教育センターは、県の要請を受け、(社)岡山県看護協会および山陽学園大学の協力・連携のもと、糖尿病看護分野の認定看護師教育課程を平成23～27年度までの5年の計画で開設された。当教育センターは平成23年度から27年度の5年間で、1期生23名、2期生23名、3期生26名、4期生19名、5期生17名、合計108名が修了し、現在89名が糖尿病看護認定看護師として活躍している。

	平成23年度 1期生	平成24年度 2期生	平成25年度 3期生	平成26年度 4期生	平成27年度 5期生
修了者数/入学者数 (岡山県内の履修生)	23/25名 (11名)	23/24名 (6名)	26/26名 (6名)	19/21名 (2名)	17/20名 (3名)
認定看護師審査合格者 数/受験者数	23名/23名	22名/23名	27名/27名	17名/19名	/17名
備考	退学：1名 休学：1名	退学：1名 留年：1名	退学：1名	退学：1名 留年：1名	退学：3名
合格率	100%	95.7%	100%	89.5%	*5月に受験

糖尿病看護認定看護師数 772 名 2016 年 1 月 1 日現在



()内数は本学修了者

平成 28 年 1 月現在、全国の糖尿病看護認定看護師は 772 名、平成 23 年には 2 名であった岡山県の糖尿病看護認定看護師は平成 27 年度に 31 名になり、東京、福岡、神奈川、千葉、大阪、愛知に次いで多い県となっている。

(2) 県内の修了生の活躍

岡山県の修了生は、岡山県生活習慣病対策推進会議糖尿病対策専門部会の委員、おかやま糖尿病サポーター研修会企画委員・ファシリテータ、糖尿病県民公開講座講師、健康応援出前講座講師の他、小児サマーキャンプ企画運営委員、日本糖尿病教育・看護学会主催 糖尿病重症化予防(フットケア)研修 ファシリテータを務めるなど、院内の認定看護師としての活動以外にも広く社会で活躍している。

(3) 修了生との多施設共同研究

1 期生を中心に「解決技法」を用いて面接を行い、その効果について検証している。平成 26 年の日本糖尿病教育・看護学会学術集会で、「初めて糖尿病と診断された患者への解決志向アプローチにより早期のつまづきを把握できた一例」、「糖尿病患者の面接に解決志向アプローチを取り入れて見えてきた課題」の 2 題を発表した。平成 27 年度には看護 QOL についての共同研究も開始している。

(4) 今後の展望

認定看護師の育成は、対象者から対価を得て専門家を育成する対等な立場での地域貢献活動であった。今後は、修了生のフォローアップを充実させるとともに、研修会の認定証を学長名で発行する等の支援を行い、認定更新のための単位が取得出来るように継続して支援を行う予定である。

岡山県内のコントロール不良の糖尿病患者、腎機能が悪い患者を対象とした「重症化予防」の試みに、健康保険協会岡山県支部、看護協会、医師会と共同してあらたな取り組みを行う予定であり、糖尿病看護認定看護師の参加が期待されている。本学では、糖尿病看護認定看護師や専門医と共同して、糖尿病患者が治療を継続できるような楽しい患者目線のプログラム作りに挑戦する予定である。



5. 外部資金

5. 1 平成 27 年度の実績

5. 2 科学研究費

5. 3 今後の課題

5.1 平成27年度の実績

本学の外部資金は、科学研究費、共同研究費、受託研究費、教育研究奨励寄附金等の4つに分類される。合計金額の平成19年度から平成27年度までの獲得実績は図1と表1のとおりで、平成27年度は平成26年度と比べて獲得件数は同数であったが、獲得金額は過去最高額を更新した。

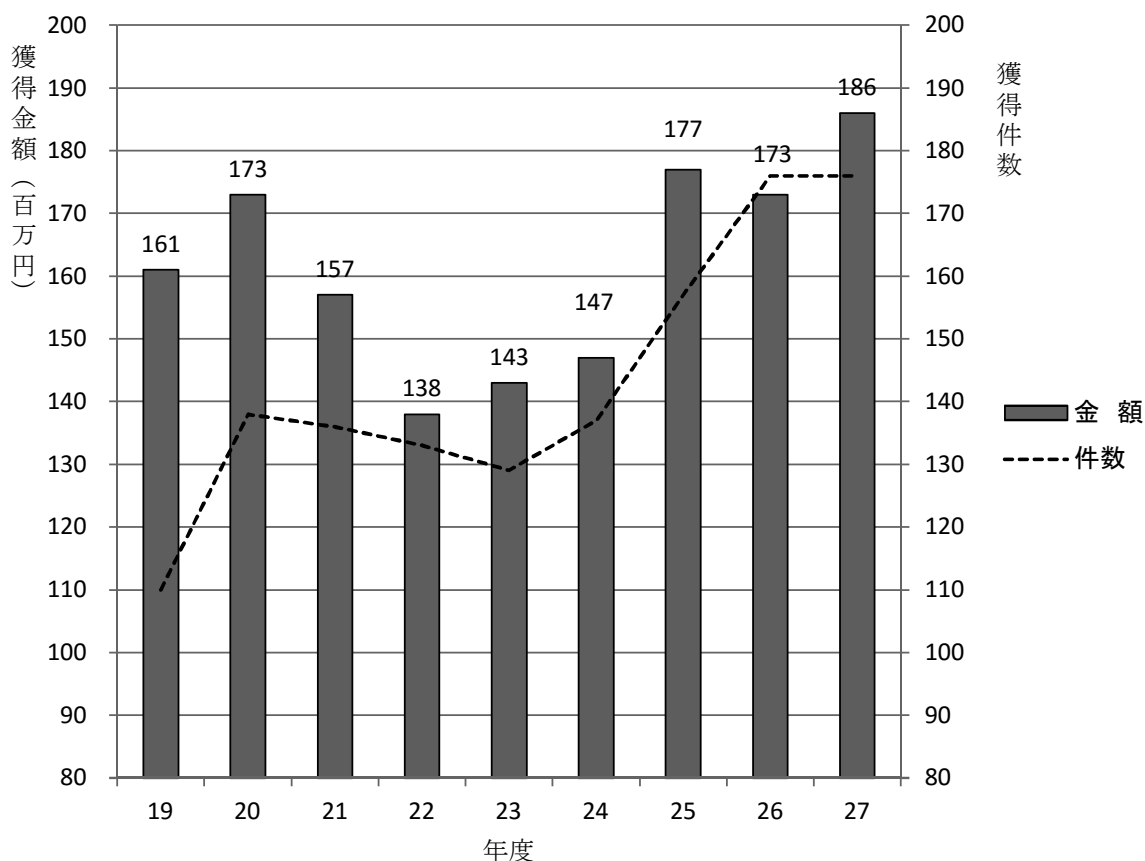


図1 外部資金獲得実績の推移

表1 外部資金獲得実績の推移（金額の単位は百万円、それ未満は四捨五入）

年度	19	20	21	22	23	24	25	26	27
件数	110	138	136	133	129	137	157	176	176
金額	161	173	157	138	143	147	177	173	186

外部資金の種類別のデータは表2のとおりである。

表2 外部資金獲得実績（金額の単位は千円で、千円未満切捨）

年度	科学研究費		共同研究		受託研究		教育研究奨励 寄附金等		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
19	34	73,725	23	11,575	21	61,499	32	13,782	110	160,581
20	39	84,503	31	12,100	38	62,248	30	14,636	138	173,487
21	35	67,376	31	12,125	45	67,397	25	9,639	136	156,537
22	42	70,110	33	13,490	26	39,027	32	15,427	133	138,054
23	47	73,177	24	8,338	26	40,633	32	20,873	129	143,021
24	51	84,727	32	10,288	26	35,514	28	16,012	137	146,541
25	57	87,100	38	20,928	23	43,923	39	25,453	157	177,404
26	55	90,381	42	24,536	29	32,592	50	25,787	176	173,296
27	57	82,917	47	32,035	27	52,959	45	18,263	176	185,788

表2の中で網掛けの部分で過去最高の件数と金額であるが、共同研究、受託研究が堅調な伸びを続けた。その反面、科学研究費については、平成26年度と比べて件数は増加したものの、獲得金額は減少した。

本年度の実績を第2期中期計画および平成27年度計画と比較すると表3のようになる。受託研究及び教育研究奨励寄附金等は平成27年度計画の目標に及ばなかったが、共同研究及び科学研究費の件数は目標を達成した。また、共同研究、受託研究及び教育研究奨励寄附金等の獲得総額については、平成27年度計画の目標を大きく上回り、中期計画の目標をも達成した。

表3 中期計画および年度計画の目標との比較（金額の単位は千円）

種別	中期計画		H27年度計画		現状	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
共同研究	40	16,000	44		47	32,035
受託研究	40	70,000	30		27	52,959
教育研究奨励 寄附金等	40	16,000	53		45	18,263
合計	120	102,000	127	87,000	119	103,257
科学研究費	90	124,000	57以上		57	82,917

5.2 科学研究費

科学研究費は図4のとおり、獲得件数は増加したものの、獲得金額は7,464千円減少していた。その要因として、日本学術振興会から1研究課題あたりに交付される研究金額が減少していることや、本学が保有している研究課題について、平成27年度は過去に比べて基盤研究の件数が減少していることが窺えた。

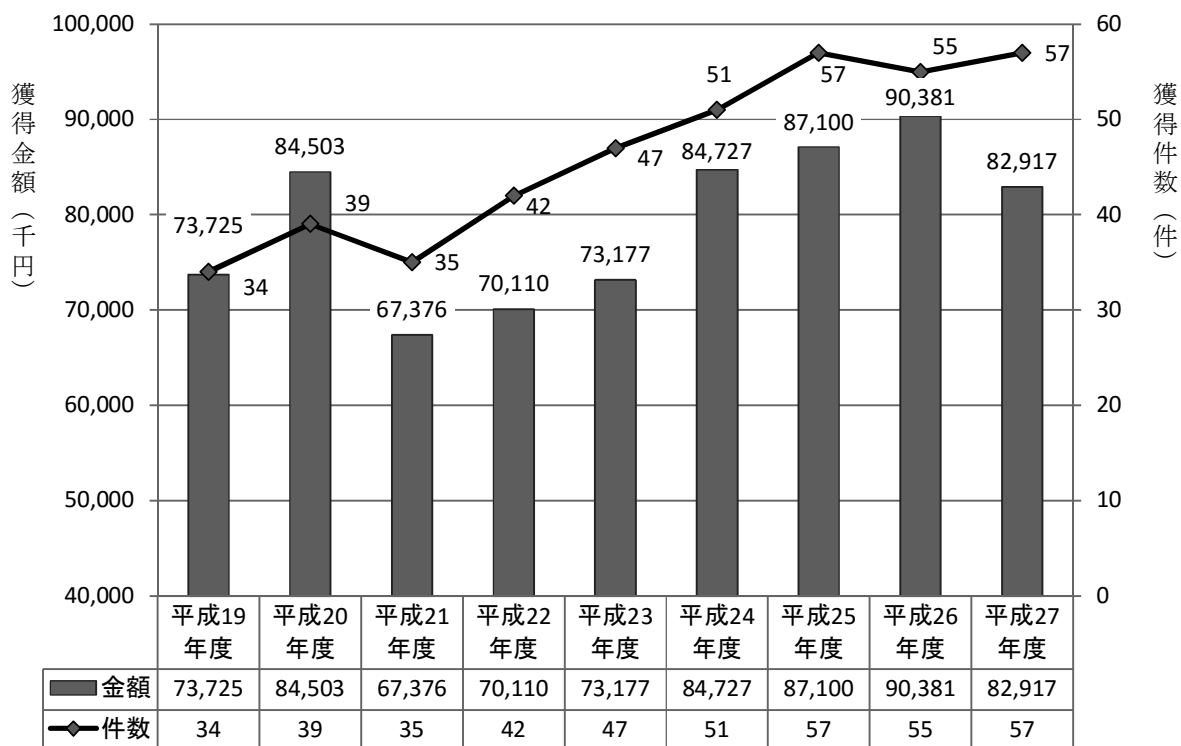


図4 科学研究費の獲得推移

5.3 今後の課題

これまで述べたとおり、共同研究、受託研究及び教育研究奨励寄付金等といった外部資金については、過去最高額を大きく更新したが、これは大型競争的資金の獲得によるものである。運営費交付金等の削減に伴う研究資金不足により研究の質を低下させないためにも、外部資金及び競争的資金の獲得をさらに進めるための環境づくり・組織づくりを今後も継続していく必要がある。

岡山県立大学 社会貢献年報 2015

発行日 平成 28 年 6 月

編集 岡山県立大学 地域共同研究機構

発行 岡山県立大学

〒719-1197 岡山県総社市窪木 111 番地

TEL 0866-94-2111

URL <http://www.oka-pu.ac.jp/>

印刷 友野印刷株式会社